Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- はじめに
- omhelp コマンドの使用
- omreport：Instrumentation Service（計装サービス）を使用したシステム状態の表示
- omconfig Instrumentation Service（計装サービス）を使ったコンポーネントの管理
- omconfig system または servermodule assetinfo：所有コスト値の編集
- Storage Management Service の使用
- CLI コマンド結果の使い方
- 用語集

メモおよび注意

メモ：メモには、コンピュータの操作に役立つ重要な情報が記載されています。

注意：注意では、ハードウェアの損傷やデータ損失の可能性があることを示し、その問題を回避する方法を説明しています。

このマニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。
© 2007 Dell Inc. All rights reserved.

Dell Inc. からの書面による許可なしにこのマニュアルを複写することは、いかなる方法によっても禁じられています。

このマニュアルで使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、PowerEdge、PowerVault、および OpenManage は、Dell Inc. の商標です。Microsoft、Windows、 Active Directory、および Windows Server は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。SUSE は、アメリカ合衆国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat および Red Hat Enterprise Linux は、Red Hat, Inc. の登録商標です。Intel、Pentium、Itanium は、Intel Corporation の登録商標で、Intel386 は、Intel Corporation の商標です。AMD、AMD Opteron、AMD-V、および AMD PowerNow! は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。VESA は、Video Electronic Standards Association の登録商標です。UNIX は、アメリカ合衆国およびその他の国における The Open Group の登録商標です。OS/2 は、International Business Machines Corporation の登録商標です。Rambus は、Rambus, Inc. の登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すために、その他の商標や社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、Dell Inc. が所有するものではありません。

2007 年 8 月

目次ページに戻る

omconfig system または servermodule assetinfo：所有コスト値の編集

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- 概要
- 取得情報の追加
- 減価償却情報の追加
- 延長保証情報の追加
- リース情報の追加
- メンテナンス情報の追加
- アウトソース情報の追加
- 所有者情報の追加
- サービス契約情報の追加
- サポート情報の追加
- システム情報の追加
- 保証情報の追加

概要

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドは、お使いのシステムの TCO を構成するパラメーター式の編集に役立ちます。本項では、**omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンド下でレポートおよび設定が可能なパラメータについて説明します。

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使用すると、設定可能なオブジェクトを統制する値を設定できます。**assetinfo** 設定機能の例にはシステム所有者の設定値、購入金額、有効なリース内容詳細、減価償却方式とレート、システムのロケーション、保証および延長保証期間、アウトソーシング詳細、およびサービス レベルの許諾書などがあります。

資産情報を追加するために必要なユーザーレベル

パワーユーザーとシステム管理者が資産情報の追加および編集を実行できます。

表 5-1. omconfig コマンドに対するシステムの可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用対象
omconfig	servermodule	モジュラシステム
	mainsystem	モジュラシステム
	system	非モジュラシステム
	chassis	非モジュラシステム

取得情報の追加

取得とは、企業によるシステム購入またはリースに関する事実を指します。**omconfig system assetinfo info=acquisition** または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** コマンドを使用して、システムの購入またはリースに関する詳細を追加します。表 5-2 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 5-2. omconfig system assetinfo info=acquisition/omconfig servermodule assetinfo info=acquisition

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=acquisition		
				costcenter=<テキスト>	システムを取得した企業名またはコード。
				expensed=yes | no	システムが特定目的、または研究開発部門や販売部門など、特定部署のための経費とされるかどうか。
				installdate=<mmddyy>	システムのインストール日。
				ponum=<数値>	システム代金支払いを承認した文書番号。
				purchasecost=<数値>	所有者が支払ったシステム代金。
				purchasedate=<mmddyy>	所有者がシステムを購入した日。
				signauth=<テキスト>	システム購入またはサービス コールの承認者名。
				waybill=<数値>	受け取った商品の貨物受領書。

取得情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を入力するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=acquisition** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
または
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。たとえば、**info=acquisition** に複数のパラメータ値を入力する場合、次の例を構文ガイドとして使用してください。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes costcenter=finance
または
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes costcenter=finance
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

減価償却情報の追加

減価償却とは、時間の経過とともに資産の価値を減らしていく計算方法です。たとえば、5 年間の耐用年数が期待されるシステムの減価償却は 年間 20 パーセントです。**omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** コマンドを使用して、お使いのシステムの減価償却の計算方法に関する詳細を追加します。表 5-3 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 5-3. omconfig system assetinfo info=depreciation/omconfig servermodule assetinfo info=depreciation

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=depreciation		
				duration=<数値>	システムが減価償却される年数または月数。
				method=<テキスト>	システムの減価償却計算に使用するステップと仮定。
				percent=<数値>	資産の価値切り下げまたは減価償却率（百分率）。
				unit=months | years	ユニットは月または年単位です。

減価償却情報を追加するためのコマンド例

減価償却パラメータの値を入力するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=depreciation** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
または
omconfig servermodule assetinfo info=depreciation method=straightline
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

延長保証情報の追加

omconfig system extwarranty または **omconfig servermodule extwarranty** コマンドを使用して、延長保証情報の値を設定します。保証は、製造元または販売店とシステム購入との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを識別します。延長保証は、当初の保証期限が切れた後に有効になります。保証の値の編集方法に関する詳細は、「保証情報の追加」を参照してください。

表 5-4 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 5-4. omconfig system assetinfo info=extwarranty/omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=extwarranty		
				cost=<コスト>	延長保証サービスにかかるコスト。
				enddate=<終了日>	延長保証契約の有効期限。
				provider=<プロバイダ>	延長保証サービスを提供する会社。
				startdate=<開始日>	延長保証サービスの開始日。

延長保証情報を追加するためのコマンド例

延長保証パラメータの値を提供するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=extwarranty** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

リース情報の追加

リースとは、指定期間中システムの使用料を支払うという契約です。システムの所有権は賃貸者に属します。表 5-5 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 5-5. omconfig system assetinfo info=lease/omconfig servermodule assetinfo info=lease

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=lease		
				buyout=<金額>	賃貸者からシステムを購入する場合支払う金額。
				lessor=<賃貸者>	システムのリースを提供する会社。
				multischedule=true | false	システム リースのコストが 2 種類以上の料金表によって計算されるかどうか。
				ratefactor=<因数>	リース料の計算に使用するファクター。
				value=<残差>	リース終了時のシステムの適正市場価格。

リース情報を追加するためのコマンド例

リースパラメータの値を入力するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=lease** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=lease** <「名前=値」のペア 2> 。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=lease value=4500
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=lease value=4500
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

メンテナンス情報の追加

メンテナンスとは、システムが正常に稼動し続けるように行う保守作業を指します。表 5-6 は、メンテナンス情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-6. omconfig system assetinfo info=maintenance/omconfig servermodule assetinfo info=maintenance

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=maintenance		
				enddate=<終了日>	延長保証契約の有効期限。
				provider=<プロバイダ>	メンテナンス サービスを提供する会社。
				startdate=<開始日>	メンテナンスの開始日。
				restrictions=<文字列>	メンテナンス契約でカバーされない作業。

メンテナンス情報を追加するためのコマンド例

メンテナンスパラメータの値を入力するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=maintenance** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=maintenance** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=maintenance startdate=012504
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

アウトソース情報の追加

アウトソースとは、システムの正常運転に必要な保守作業を別の会社に委託することです。表 5-7 は、アウトソース情報を追加するために有効なパラメータを表示しています。

表 5-7. omconfig system assetinfo info=outsource/omconfig servermodule assetinfo info=outsource

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=outsource		
				levels=<数値>	プロバイダが提供するサービスのレベル。
				problemcomponent=<コンポーネント>	メンテナンスを必要とするシステム部品。
				providerfee=<プロバイダ料>	メンテナンス料金。
				servicefee==<サービス料>	サービス料金。
				signauth=<名前>	サービスの契約者、または承認者。

アウトソース情報を追加するためのコマンド例

アウトソースパラメータの値を入力するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=outsource** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=outsource** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=outsource providerfee=75
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=outsource providerfee=75
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

所有者情報の追加

所有者はシステムの法的所有権を有する当事者を指します。表 5-8 は、所有者情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-8. omconfig system assetinfo info=owner/omconfig servermodule assetinfo info=owner

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=owner		
				insuranceco=<会社>	システムを保証する保険会社名。
				ownername=<会社名>	システムを所有する会社名。
				type=owned | leased | rented	ユーザーがシステムを所有しているか、リースか、レンタルかの分類。

所有者情報を追加するためのコマンド例

所有者パラメータに値を設定するときは、次の形式でコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=owner** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermoduleassetinfo info=owner** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=owner type=rented
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=owner type=rented
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

サービス契約情報の追加

サービス契約とは、システムの予防的なメンテナンス作業と修理にかかる手数料を指定する契約です。表 5-9 は、契約情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-9. omconfig system assetinfo info=service/omconfig servermodule assetinfo info=service

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=service		
				renewed=true | false	サービス契約が更新されたかどうか。
				type=<文字列>	契約でカバーされるサービスの種類。
				vendor=<会社名>	システムのサービスを提供する会社。

サービス情報を追加するためのコマンド例

サービスパラメータの値を提供するには、コマンドを次の形式で入力します。**omconfig system assetinfo info=service** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig system assetinfo info=service**<「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=service vendor=fixsystemco
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=service vendor=fixsystemco
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

サポート情報の追加

サポートとは、ユーザーがタスクを実行する際、システムの適切な使用に関するガイダンスを必要とする場合に、システムユーザーが利用できるテクニカルサポートを指します。表 5-10 は、サポート情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-10. omconfig system assetinfo info=support/omconfig servermodule assetinfo info=support

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=support		
				automaticfix=<プログラム名>	問題を自動的に解決するのに使用するアプリケーション名。
				helpdesk=<テキスト>	電話番号、電子メールアドレス、またはウェブサイトアドレスなどのヘルプデスクまたは連絡先情報
				outsourced=true | false	外部の企業体がテクニカル サポートを提供するか、またはシステム所有者の社員がテクニカル サポートを提供するかの選択。
				type=network | storage	サポートがネットワークに取り付けられたデバイス、またはストレージデバイスに対するものであるかどうか。

サポート情報を追加するためのコマンド例

サポートパラメータに値を設定するときは、次の形式でコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=support** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=support** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=support outsourced=true
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=support outsourced=true
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

システム情報の追加

システム情報には、システムのプライマリユーザー、プライマリユーザーの電話番号、およびシステムの設置場所が含まれます。表 5-11 は、システム情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-11. omconfig system assetinfo info=system/omconfig servermodule assetinfo info=system

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			

			info=system		
				location=<テキスト>	システム所在地
				primaryphone=<数値>	システムのプライマリユーザーの電話番号。
				primaryuser=<ユーザー>	システムのプライマリユーザー。

システム情報を追加するためのコマンド例

システム パラメータに値を設定するときは、次の形式でコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=system** <「名前=値」のペア 2>または **omconfig servermodule assetinfo info=system** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=system location=firstfloor
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=system location=firstfloor
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

保証情報の追加

omconfig system warranty または **omconfig servermodule warranty** コマンドを使用して、保証情報の値を設定します。保証は、製造元または販売店とシステム購入との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを識別します。延長保証の値の編集方法に関する詳細は、「延長保証情報の追加」を参照してください。表 5-12 は、保証情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-12. omconfig system assetinfo info=warranty/omconfig servermodule assetinfo info=warranty

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=warranty		
				cost=<コスト>	保証サービスにかかるコスト。
				duration=<期間>	保証が有効な日数または月数。
				enddate=<終了日>	保証サービスの有効期限。
				unit=days | months	期間の単位が日数か月数かの選択。

保証情報を追加するためのコマンド例

保証パラメータに値を設定するときは、次の形式でコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=warranty** <「名前=値」のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=warranty** <「名前=値」のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=warranty unit=days
```
または
```
omconfig servermodule assetinfo info=warranty unit=days
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例を見るには、「取得情報を追加するためのコマンド例」を参照してください。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

omconfig Instrumentation Service（計装サービス）を使ったコンポーネントの管理

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- omconfig コマンドの概要
- omconfig コマンドのヘルプ
- omconfig about
- omconfig chassis/omconfig mainsystem
- omconfig preferences
- omconfig system/omconfig servermodule

omconfig コマンドを使用すると、警告イベントの定義、警告操作の設定、ログのクリアのほか、システムシャットダウンの設定に使用する値の入力や、その他のシステム管理タスクを実行できます。

omconfig 機能の例には、コマンド、警告、ハードウェアログをクリアする、システムシャットダウンを設定して実行するシステム管理者権限、ファン、電圧プローブ、温度プローブで警告イベントの値を指定したりデフォルト設定するパワーユーザーおよびシステム管理者権限、イントルージョン、ファン、電圧プローブおよび温度プローブで警告または障害イベントが発生したときに警告処置を設定するパワーユーザーおよびシステム管理者権限などがあります。

omconfig システムコマンドを使用した所有コスト情報（**assetinfo**）の表示と管理方法の詳細に関しては、「omconfig system または servermodule assetinfo：所有コスト値の編集」を参照してください。

omreport コマンドを使って **omconfig** コマンドの実行に必要な情報を取得しなくてはならない場合が頻繁に発生します。たとえば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集する場合は、設定するプローブのインデックスを知っておく必要があります。**omreport chassis temps** または **omreport mainsystem temp** コマンドを使用すると、プローブおよびインデックスのリストを表示できます。**omreport rac** コマンドについては、「omreport：Instrumentation Service（計装サービス）を使用したシステム状態の表示」を参照してください。

表 4-1. omconfig コマンドに対するシステムの可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用対象
omconfig	servermodule	モジュラシステム
	mainsystem	モジュラシステム
	system	非モジュラシステム
	chassis	非モジュラシステム

パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順に並んでいます。

記号「 | 」は、パイプ と呼ばれることがあり、排他的論理和 または 演算子 を表します。たとえば、「有効 | 無効」はコンポーネントや機能を有効または無効にできますが、同時に有効と無効にすることはできません。

---

omconfig コマンドの概要

メモ: 本項では可能な全ての **omconfig** コマンドを一覧表示しますが、システムで使用できるコマンドはシステム構成に依存します。システムにインストールされていないコンポーネントのヘルプを表示したり、またはコマンドを実行すると、Server Administrator はコンポーネントまたは機能がシステムで見つからない旨のメッセージを発行します。

表 4-2 は **omconfig** コマンドの高レベルな概要です。「コマンドレベル 2」および「コマンドレベル 3」とタイトルの付いた行には **omconfig** で使用できる主な引数を一覧表示します。「必要なユーザー特権」とはコマンドの実行に必要な特権の種類を表します（U=ユーザー、P=パワーユーザー、A=システム管理者）。「用途」は **omconfig** を使って実行される操作についての概略です。コマンドの構文と使い方の詳細については、この項で後述します。

表 4-2. omconfig コマンドレベル 1、2、および 3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー特権	用途
omconfig				
	about		U、P、A	Server Administrator プログラムのバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされている全ての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	preferences			
		cdvformat	A	カスタムデミリタフォーマット（cdv）のデータフィールドで分けるタデミリタを指示します。
		dirservice	A	Microsoft Active Directory® サービスを設定します。
		snmp	A	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。SNMP Set 操作を設定します。
		useraccess	A	システム管理者レベルの下にいるユーザーが Server Administrator を使用できるかどうかを指定します。
	system/ servermodule			

		alertaction	P, A	イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長の警告またはエラーイベントに対する処置を事前に決定します。
		alertlog	P, A	システム管理者が警告ログをクリアできます。
		assetinfo	P, A	減価償却、リース、メンテナンス、サービス、およびサポートを含むシステムの所有コストを入力して編集します。
		cmdlog	P, A	システム管理者がコマンドログをクリアできます。
		esmlog	P, A	システム管理者が ESM ログをクリアできます。
		events	P, A	SNMP トラップを有効または無効にします。
		pedestinations	P, A	警告送信先の IP アドレスを設定します。
		platformevents	A	特定のプラットフォームイベントで行うべきシャットダウン処置があれば決定します。また、プラットフォームのイベントフィルタ警告生成を有効にしたり無効にします。
		recovery	P, A	システムがハングの状態にあるオペレーティング システムにどう応対するかを事前に決定します。
		shutdown	A	システムをシャットダウンする場合に、システム管理者がいくつかのオプションから選択できるようにします。
		thrmshutdown	A	サーマルイベントがシステムシャットダウンを引き起こす重大度レベルを設定します。
		webserver	A	Web Server を開始、または停止します。
	chassis/ mainsystem			
		biossetup	A	BIOS が制御する特定のシステムコンポーネントの動作を設定します。
		bmc	A	リモートアクセス情報を設定します。 **メモ:** 本リリースでは、このコマンドは廃止されました。このコマンドは **remoteaccess** コマンド に置換されました。
		fan	P, A	ファンプローブ警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 **メモ:** 組み込みサーバー管理（ESM3）および Dell™ PowerEdge™ x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		fancontrol	P, A	静かな操作または最大冷却のいずれかを選んでファン速度を最適化できます。
		frontpanel	A	**電源**ボタンと**非マスク可能割り込み**（NMI）がシステムに存在すれば設定します。
		info	P, A	管理タグやシャーシ名の初期値を設定したり、値を編集したりできます。
		leds	P, A	シャーシ フォールト LED や シャーシ識別 LED の点滅時を指定して、システム ハード ドライブの LED をクリアできるようにします。
		memorymode	A	スペアバンクとミラーリング メモリ モードを有効にしたり無効にしたりするだけでなく、使用するモードも指定します。
		pwrmonitoring	P, A	電力消費量の情報としきい値を設定します。
		remoteaccess	A	リモートアクセス情報を設定します。
		temps	P, A	警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 **メモ:** ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		volts	P, A	警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 **メモ:** ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
	storage			「Storage Management Service の使用」を参照してください。

---

omconfig コマンドのヘルプ

omconfig -? を使って、**omconfig** に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig <コマンドレベル2> **-?** を使って レベル 2 のコマンドである **about**、**chassis**、**preferences**、および **system** のヘルプを表示します。**omconfig system -?** に関する次の情報は **omconfig chassis** コマンドのヘルプにも同様に適用できます。

omconfig system -? を使って、**omconfig system** に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig preferences -? を使って、カスタムデリミタフォーマット（cdv）**である cdvformat**のような、**omconfig preferences** に使用できるコマンドリストを取得できます。cvd 用のデリミタリストを表示するには、以下のコマンドをタイプします。

```
omconfig preferences cdvformat -?
```

omconfig system <コマンドレベル 3> **-?** の形式のコマンドを使って、特定の **omconfig system** コマンドの実行に必要なパラメータを一覧表示します。たとえば、次のコマンドを使って**omconfig system alertaction** と **omconfig system shutdown** に有効なパラメータの一覧を生成します。

```
omconfig system alertaction -?

omconfig system shutdown -?
```

omconfig system alertaction コマンドを使う場合、いろいろなオプションがあるのですべてのコマンドラインインタフェース（CLI）ヘルプがスクロールしてしまう前に読むことができます。

コマンド出力を 1 画面ごとにスクロールするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -? | more
```

上の例では、**「| more」**があるため、スペースバーを押して CLI ヘルプ出力の次の画面を表示できます。

omconfig system alertaction -? コマンドの全てのヘルプを含んだファイルを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -? -outa alert.txt
```

ここでの **-outa** によって **alert.txt** と呼ばれるファイルにコマンドの出力を向けます。

Microsoft® Windows®、Red Hat® Enterprise Linux、SUSE® Linux Enterprise Server のオペレーティングシステム上で **alertaction** コマンドについてのヘルプを読むには、以下のように入力します。

```
more alert.txt
```

---

omconfig about

omconfig about コマンドを使って、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認します。次に **omconfig about** コマンドの出力を例示します。

```
Product name : Dell OpenManage Server Administrator
Version      : 5.x.x
Copyright    : Copyright (C) Dell Inc. 1995-2006. All rights   reserved.
Company      : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細を知るには、以下のように入力します。

```
omconfig about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号を持っています。**内容** フィールドにはサービスのバージョン番号にあわせてその他の有用な詳細情報が報告されます。以下に続く出力は例であり、使用できる Server Administrator の設定とバージョンによって異なります。

```
Contains: Instrumentation Service 5.x.x
          Storage Management Service 3.x.x
          Sun JRE - OEM Installed Version 3.x.x
          Secure Port Server 1.x.x
          Core Service 1.x.x
          Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
          Storage Management Service Integration Layer 1.x.x
          Server Administrator 5.x.x
```

---

omconfig chassis/omconfig mainsystem

omconfig chassis または **omconfig mainsystem** コマンドを使って、ファンプローブ、電圧プローブ、および温度プローブの値をデフォルトまたは指定値に設定したり、システム起動時の BIOS 動作を設定したり、メモリエラーカウントのクリア、あるいはシステム構成で許可される電源ボタンコントロール機能の有効または無効を切り替えたりできます。

omconfig chassis -? または **omconfig mainsystem -?** コマンドを使用して、**omconfig chassis/omconfig mainsystem** コマンドの全リストを表示できます。

omconfig chassis biossetup/omconfig mainsystem biossetup

omconfig chassis biossetup または **omconfig mainsystem biossetup** コマンドを使用して、通常お使いのシステムの BIOS 設定の起動時間設定でのみ使用可能なシステム BIOS 設定を設定します。

注意：特定の BIOS 設定のオプションを変更するとシステムが無効になったり、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合があります。

メモ：BIOS 設定 オプションを有効化するためにシステムを再起動します。

メモ：各システムで全ての BIOS 設定オプションが使用できるわけではありません。

表 4-3 は、このコマンドで使用できる「名前=値」のペアを表示します。

表 4-3. BIOS 設定

「名前=値」のペア 1 **attribute=**	**「名前=値」のペア 2** **setting=**	**説明**
attribute=acpwrrecovery	setting=off | last | on	**off**: システムはオフになっています。 **last**: システムは以前の状況に戻ります。

		on：システムがオンになっています。
attribute=bezel	setting=enable | disable	**enable**：システム起動中のベゼル取り外しイントルージョンチェックを有効にします。 **disable**：システム起動中のベゼル取り外しイントルージョンチェックを無効にします。
attribute=bootsequence	setting=diskettefirst | hdonly | devicelist | cdromfirst	BIOS にシステムを起動するデバイスと、起動ルーチンが各デバイスをチェックする順序を指示します。
attribute=conredirect	setting=enable | disable	**enable**：シリアルポート 1 に BIOS 画面をリダイレクトします。キーボードとテキスト出力はシリアルポート 2 にリダイレクトされます。 **disable**：BIOS コンソールリダイレクトをオフにします。
attribute=crab	setting=enable | disable	**enable**：システム再起動後に BIOS コンソールリダイレクトを有効にします。 **disable**：BIOS コンソールリダイレクトを無効にします。 **メモ:** コマンド **crab** は、Dell PowerEdge x9xx のシステムでのみ有効です。
attribute=cpuht	setting=enable | disable	**enable**：論理デバイスプロセッサのハイパースレッディングを有効にします。 **disable**：論理デバイスプロセッサのハイパースレッディングを無効にします。
attribute=cpuvt	setting=enable | disable	**enable**：仮想化を有効にします。 **disable**：仮想化を無効にします。
attribute=dbs	setting=enable | disable	**enable**：Demand Based Power Management（DBS）を有効にします。 **disable**：システムの DBS を無効にします。
attribute=diskette	setting=off| auto | writeprotect	**off**：ディスケットドライブを無効にします。 **auto**：ディスケットドライブを自動的に有効にします。 **writeprotect:** 書き込みはできません。ディスケットドライブを読み取り専用にします。
attribute=dualnic	setting=off | onpxeboth | onpxenone | onpxenic1 | onpxenic2	**off**：ネットワークインタフェースコントローラ（NIC）を無効にします。 **onpxeboth**: NIC と PXE を両方有効にします。 **onpxenone**: PXE はいずれの NIC でも有効ではありません。 **onpxenic1**: NIC 1 で PXE を有効にします。 **onpxenic2**: NIC 2 で PXE を有効にします。
attribute=embhypvisor	setting=enabled | disabled	**enabled**：組み込みハイパーバイザーを有効にします。 **disabled**：組み込みハイパーバイザーを無効にします。
attribute=extserial	setting=com1 | com2 | rad	**com1**：外付けのシリアルコネクタを COM 1 にマップします。 **com2**：外付けのシリアルコネクタを COM 2 にマップします。 **rad**：外付けのシリアルコネクタをリモートアクセスデバイスにマップします。
attribute=fbr	setting=9600 | 19200 | 57600 | 115200	**9600**：コンソールリダイレクト Failsafe ボーレートを 9600 ビットに設定します。 **19200**：コンソールリダイレクト Failsafe ボーレートを 19200 ビットに設定します。 **57600**：コンソールリダイレクト Failsafe ボーレートを 57600 ビットに設定します。 **115200**：コンソールリダイレクト Failsafe ボーレートを 115200 ビットに設定します。
attribute=ide	setting=on | off force=true	**on**：このデバイスを有効にします。 **off**：このデバイスを無効にします。 **force=true**: 設定変更の検証。
attribute=idepridrv	setting=off | auto	**off**：デバイスを無効にします。 **auto**：デバイスを自動的に検知し、有効にします。
attribute=intrusion	setting=enable | disable	**enable**：システム起動中にイントルージョンチェックを有効にします。システムにもベゼルイントルージョンチェック機能がある場合、このイントルージョンオプションはシステムのベゼルの取り外しをチェックします。 **disable**：システム起動中にイントルージョンチェックを無効にします。
attribute=intusb	setting=enabled | disabled	**enabled**：内蔵 USB ドライブを有効にします。 **disabled**：内蔵 USB ドライブを無効にします。
attribute=mouse	setting=on| off	**on**：マウスを有効にします。 **off**：マウスを無効にします。
attribute=nic1	setting=enabled | enabledwithpxe | disabled |	**enabled**：システム起動中に最初の NIC を有効にします。

	enabledonly | enablednonepxe | enabledwithiscsi	**enabledwithpxe:** システム起動中に最初の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします）。 **disabled**：システム起動中に最初の NIC を無効にします。 **enabledonly**：システム起動中に最初の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enablednonepxe**：システム起動中に最初の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enabledwithiscsi**：システム起動中に最初の NIC を有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします）。
attribute=nic2	setting=enabled | enabledwithpxe | disabled | enabledonly | enablednonepxe | enabledwithiscsi	**enabled**：システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします。 **enabledwithpxe:** システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします）。 **disabled**：システム起動中に2番目の NIC を無効にします。 **enabledonly**：システム起動中に2番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enablednonepxe**：システム起動中に2番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enabledwithiscsi**：システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSIをオンの状態にします）。
attribute=nic3	setting=enabled | enabledwithpxe | disabled | enabledonly | enablednonepxe | enabledwithiscsi	**enabled**：システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします。 **enabledwithpxe:** システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします）。 **disabled**：システム起動中に 3 番目の NIC を無効にします。 **enabledonly**：システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enablednonepxe**：システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enabledwithiscsi**：システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします）。
attribute=nic4	setting=enabled | enabledwithpxe | disabled | enabledonly | enablednonepxe | enabledwithiscsi	**enabled**：システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします。 **enabledwithpxe:** システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします）。 **disabled**：システム起動中に 4 番目の NIC を無効にします。 **enabledonly**：システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enablednonepxe**：システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします）。 **enabledwithiscsi**：システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします）。
attribute=numlock	setting=on| off	**on**：キーパッドを数字のキーとして使用します。 **off**：キーパッドを矢印のキーとして使用します。
attribute=ppaddress	setting=off | lpt1 | lpt2 | lpt3	**off**：パラレルポートアドレスを無効にします。 **lpt1**：LPT1 上のデバイスの位置を検索します。 **lpt2**：LPT2 上のデバイスの位置を検索します。 **lpt3**：LPT1 上のデバイスの位置を検索します。
attribute=ppmode	setting=at | ps2 | ecp | epp	**at**：パラレルポートモードをタイプ AT に設定します。 **ps2**：パラレルポートモードをタイプ PS/2 に設定します。 **ecp**：パラレルポートモードをタイプ ECP に設定します（拡張機能ポート）。 **epp**：パラレルポートモードをタイプ ECP に設定します（強化パラレルポート）。
attribute=primaryscsi	setting=on | off force=true	**注意：primary scsi**、**romb**、**romba**、または **rombb** の設定を変更する場合、システムはオペレーティングシステムを再インストールするまで操作不能となります。 **on**：このデバイスを有効にします。

		off：このデバイスを無効にします。 **force=true**：設定変更の検証。
attribute=romb	setting=raid | off | scsi force=true	**raid**：BIOS にマザーボード上の RAID を RAID デバイスとして検知するように指示します。 **off**：システム起動中にデバイスを無効にします。 **scsi**：BIOS にこのデバイスをSCSI デバイスとして検知するように指示します。 **force=true**：設定変更の検証。
attribute=romba	setting=raid | scsi force=true	**raid**：BIOS にマザーボード上の RAID チャネル A を RAID デバイスとして検知するように指示します。 **scsi**：BIOS にこのデバイスをSCSI デバイスとして検知するように指示します。 **force=true**：設定変更の検証。
attribute=rombb	setting=raid | scsi force=true	**raid**：BIOS にマザーボード上の RAID チャネル B を RAID デバイスとして検知するように指示します。 **scsi**：BIOS にこのデバイスを SCSI デバイスとして検知するように指示します。 **force=true**：設定変更の検証。
attribute=sata	setting=off| ata | raid	**off**：SATA コントローラを無効にします。 **ata**：オンボード SATA コントローラを ATA モードに設定します。 **raid**：オンボード SATA コントローラを RAID モードに設定します。
attribute=sataport（0...7）または（A...H）	setting=off | auto	**off**：SATA ポートを無効にします。 **auto**：SATA ポートを自動的に有効にします。
attribute=secondaryscsi	setting=on| off	**on**：このデバイスを有効にします。 **off**：このデバイスを無効にします。
attribute=serialcom	setting=off | on |com1 |com2	**off**：シリアル通信設定を無効にします。 **on**：コンソールリダイレクトのないシリアル通信設定を有効にします。 **com1**：COM 1 経由のコンソールリダイレクトのあるシリアル通信設定を有効にします。 **com2**：COM 2 経由のコンソールリダイレクトのあるシリアル通信設定を有効にします。
attribute=serialport1	setting=off | auto | com1 | com3 | bmcserial | bmcnic | rac | com1bmc	**off**：シリアルポート 1 を無効にします。 **auto**：シリアルポート 1 を COM ポートにマップします。 **com1**：シリアルポート 1 を COM ポート 1 にマップします。 **com3**：シリアルポート 1 を COM ポート 3 にマップします。 **bmcserial**：シリアルポート 1 を BMC シリアルにマップします。 **bmcnic**：シリアルポート 1 をベースボード管理コントローラ（BMC）NIC にマップします。 **rac**：シリアルポート 1 をRemote Access Controller（RAC）にマップします。 **com1bmc**：シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマップします。 **メモ:** このコマンドは、PowerEdge 1850、2800、および 2850 のシステムでのみ有効です。
attribute=serialport2	setting=off | auto | com2 |com4	**off**：シリアルポート 2 を無効にします。 **auto**： シリアルポート 2 を COM ポートにマップします。 **com2**：シリアルポート 2 を COM ポート 2 にマップします。 **com4**: シリアルポート 2 を COM ポート 4 にマップします。
attribute=speaker	setting=on| off	**on**：スピーカーを有効にします。 **off**：スピーカーを無効にします。
attribute=uausb	setting=on | backonly | off	**on**：ユーザーがアクセス可能な USB ポートを有効にします。 **backonly**：システムの背面にあるユーザーがアクセス可能な USB ポートのみを有効にします。 **off:** ユーザーがアクセス可能な USB ポートを無効にします。
attribute=usb	setting=enabled | disabled	**enabled**：USB ポートを有効にします。 **disabled**：USB ポートを無効にします。

		メモ: システムのハードウェアによって、2 つの属性、**usb** と **usbb** のどちらかひとつだけが USB ポートの設定に使用可能です。
attribute=usbb	setting=enabled | enabledwithbios| disabled	**enabled**:システム起動中に USB ポートを有効にします(BIOS サポートなし)。 **enabledwithbios**:システム起動中に USB ポートを有効にします(BIOS サポートあり)。 **disabled**:システム起動中に USB ポートを無効にします。 **メモ:** システムのハードウェアによって、2 つの属性、**usb** と **usbb** のどちらかひとつだけが USB ポートの設定に使用可能です。

omconfig chassis bmc/omconfig mainsystem bmc

メモ: 本リリースでは、このコマンドは廃止されました。このコマンドは **omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess** コマンドに置換されました。

omconfig chassis currents/omconfig mainsystem currents

メモ: このコマンドは、今後 Server Administrator で使用できません。

omconfig chassis fans/omconfig mainsystem fans

omconfig chassis fans または **omconfig mainsystem fans** コマンドを使用して、ファンプローブ警告のしきい値を設定します。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値はシステム製造元によって設定されます。

ファン警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-4 は、ファン警告しきい値設定に有効なパラメータを表示します。

表 4-4. omconfig chassis fans/omconfig chassis fans

「名前=値」のペア	説明
index=<数値>	プローブまたはプローブインデックスの番号(指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<数値>	最小警告しきい値。
maxwarnthresh=<数値>	最大警告しきい値。

デフォルトの最小および最大警告しきい値

メモ: ESM 3、ESM4、および BMC の機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

上限と下限ファン警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis fans index=0 warnthresh=default
または
omconfig mainsystem fans index=0 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

最小および最大警告しきい値の指定

ファンプローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 0 を設定します。最初のコマンドは最小しきい値のみを設定し、2 番目のコマンドは最小および最大しきい値の両方を設定します。

```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580
または
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580

omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
または
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Fan probe warning threshold(s) set successfully.
```

（ファンプローブ警告しきい値は正常に設定されました）。

メモ: ファンプローブの最小および最大警告しきい値は、PowerEdge x8xx および x9xx のシステムでは設定できません。

omconfig chassis fancontrol/omconfig mainsystem fancontrol

omconfig chassis fancontrol または **omconfig mainsystem fancontrol** コマンドを使用して、ファン速度を設定します。冷却または静かな操作向けに速度を最適化できます。表 4-5 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-5. omconfig chassis fancontrol/omconfig mainsystem fancontrol

「名前=値」のペア	説明
speed=quiet	静かに動作するようファン速度を設定します。
speed=maxcool	冷却が最大になるようファン速度を設定します。

omconfig chassis frontpanel/omconfig mainsystem frontpanel

omconfig chassis frontpanel または **omconfig mainsystem frontpanel** コマンドを使用して、**電源** ボタンおよび **非マスク可能割り込み**（NMI）ボタンを設定し、LCD ライン番号を指定および設定します。

メモ: **電源** ボタンと **NMI** ボタンがシステムにある場合、これらを設定することができます。

表 4-6 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-6. omconfig chassis ffrontpanel/omconfig mainsystem frontpanel

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
lcdindex=<index>	なし	LCD ライン番号を指定します。
config=none | default | custom	なし	**none**：LCD テキストを「なし」に設定します。 **default**：LCD テキストを「デフォルト」に設定します。 **custom**：LCD テキストを「カスタム」に設定します。
text=<カスタムテキスト>	なし	**config=custom** のときに LCD のカスタムテキストを設定します。
nmibutton	enable=true | false	**true**：システムの **NMI** ボタンを有効にします。 **false**：システムの **NMI** ボタンを無効にします。
powerbutton	enable=true | false	**true**：システムの **電源** ボタンを有効にします。 **false**：システムの **電源** ボタンを無効にします。

omconfig chassis info/omconfig mainsystem info

omconfig chassis info または **omconfig mainsystem info** コマンドを使用して、お使いのシステムの管理タグ名とシャーシ名を入力します。システムがモジュラシステムの場合、モジュラコンポーネントの管理タグも入力できます。表 4-7 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-7. omconfig chassis info/omconfig mainsystem info

「名前=値」のペア	説明
index=<数値>	管理タグまたは名前を設定するシャーシの番号。
tag=<テキスト>	英数字テキストによる管理タグ。10 文字以下の英数字を使用します。
name=<テキスト>	シャーシ名

以下の例では、メインシステムシャーシの管理タグを **buildsys** に設定します。

```
omconfig chassis info index=0 tag=buildsys
```
または
```
omconfig mainsystem info index=0 tag=buildsys
```

インデックス 0 はメインシステムシャーシのデフォルト値です。次のコマンドでは index=n が省略されていますが、結果は同じです。

```
omconfig chassis info tag=buildsys
```
または
```
omconfig mainsystem info tag=buildsys
```

有効なコマンドが実行されると、結果として次のメッセージが表示されます。

```
Chassis info set successfully.
```

（シャーシ情報は正常に設定されました。）

シャーシによっては、異なる名前を割り当てることができます。メインシステムシャーシの名前を変更することはできません。下の例では、シャーシ 2 の名前を **storscsi1** から **storscsia** に変更します。

```
omconfig chassis info index=2 name=storscsia
```
または
```
omconfig mainsystem info index=2 name=storscsia
```

他のコマンドでは、シャーシ 2（メイン シャーシ=0）がない場合、CLI によってエラーメッセージが表示されます。CLI では、存在するシステム構成に対してのみコマンドを実行できます。

omconfig chassis leds/omconfig mainsystem leds

omconfig chassis leds または **omconfig mainsystem leds** コマンドを使用して、シャーシエラー LED またはシャーシ識別 LED を点滅させるタイミングを指定します。また、このコマンドを使用してシステムのハードドライブの LED をクリアできます。表 4-8 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-8. omconfig chassis leds/omconfig mainsystem leds

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
index=<数値>	なし	LED が存在するシャーシ番号（デフォルトはメインシステムシャーシであるシャーシ 0）。
led=fault	severity=warning | critical	警告イベントまたは重要イベントの発生時に、LED を点滅するように選択します。
led=hdfault	action=clear	ハードドライブのフォールト数を 0 に戻します。
led=identify	flash=off | on time-out=<数値>	シャーシ識別 LED をオフまたはオンに設定します。LED が点滅するタイムアウト値を秒数で設定します。

omconfig chassis memorymode/omconfig mainsystem memorymode

omconfig chassis memorymode または **omconfig mainsystem memorymode** コマンドを使用して、お使いのシステムのメモリにエラーが生じたときに使用する冗長性モードを指定します。

冗長メモリを使うと、システムが現在使用中のモジュールに許容できないエラーが検知されたときに、他の使用できるメモリモジュールに切り替えることができます。**omconfig chassis memorymode** または **omconfig mainsystem memorymode** コマンドを使用すると、冗長性を無効にすることができます。冗長性を無効にすると、システムが使用しているモジュールにエラーが発生したときに、他の使用できるメモリモジュールに切り替えないようにシステムに指示を出すことになります。冗長性を有効にするには、スペア、ミラー、RAID から選択します。

スペアモードを使用すると、訂正可能なメモリイベントが検知されたときにシステムメモリのバンクが無効になり、スペアバンクが有効になって、オリジナルバンクのデータがすべてスペアバンクにコピーされます。スペアバンクには、少なくとも 3 つの同一メモリのバンクが必要です。オペレーティングシステムはスペアバンクを認識しません。

ミラーモードは、訂正不可能なメモリイベントが検知されたときに、メモリの冗長コピーに切り替えます。ミラーされたメモリに切り替えた後、システムは次回再起動時までオリジナルのシステムメモリに切り替わりません。このモードではオペレーティングシステムはインストールされているシステムメモリの半分を認識しません。

RAID モードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。

表 4-9 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-9. omconfig chassis memorymode/omconfig mainsystem memorymode

「名前=値」のペア 1	説明
index=<数値>	メモリモジュールが常駐するシャーシ番号（デフォルトはメインシステムシャーシのシャーシ 0 です）。
redundancy=spare | mirror | disabled | raid5	**Spare** は訂正可能なメモリイベントを持つメモリモジュールを無効にし、エラーがあったモジュールのデータをスペアバンクにコピーします。 **Disabled** は、訂正不可能なメモリイベントが検知されたときにシステムでその他のメモリモジュールを使用しないことを示します。 **Mirror** は、エラーのあったモジュールに訂正不可能なメモリイベントが検知された場合、システムをミラーされたメモリのコピーに切り替えます。**ミラー** モードでは、オペレーティングシステムはシステムが再起動されるまでオリジナルのモジュールに戻りません。 **RAID-5** はシステムメモリの設定方法です。これは理論的には、ハードドライブのストレージシステムで使用される RAID -5 モードに似ています。このメモリモードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。サポートしている RAID モードは、循環パリティの RAID レベル 5 ストライピングです。

omconfig chassis pwrmonitoring/omconfig mainsystem pwrmonitoring

omconfig chassis pwrmonitoring または **omconfig mainsystem pwrmonitoring** コマンドを使用して、電力消費量情報を設定します。

表 4-10. omconfig chassis pwrmonitoring/omconfig mainsystem pwrmonitoring

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
index=<数値>	なし	プローブまたはプローブインデックスの番号（指定が必要）。
config=probe	なし	電力消費量プローブのしきい値を設定します。
warnthresh=settodefault	なし	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
index=<数値>	なし	警告しきい値を設定します。
config=resetreading	type=energy | peakpower	**energy**：システムエネルギー量の読み取り値をリセットします。 **peakpower**：システムピーク電力をリセットします。

メモ: このコマンドは、PMBus 対応の一部の Dell xx0x システムにのみ適用されます。

デフォルトの警告しきい値

メモ: センサーを管理する機能はシステムによって異なります。

電力消費量プローブの警告しきい値の上限値と下限値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefault
または
omconfig mainsystem pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefault
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

警告しきい値の指定

電力消費量プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 4 を設定します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=4 warnthresh=325
または
omconfig mainsystem pwrmonitoring index=4 warnthresh=325
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Power consumption probe warning threshold(s) set successfully.
```

（電力消費量プローブの警告しきい値が正常に設定されました。）

omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess

メモ: このコマンドは、PowerEdge x8xx および x9xx のシステムにのみ適用可能です。

omconfig chassis remoteaccess または **omconfig mainsystem remoteaccess** コマンドを使用して、次の設定を行います。

- ローカルエリアネットワーク（LAN）上のリモートアクセス。
- インストールされている BMC または RAC 用のシリアルポート。
- シリアルオーバー LAN 接続の BMC または RAC。
- シリアルポートのターミナル設定。
- シリアルオーバー LAN 接続の詳細設定。
- BMC または RAC ユーザーの情報。

  メモ: ユーザー情報を設定するには、ユーザー ID を入力する必要があります。

次のように入力します。

```
omconfig chassis remoteaccess
または
omconfig mainsystem remoteaccess
```

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess コマンドの出力には、使用可能な各設定がリストされます。表 4-11 は、有効なパラメータを表示します。

表 4-11. omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess

「名前=値」のペア 1 config=	「名前=値」のペア 2	説明

config=advsol	characcuminterval=number	**number**：文字累積間隔を 5 ミリ秒に設定します。
	charsendthreshold=number	**number**：文字数を設定します。BMC は、この文字数（以上）がベースボードシリアルコントローラから BMC に受け入れられるとすぐに自動的にその文字数が含まれたシリアルオーバー LAN データパケットを送信します。
config=nic	enable=true | false	**true**：IPMI オーバー LAN を有効にします。 **false**：IPMI オーバー LAN を無効にします。
	encryptkey=text confirmencryptkey=text	**text**：暗号化と暗号化の確認に使用されるテキスト。 **メモ：text** オプションは、PowerEdge x9xx のシステムでのみサポートされています。
	gateway=Gateway	**Gateway**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のゲートウェイアドレスを設定します。
	enablenic=true | false	**true**：DRAC NIC を有効にします。 **false**：DRAC NIC を無効にします。 **メモ：enablenic** オプションは、DRAC 5 がインストールされている PowerEdge x9xx のシステムでサポートされています。
	IP address=IP	**ip**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合の IP アドレスを設定します。
config=nic （続き）	ipsource=static | dhcp | systemsoftware	**static**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスが固定で割り当てられた IP アドレスの場合、静的です。 **dhcp**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスがダイナミックホスト設定プロトコルの場合、DHCP です。 **systemsoftware**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスのソースがシステムソフトウェアからのものである場合、システムソフトウェアです。 **メモ：**すべてのコマンドがお使いのシステムでサポートされているわけではありません。
	nicselection=nic1 | teamednic1nic2 | dracnic	**nic1：**NIC 1 を有効にします。 **teamednic1nic2**：NIC チーム機能を有効にします。 **dracnic：**DRAC 5 がインストールされている場合は、DRAC NIC を有効にします。 **メモ：nicselection** オプションは、PowerEdge x9xx のシステムでのみサポートされています。
	privilegelevel=administrator | operator | user	**administrator**：LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。 **operator**：LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。 **user**：LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。
	subnet=Subnet	**subnet**：BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のサブネットマスクを設定します。
config=nic （続き）	vlanenable=true | false	**true**：仮想 LAN 識別を有効にします。 **false**：仮想 LAN 識別を無効にします。
	vlanid=number	**number**：1 ～ 4094 までの仮想 LAN 識別。
	vlanpriority=number	**number**：0 ～ 7 までの仮想 LAN 識別の優先順位。
config=serial	baudrate=9600 | 19200 | 38400 | 57600 | 115200	**9600：** 接続速度を 9600 ビットに設定します。 **19200**：接続速度を 19200 ビットに設定します。 **38400**：揮発性および不揮発性接続速度を 38400 ビットに設定します。 **57600**：揮発性および不揮発性接続速度を 57600 ビットに設定します。 **115200**：揮発性および不揮発性接続速度を 115200 ビットに設定します。 **メモ：**9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。 19200 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx のシステムでサポートされています。 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。 19200、57600、115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている xx0x システムでサポートされています。
	flowcontrol=none | rtscts	**none**：シリアルポートを介した通信フローの制御がありません。 **rtscts**：RTS は送信の準備ができた（Ready to Send）、CTS は明確に送信する（Clear to Send）の意味です。

config=serial（続き）	mode=directbasic | directterminal | directbasicterminal | modembasic | modemterminal | modembasicterminal	**directbasic**：シリアル接続で IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。 **directterminal**：シリアル接続で印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。 **directbasicterminal**：シリアル接続上での基本モードとターミナルモードのメッセージ。 **modembasic**：モデムでの IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。 **modemterminal**：モデムで印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。 **modembasicterminal**：モデムを使った基本メッセージとターミナルメッセージ。 **メモ：**すべてのコマンドがシステムでサポートされているわけではありません。
	privilegelevel=administrator | operator | user	**administrator**：シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。 **operator**：シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。 **user**：シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。
config=serialoverlan	enable=true | false	**true**：BMC でシリアルオーバー LAN を有効にします。 **false**：BMC でシリアルオーバー LAN を無効にします。
	baudrate=9600 | 19200 | 38400 | 57600 | 115200	**9600**：揮発性および不揮発性接続速度を 9600 ビットに設定します。 **19200**：揮発性および不揮発性接続速度を 19200 ビットに設定します。 **38400**：揮発性および不揮発性接続速度を 38400 ビットに設定します。 **57600**：揮発性および不揮発性接続速度を 57600 ビットに設定します。 **115200**：揮発性および不揮発性接続速度を 115200 ビットに設定します。 **メモ：**9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。 19200 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx のシステムでサポートされています。 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。 19200、57600、115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている xx0x システムでサポートされています。
	privilegelevel=administrator | operator | user	**administrator**：シリアルオーバー LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。 **operator**：シリアルオーバー LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。 **user**：シリアルオーバー LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。
config=settodefault		デフォルトの設定を使用します。
config=terminalmode	deletecontrol=outputdel | outputbkspspbksp	**outputdel**：BMC は、<bksp> か <del> を受け取ると、<del> を出力します。 **outputbkspspbksp**：BMC は、<bksp> または <del> を受け取ると、<bksp><sp><bksp> を出力します。
config=terminalmode（続き）	echocontrol=enabled | disabled	**enabled**：画面に送信する文字を有効にします。 **disabled**：画面に送信する文字を無効にします。
	handshakingcontrol=enabled | disabled	**enabled**：入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示します。 **disabled**：入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示しません。
	inputlinesequence=cr | null	**cr**：コンソールは新しいラインシーケンスに <CR> を使用します。 **null**：コンソールは新しいラインシーケンスに <NULL> を使用します。
	lineediting=enabled | disabled	**enabled**：ラインをタイプしたとき、ライン編集を有効にします。 **disabled**：ラインをタイプしたとき、ライン編集を無効にします。
	newlinesequence=none | crlf | null | cr | lfcr | lf	**none**：BMC は終結シーケンスを使用しません。 **crlf**：BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに<CR-LF>を使用します。 **null**：BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに<NULL>を使用します。 **cr**：BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに<CR>を使用します。 **lfcr**：BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに<LF-CR>を

		使用します。 **lf**：BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに<LF>を使用します。
config=user	id=number enable=true | false	**id=number**：設定されているユーザーの ID（数字形式）。 **enable=true**：ユーザーを有効にします。 **enable=false**：ユーザーを無効にします。
	id=number enableserialoverlan=true | false	**id=number**：設定されているユーザーの ID（数字形式）。 **enableserialoverlan=true**：シリアルオーバー LAN を有効にします。 **enableserialoverlan=false**：シリアルオーバー LAN を無効にします。 **メモ：enableserialoverlan** オプションは、PowerEdge x9xx のシステムでのみサポートされています。
	id=number name=text	**number**：設定されているユーザーの ID（数字形式）。 **name=text**：ユーザーの名前。
	id=number newpw=text confirmnewpw=text	**number**：設定されているユーザーの ID（数字形式）。 **newpw=text**：ユーザーの新しいパスワード。 **confirmnewpw=text**：新しいパスワードを確認します。
	id=number serialaccesslevel=administrator | operator | user | none	**id=number**：設定されているユーザーの ID（数字形式）。 **serialaccesslevel=administrator**：ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてシステム管理者のアクセス特権があります。 **serialaccesslevel=operator**：ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてオペレータのアクセス特権があります。 **serialaccesslevel=user**：ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてユーザーのアクセス特権があります。 **serialaccesslevel=none**：ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルのアクセス特権がありません。
config=user （続き）	id=number lanaccesslevel=administrator | operator | user| none	**id=number：**設定されているユーザーの ID 番号。 **lanaccesslevel=administrator**：ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてシステム管理者のアクセス特権があります。 **lanaccesslevel=operator**：ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてオペレータのアクセス特権があります。 **lanaccesslevel=user**：ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてユーザーのアクセス特権があります。 **lanaccesslevel=none**：ID を持つユーザーは、LAN チャネルのアクセス特権がありません。
	id=user id dracusergroup=admin | poweruser | custom | none	**id=user id**：設定されているユーザーのユーザー ID。 **dracusergroup=admin：** システム管理者ユーザー特権を有効にします。 **dracusergroup=poweruser：**パワーユーザー特権を有効にします。 **dracusergroup=custom：**カスタムユーザー特権を有効にします。 **メモ：dracusergroup=custom** の「名前=値」のペアの詳細に関しては、表 4-12 を参照してください。 **dracusergroup=none：**ユーザー特権を有効にしません。
	id=user id extimpiusergroup=admin | poweruser | custom | none **メモ：extimpiusergroup** ユーザーグループは、Dell xx0x モジュラシステムでのみ使用可能です。	**id=user id**：設定されているユーザーのユーザー ID。 **extimpiusergroup=admin：** システム管理者ユーザー特権を有効にします。 **extimpiusergroup=poweruser：**パワーユーザー特権を有効にします。 **extimpiusergroup=custom：**カスタムユーザー特権を有効にします。 **メモ：extimpiusergroup=custom** の「名前=値」のペアの詳細に関しては、表 4-13 を参照してください。 **extimpiusergroup=none：**ユーザー特権を有効にしません。

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> dracusergroup=custom/omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> dracusergroup=custom

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	「名前=値」のペア 3	説明
config=user （続き）	id=user id dracusergroup=custom	logindrac= true | false	**true/false**：DRAC へのログインを有効または無効にします。
		configuredrac= true | false	**true/false**：DRAC の設定を有効または無効にします。
		configure users= true | false	**true/false**：ユーザーの設定を有効または無効にします。
		clearlogs= true | false	**true/false**：ログのクリアを有効または無効にします。
		executeservercommands= true | false	**true/false**：サーバーコマンドの実行を有効または無効にします。
		accessconsoleredir= true | false	**true/false**：コンソールリダイレクトへのアクセスを有効または無効にします。
		accessvirtualmedia= true | false	**true/false**：仮想メディアへのアクセスを有効または無効にします。
		testalerts= true | false	**true/false**：テスト警告を有効または無効にします。

表 4-13. omconfig chassis remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> extimpiusergroup=custom/omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> extimpiusergroup=custom

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	「名前=値」のペア 3	説明
config=user （続き）	id=user id extimpiusergroup=custom **メモ: extimpiusergroup** ユーザーグループは、Dell xx0x モジュラシステムでのみ使用可能です。	loginidrac= true | false configureidrac= true | false	**true/false**：iDRAC へのログインを有効または無効にします。 **true/false**：iDRAC の設定を有効または無効にします。

omconfig chassis temps/omconfig mainsystem temps

omconfig chassis temps または **omconfig mainsystem temps** コマンドを使用して、温度プローブの警告しきい値を設定します。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値はシステム製造元によって設定されます。

メモ: 設定可能なしきい値は、システム構成によって異なります。

温度警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-14 は、温度警告しきい値設定に有効なパラメータを表示します。

表 4-14. omconfig chassis temps/omconfig mainsystem temps

「名前=値」のペア	説明
index=<数値>	プローブまたはプローブインデックスの番号（指定が必要）。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<数値>	最小警告しきい値（小数第 1 位）を設定します。
maxwarnthresh=<数値>	最大警告しきい値（小数第 1 位）を設定します。

最小および最大警告しきい値の設定

上限と下限温度警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
```
または
```
omconfig mainsystem temps index=0 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

メモ: センサーを管理する機能はシステムによって異なります。

最小および最大警告しきい値の指定

温度プローブ警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 4 を設定します。

```
omconfig chassis temps index=4 minwarnthresh=11.2 maxwarnthresh=58.7
または
omconfig mainsystem temps index=4 minwarnthresh=11.2 maxwarnthresh=58.7
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Temperature probe warning threshold(s) set successfully.
```

（温度プローブ警告しきい値は正常に設定されました。）

メモ: PowerEdge x8xx および x9xx のシステムでは、大気の温度に関してのみ温度プローブの警告しきい値を設定できます。

omconfig chassis volts/omconfig mainsystem volts

omconfig chassis volts または **omconfig mainsystem volts** コマンドを使用して、電圧プローブ警告しきい値を設定します。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値はシステム製造元によって設定されます。

電圧警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-15 は、電圧警告しきい値に有効なパラメータを示したものです。

メモ: 設定可能なしきい値は、システム構成によって異なります。

表 4-15. omconfig chassis volts/omconfig mainsystem volts

「名前=値」のペア	説明
index=<数値>	プローブインデックス（指定する必要があります）。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<数値>	最小警告しきい値（少数第 3 位）を設定します。
maxwarnthresh=<数値>	最大警告しきい値（少数第 3 位）を設定します。

最小および最大警告しきい値をデフォルト値にする

上限と下限電圧警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis volts index=2 warnthresh=default
または
omconfig mainsystem volts index=2 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

メモ: ESM 3 機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

最小および最大警告しきい値の指定

電圧プローブ警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 0 を設定しています。

```
omconfig chassis volts index=0 minwarnthresh=1.900 maxwarnthresh=2.250
または omconfig mainsystem volts index=0 minwarnthresh=1.900 maxwarnthresh=2.250
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Voltage probe warning threshold(s) set successfully.
```

（電圧プローブ警告しきい値は正常に設定されました。）

メモ: 電圧の最小および最大警告しきい値は、PowerEdge x8xx のシステムでは設定できません。

---

omconfig preferences

omconfig preferences コマンドを使用して、システムのユーザー設定を設定します。コマンドラインを使用して、SNMP ルートパスワードを設定し、Server Administrator にアクセスできるユーザーレベルを指定します。Active Directory サービス と SNMP Set 操作も設定できます。

omconfig preferences cdvformat

omconfig preferences cdvformat を使用して、レポートされたデータフィールドをカスタムデリミタフォーマットで分けるデリミタを指定します。デリミタの有効値は、感嘆符、セミコロン、@、ハッシュ、ドル記号、パーセント記号、カレット（^）、アスタリスク、波型記号、疑問符、コロン、およびパイプです。

アスタリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は以下のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

omconfig preferences dirservice

omconfig preferences dirservice コマンドを使用すると、Active Directory サービスを設定できます。**<製品名>oem.ini** ファイルは、これらの変更を反映して修正されます。「adproductname」が **<製品名>oem.ini** ファイルに存在しない場合は、**<コンピュータ名>-<製品名>** のデフォルト値が使用されます。**<コンピュータ名>** は Server Administrator を実行しているコンピュータの名前を指し、**<製品名>** は **omprv32.ini** で定義されている製品の名前を指します。Server Administrator の場合、製品名は「omsa」です。

したがって、Server Administrator を実行している「myOmsa」という名前のコンピュータの場合、デフォルト名は「myOmsa-omsa」となります。これは、スナップインツールを使って Active Directory で定義されている Server Administrator の名前です。ユーザー特権を検索するには、この名前が Active Directory のアプリケーションオブジェクトの名前と一致する必要があります。

メモ: このコマンドは、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムのみに適用します。

表 4-16 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-16. Active Directory サービスの設定パラメータ

「名前=値」のペア	説明
prodname=<テキスト>	Active Directory 設定の変更を適用する製品を指定します。**prodname** は **omprv32.ini** で定義されている製品の名前を指します。Server Administrator の場合、これは「omsa」です。
enable=<true | false>	**true**：Active Directory サービスの認証サポートと **Active Directory ログイン** オプションをログインページで有効にします。 **false:** Active Directory サービスの認証サポートと **Active Directory ログイン** オプションをログインページで無効にします。**Active Directory ログイン** オプションが表示されない場合、ログインできるのはローカルマシンのアカウントのみです。
adprodname=<テキスト>	Active Directory サービスで定義されている製品の名前を指定します。この名前は、ユーザー認証のために製品を Active Directory の権限データに関連付けます。

omconfig preferences snmp

SNMP ルートパスワードを設定すると、システム管理者は重要なシステム管理介入を行うことができる SNMP Set 操作へのアクセスを制限することができます。SNMP ルートパスワードは、通常どおり（1 つのコマンドラインにすべてのパラメータを入力）か、またはインタラクティブに設定できます。

omconfig preferences snmp コマンドを使って、SNMP Set 操作を設定することもできます。

注意: インタラクティブモードは、SNMP ルートパスワードを設定するのに一層安全な方法です。非インタラクティブモードでは、**newpw** と **confirmnewpw** オプションに入力する値は、入力したときにシステムのモニタに表示されます。インタラクティブモードでは、パスワードに入力した値はマスクされています。

SNMP ルートパスワードに設定するパラメータは、インタラクティブに設定しても非インタラクティブに設定しても同じです。

メモ: **setting=rootpw** を指定しても、その他の「名前＝値」ペアのパラメータを指定しない場合、インタラクティブモードを入力したことになり、コマンドラインは残りの値の入力を求めます。

表 4-17 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-17. SNMP ルートパスワードのパラメータ

「名前=値」のペア	説明
setting=rootpw	必須。
oldpw=<古いパスワード>	古い SNMP ルートパスワードを入力します。
newpw=<新しいパスワード>	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。
confirmnewpw=<新しいパスワード>	新しい SNMP ルートパスワードを確認します。

`omconfig preferences snmp setting=rootpw` と入力すると、システムは、必須パラメータへの値の入力を求めます。

`omconfig preferences snmp` と入力する場合、初期コマンドラインのすべてのパラメータを提供する必要があります。たとえば以下のようになります。

```
omconfig preferences snmp setting=rootpw oldpw=openmanage newpw=serveradmin confirmnewpw=serveradmin
```

「名前=値」のペア	説明
setting=snmpset	必須
enable=true	SNMP Set 操作を許可します。
enable=false	SNMP Set 操作を非許可にします。

たとえば、SNMP Set 操作を非許可にするには、次のコマンドを使います。

```
omconfig preferences snmp setting=snmpset enable=false
```

メモ: SNMP Set 操作を有効 / 無効にするコマンドを実行した後で、サービスを再起動して変更を有効にします。対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用しているシステムでは、Windows SNMP サービスを再起動します。対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを使用しているシステムでは、`srvadmin-services.sh restart` コマンドを実行して Server Administrator サービスを再起動します。

omconfig preferences useraccess

企業の方針によっては、Server Administrator に対して一部のユーザーが持つアクセスを制限した方がいい場合があります。**omconfig preferences useraccess** コマンドを使用すると、Server Administrator にアクセスできるユーザーまたはパワーユーザーの権利を与えたり差し控えることができます。

表 4-19 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-19. システム管理者、パワーユーザーおよびユーザー用のユーザーアクセス有効化

コマンド	結果	説明
omconfig preferences useraccess enable=user	Server Administrator アクセスをユーザー、パワーユーザーおよびシステム管理者に与えます。	最も制限のないユーザーアクセスです。
omconfig preferences useraccess enable=poweruser	Server Administrator アクセスをパワーユーザーとシステム管理者に与えます。	ユーザーレベルのアクセスのみを除外します。
omconfig preferences useraccess enable=admin	Server Administrator アクセスをシステム管理者に のみ与えます。	最も制限されたユーザーアクセスです。

---

omconfig system/omconfig servermodule

omconfig system または **omconfig servermodule** コマンドを使用して、ログのクリア、シャットダウン方法の決定、所有コストの初期値設定および編集、ハング状態にあるオペレーティングシステムの対応方法決定などを実行します。

omconfig system alertaction/omconfig servermodule alertaction

omconfig system alertaction または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用して、コンポーネントに警告 / エラーイベントが発生した場合の Server Administrator の応答方法を決定できます。

警告処置の定義

警告処置とは、指定した条件が満たされた場合にシステムが実行する操作です。警告処置は、イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長に関し警告またはエラーイベントが発生した場合、どのように対処するかを事前に決定するものです。

たとえば、ファンプローブの最小警告しきい値が 600 RPMである場合、システムのファンプローブがファン 300 RPM を読み取ると、システムはファンプローブ警告を生成します。警告処置設定によって、このイベントの通知方法が決定されます。警告またはエラー範囲内にある温度、電圧、および電流プローブ読み取り値に対して警告処置を設定することもできます。

警告処置の設定構文

警告処置を設定するには 2 つの「名前＝値」のペア が必要になります。最初の「名前=値」のペアはイベントの種類です。2 番目の「名前=値」のペアはこのイベントで実行する操作です。たとえば、次のコマンドを参照してください。

```
omconfig system alertaction event=powersupply broadcast=true
```
または
```
omconfig servermodule alertaction event=powersupply broadcast=true
```

イベントは電源装置エラーで、処置は全ての Server Administrator ユーザーへのメッセージをブロードキャストします。

使用可能な警告処置

表 4-20 は、警告処置の設定が可能なコンポーネントの警告処置を表示します。

表 4-20. 警告イベントとエラーイベントに設定できる警告処置

警告処置の設定	説明
alert=true | false	**true**: システムのコンソール警告を有効にします。有効になると、Server Administrator を実行しているシステムに取り付けられたモニタの画面表示上に警告メッセージが表示されます。

	false：システムのコンソール警告を無効にします。
broadcast=true | false	**true**：アクティブなターミナル（またはリモートデスクトップ）セッション（Windows）内のすべてのユーザー、およびローカルシステム（Linux）上のアクティブシェルがあるオペレータへのメッセージまたは警告のブロードキャストを有効にします。 **false**：警告ブロードキャストを無効にします。
clearall=true	このイベントの処置をすべてクリアします。
execappath=<文字列>	このウィンドウに説明されるコンポーネントのイベントが発生した場合に実行するアプリケーションの完全パスとファイル名を設定します。 **メモ:** Linux システムでは、システム管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループは、この警告処置設定を設定できません。
execapp=false	実行可能なアプリケーションを無効にします。

警告処理を設定できるコンポーネントとイベント

表 4-21 では警告処置を設定できるコンポーネントとイベントを一覧表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。

表 4-21. 警告処置の設定可能なイベント

イベント名	説明
event=batterywarn	バッテリプローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=batteryfail	バッテリプローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=fanwarn	ファンプローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=fanfail	ファンプローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogwarn	ハードウェアログが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogfull	ハードウェアログがいっぱいのときの処置を設定します。
event=intrusion	シャーシイントルージョンイベントを検知した場合の処置を設定します。
event=memprefail	メモリプローブが事前エラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=memfail	メモリプローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=systempowerwarn	電力消費量プローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=systempowerfail	電力消費量プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=powersupply	電源装置プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=powersupplywarn	電源装置プローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=processorwarn	プロセッサプローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=processorfail	プロセッサプローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=redundegrad	冗長コンポーネントが使用できなくなり、コンポーネントの完全冗長性が失われた場合の処置を設定します。
event=redunlost	1 つまたは複数の冗長コンポーネントが使用できなくなり、冗長コンポーネントの喪失または冗長性不能状態になった場合の処置を設定します。
event=tempwarn	温度プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=tempfail	温度プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=voltwarn	電圧プローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=voltfail	電圧プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=watchdogasr	ウォッチドッグ自動システム回復（ASR）がハングしたオペレーティングシステムに対して実行された後に、次のシステムスタートアップで Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=storagesyswarn	ストレージシステムが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=storagesysfail	ストレージシステムがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=storagectrlwarn	ストレージコントローラが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=storagectrlfail	ストレージコントローラがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=pdiskwarn	物理ディスクが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=pdiskfail	物理ディスクがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=vdiskwarn	仮想ディスクが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=vdiskfail	仮想ディスクがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=enclosurewarn	エンクロージャが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=enclosurefail	エンクロージャがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=storagectrlbatterywarn	ストレージコントローラのバッテリが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=storagectrlbatteryfail	ストレージコントローラのバッテリがエラー値を検知した場合の処置を設定します。

メモ: storagectrlbatterywarn および **storagectrlbatteryfail** イベントは、モジュラシステムで使用できません。

警告処置設定コマンド例

以下に有効なコマンドの例を示します。各コマンドが成功すると、次のメッセージが表示されます。

```
Alert action(s) configured successfully.
```

（警告処置は正常に設定されました。）

電流プローブ処置の例

電流プローブが警告イベントを検知した場合にシステムのコンソール警告を無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentwarn alert=false
```
または
```
omconfig servermodule alertaction event=currentwarn alert=false
```

電流プローブがエラーイベントを検知した場合にブロードキャストメッセージを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentfail broadcast=true
```
または
```
omconfig servermodule alertaction event=currentfail broadcast=true
```

ファンプローブ処置の例

ファンプローブがエラー値を検知した場合に警告を生成するには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=fanfail alert=true
```
または
```
omconfig servermodule alertaction event=fanfail alert=true
```

シャーシイントルージョン処置の例

シャーシイントルージョンの警告処置をすべてクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=intrusion clearall=true
```
または
```
omconfig servermodule alertaction event=intrusion clearall=true
```

ログのクリアコマンド

メモ: 警告メッセージの詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

omconfig system または **omconfig servermodule** コマンドを使用すると 3 つのログをクリアできます。表示できるログには、警告ログ、コマンドログ、ハードウェアまたは ESM ログがあります。

警告ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertlog action=clear
```
または
```
omconfig servermodule alertlog action=clear
```

メモ: 無効な RAC ユーザー名を入力すると、コマンドログが表示できないことがあります。コマンドログをクリアするとこの状態が解決します。

コマンドログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system cmdlog action=clear
```
または
```
omconfig servermodule cmdlog action=clear
```

ESM ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system esmlog action=clear
```
または
```
omconfig servermodule esmlog action=clear
```

omconfig system pedestinations/omconfig servermodule pedestinations

omconfig system pedestinations または **omconfig servermodule pedestinations** コマンドを使用して、警告送信先の IP アドレスを設定します。

表 4-22 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

メモ: インデックスと IP アドレスをパラメータとして一緒に指定するか、コミュニティ文字列だけをパラメータとして設定することができます。

表 4-22. omconfig system pedestinations/omconfig servermodule pedestinations

「名前=値」のペア	説明
destenable=true | false	**true**：有効な IP アドレスが設定された後で、個別のプラットフォームのイベントフィルタ宛先を有効にします。 **false**：個別のプラットフォームのイベントフィルタを無効にしますÂB
index=number	宛先のインデックスを設定します。
ipaddress=ip address	宛先の IP アドレスを設定します。
communitystr=text	パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを設定します。

omconfig system platformevents/omconfig servermodule platformevents

omconfig system platformevents または **omconfig servermodule platformevents** コマンドを使用して、特定のプラットフォームイベントに対して取るシャットダウン処置（ある場合）を設定します。また、プラットフォームのイベントフィルタ警告生成を有効または無効にすることもできます。

注意：プラットフォームイベントシャットダウン処置を「none」または「power reduction」以外に設定していた場合、指定のイベントが発生するとシステムは強制終了されます。このシャットダウンはファームウェアによって開始され、最初にオペレーティングシステムや実行中のアプリケーションをシャットダウンせずに実行されます。

表 4-23 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

メモ：警告設定は相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。処置設定も相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。ただし、警告設定と処置設定は互いに排他的ではありません。

表 4-23. 警告処置コマンドのパラメータ

処置	説明
alert=disable	SNMP 警告を無効にします。
alert=enable	SNMP 警告の送信を有効にします。
action=none	システムがハング、またはクラッシュしたときに処置を行いません。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powerreduction	電力消費量が低下し、警告しきい値に達するまでプロセッサ速度を減少します。システムの電力消費量が警告しきい値以下に留まれば、プロセッサ速度を増大します。 **メモ：**この処置は、非モジュラシステムにのみ適用されます。
action=reboot	オペレーティングシステムのシャットダウンを強制し、システム起動を開始して、BIOS チェックを実行してからオペレーティングシステムを再度読み込みします。

表 4-24 は、プラットフォームイベントを設定できるコンポーネントとイベントの一覧を表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。

表 4-24. omconfig system platformevents

イベント名	説明
alertsenable=true | false	**true**：プラットフォームのイベントフィルタ警告の生成を有効にします。 **false**：プラットフォームのイベントフィルタ警告の生成を無効にします。 **メモ：**この設定は個別のプラットフォームのイベントフィルタ警告設定とは無関係です。プラットフォームのイベントフィルタで警告を生成するには、個別の警告とグローバルイベント警告の両方を有効にする必要があります。
event=batterywarn	バッテリがエラーの状態を保留していることをバッテリデバイスが検知した場合の処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=batteryfail	バッテリがエラーを発生したことをバッテリデバイスが検知した場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=discretevolt	分離型電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検知された場合、処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=fanfail	ファンプローブでファンの稼動が遅すぎる、または動いていないことが検知された場合、処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=hardwarelogfail	ハードウェアログでエラー値が検知された場合、警告生成を有効または無効にします。
event=intrusion	シャーシが開かれた場合に処置を設定したり、警告生成を有効または無効にします。
event=powerwarn	電力デバイスプローブで電源装置、VRM、DC/DC コンバータがエラー条件を保留にしている場合に処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=powerabsent	プロセッサプローブで電源装置が不在であることが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=powerfail	電力デバイスプローブで電源装置、VRM、DC/DC コンバータがエラーを発生した場合に処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=processorwarn	プロセッサプローブによってプロセッサがピークパフォーマンスまたは速度を下回っていることが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=processorfail	プロセッサプローブでプロセッサがエラーを発生したことが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=processorabsent	プロセッサプローブでプロセッサが不在であることが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。

event=redundegrad	システムのファンまたは電源装置が動作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が不完全になった場合に処置を設定するか、警告生成を有効または無効にします。
event=redunlost	システムのファンまたは電源装置が動作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が失われたか「動作している冗長コンポーネントがない」状態になったときに処置を設定するか、警告生成を有効または無効にします。
event=systempowerwarn	電力消費量プローブが警告値を検知した場合の処置を設定します。
event=systempowerfail	電力消費量プローブがエラー値を検知した場合の処置を設定します。
event=powerreduction	システムが電力の低減モードにセットされている場合の処置を設定します。
event=tempwarn	温度プローブで温度が最高温度または最低温度に近づいていることが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=tempfail	温度プローブで温度が高すぎ、または低すぎて適切な操作ができないことが検知された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=voltfail	電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検知された場合、処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=watchdogasr	システムがハングした、または応答していない場合、ASR によって設定された警告生成を有効または無効にします。

omconfig system events/omconfig servermodule events

omconfig system events または **omconfig servermodule events** コマンドを使用して、お使いのシステム上のコンポーネントの SNMP トラップを有効および無効にします。

メモ: すべてのイベントの種類がシステム上にあるとは限りません。

omconfig system events コマンドの「名前＝値」ペアには 4 つのパラメータがあります。

- source
- type
- severity
- index

ソース

現在のところ、SNMP が唯一のサポートされた、システムコンポーネントイベント通知ソースなので、`source=snmptraps` が必要な「名前=値」のペアです。

```
omconfig system events source=snmptraps
```
または
```
omconfig servermodule events source=snmptraps
```

タイプ

タイプは、イベントに関与するコンポーネントの名前を示しています。表 4-25 は、システムイベントの種類の有効なパラメータを表示します。

表 4-25. システムイベントの種類パラメータ

「名前=値」のペア	説明
type=accords	AC コードのイベントを設定します。
type=battery	バッテリのイベントを設定します。
type=all	すべてのデバイスの種類のイベントを設定します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントを設定します。
type=fans	ファンのイベントを設定します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントを設定します。
type=log	ログのイベントを設定します。
type=memory	メモリのイベントを設定します。
type=powersupplies	電源装置のイベントを設定します。
type=redundancy	冗長性のイベントを設定します。
type=systempower	システム電力のイベントを設定します。
type=temps	温度のイベントを設定します。
type=volts	電圧のイベントを設定します。

重大度

イベント設定のコンテキストでは、重大度は Server Administrator がコンポーネントの種類のイベントを通知する前にイベントがどれぐらい重大であるかを決定します。同じシステムシャーシに同じ種類の複数のコンポーネントがある場合、index=<数値> パラメータを使用して、コンポーネントの番号に従ってイベントの重大度を通知するかどうか指定することができます。表 4-26 は、有効な重大度のパラメータを表示します。

表 4-26. システムイベント重大度パラメータ

コマンド	結果	説明
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=info **または omconfig** servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=info	情報イベント、警告イベントおよび重要イベントの通知を有効にします。	最も制限の少ないイベント通知。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=warning **または omconfig** servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=warning	警告イベントと重要イベントの通知を有効にします。	コンポーネントが正常な状態に戻ったときなどに、情報イベント通知を省略します。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=critical **または omconfig** servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=critical	重要イベントのみの通知を有効にします。	制限的なイベント通知。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=none または omconfig servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=none	イベント通知を無効にします。	イベント通知はありません。

インデックス

インデックスは、特定のコンポーネントのイベント番号を指します。インデックス パラメータはオプションです。インデックスパラメータを省略すると、イベントは、すべてのファンなど指定された種類のすべてのコンポーネント用に設定されます。たとえば、システムに 2 つ以上のファンが含まれる場合、特定のファンのイベント通知を有効にしたり無効にできます。コマンド例を次に示します。

```
omconfig system events type=fan index=0 severity=critical
```
または
```
omconfig servermodule events type=fan index=0 severity=critical
```

このコマンド例の結果、Server Administrator はシステムシャーシの最初のファン（インデックス 0）が重要ファン RPM に達した場合にのみ SNMP トラップを送信します。

omconfig system webserver/omconfig servermodule webserver

omconfig system webserver または **omconfig servermodule webserver** コマンドを使用して、Web Server を起動または停止します。表 4-27 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-27. Web Server 設定パラメータ

「名前=値」のペア	説明
action=start	Web Server をスタートします。
action=stop	Web Server を停止します。
action=restart	Web Server を再起動します。

omconfig system recovery/omconfig servermodule recovery

omconfig system recovery または **omconfig servermodule recovery** コマンドを使用して、オペレーティングシステムがハング状態またはクラッシュ状態の場合の処置を設定します。システムのオペレーティングシステムがハング状態にあると判断される前に、何秒間経過する必要があるかを設定することもできます。表 4-28 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

メモ: タイマーの上限と下限はシステムのモデルと構成によって異なります。

表 4-28. 回復パラメータ

「名前=値」のペア	説明
action=none	オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュした場合に、何の処置もしません。
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルはハードドライブのようなシステムコンポーネントを再初期化する場合に役立ちます。
timer=<数値>	システムでオペレーティングシステムがハングの状態にあると判断される前に経過する必要がある秒数（20 秒から 480 秒）。

回復コマンド例

オペレーティングシステムハング時の処置を設定してパワーサイクルするには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery action=powercycle
```
または

```
omconfig servermodule recovery action=powercycle
```

ハング状態が 120 秒継続してから回復処置を開始するよう設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery timer=120
または
omconfig servermodule recovery timer=120
```

omconfig system shutdown/omconfig servermodule shutdown

omconfig system shutdown または **omconfig servermodule shutdown** コマンドを使用して、システムのシャットダウン方法を決定します。デフォルト設定では、システムのシャットダウン時、電源をオフにする前にオペレーティングシステムをシャットダウンします。オペレーティングシステムをシャットダウンするとまず、システムの電源をオフにする前にファイルシステムを終了します。オペレーティングシステムを最初にシャットダウンしたくない場合は、**osfirst=false** パラメータ を使うことができます。表 4-29 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-29. シャットダウンパラメータ

「名 前=値」のペア	説明
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルはハードドライブのようなシステムコンポーネントを再初期化する場合に役立ちます。
osfirst=true | false	**true**:システムをシャットダウンする前にファイルシステムを閉じて、オペレーティングシステムを終了します。 **false**:システムをシャットダウンする前に、オペレーティングシステムをシャットダウンしたりファイルシステムを閉じません。

シャットダウンコマンド例

シャットダウン処置を設定して再起動するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot
または
omconfig servermodule shutdown action=reboot
```

システムの電源をオフにする前に、オペレーティングシステムのシャットダウンをバイパスするには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot osfirst=false
または
omconfig servermodule shutdown action=reboot osfirst=false
```

omconfig system thrmshutdown/omconfig servermodule thrmshutdown

omconfig system thrmshutdown または **omconfig servermodule thrmshutdown** コマンドを使用して、サーマルシャットダウン処置を設定します。温度プローブが温度プローブ警告またはエラーイベントを検知する場合に、サーマルシャットダウンが発生するように設定することができます。

表 4-30 は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 4-30. サーマルシャットダウンパラメーター

「名 前=値」のペア	説明
severity=disabled | warning | failure	**disabled**:サーマル シャットダウンを無効にする。システム管理者による操作が必要です。 **warning**:温度警告イベントが検知されると、シャットダウンを実行します。警告イベントは、シャーシ内の温度プローブが最大温度警告しきい値を超過した温度(摂氏)を読み取ると発生します。 **failure**:温度エラーイベントが検知されると、シャットダウンを実行します。 エラーイベントは、シャーシ内の温度プローブが最大温度エラーしきい値を超過した温度(摂氏)を読み取ると発生します。

サーマルシャットダウンコマンドの例

温度プローブがエラーイベントを検知した場合にサーマルシャットダウンを引き起こすには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=failure
または
omconfig servermodule thrmshutdown severity=failure
```

システム管理者が **omconfig system shutdown** を手動で開始するように、サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=disabled
```

または

```
omconfig servermodule thrmshutdown severity=disabled
```

目次ページに戻る

目次ページに戻る

用語集

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

以下に、Dell™ の ユーザーマニュアルで使用されている専門用語、略語、および頭字語の説明を一覧表示しています。

A

アンペア（ampere）の略語。

AC

交流電流（Alternating Current）の略語。

AC 電源スイッチ

プライマリ AC 入力に障害が起きたときに、スタンバイの AC 入力に切り替えることによってAC 電源の冗長性を提供する 2 つの AC 電源入力を持つスイッチ。

ADB

割り当てデータベース（assign database）の略語。

AGP

accelerated graphics port の略語。 Intel® Pentium® Pro システムで使用できる高パフォーマンスのグラフィックインタフェース。

ASCII

情報交換用米国標準コード（American Standard Code for Information Interchange）の頭字語。 ASCII 文字コードの文字だけを含むテキストファイル（通常、Microsoft® Windows® のメモ帳などのテキストエディタで作成）は、ASCII ファイルと呼ばれます。

ASIC

Application-Specific Integrated Circuit の頭字語。

ASPI

Advanced SCSI programming interface の頭字語。

ASR

自動システム回復（Automatic System Recovery）の略。 ASR は、1 つまたは複数のドメインがソフトウェアやハードウェアのエラー、または受け入れられない環境のためにシステムが非アクティブになった場合に、システムが適切に設定されたドメインを実行するよう復元する手順から構成されています。

Asset Tag コード

通常システム管理者によって、セキュリティおよびトラッキング目的で、各コンピュータに個別割り当てられるコード。

autoexec.bat ファイル

autoexec.bat ファイルはコンピュータ起動時に実行されます（**config.sys** ファイルのコマンド実行後）。 このスタートアップファイルには、コンピュータに接続されている各デバイスの特徴を定義するコマンドが入っており、Active Directory 以外の場所に保存されているプログラムを検索して実行します。

BGA

Ball Grid Array の略語で、PC ボードへの接続に、ピンではなく、ハンダボールのアレイを用いる IC パッケージ。

BIOS

基本入出力システム（Basic Input/Output System）の頭字語。 コンピュータの BIOS は、フラッシュメモリチップに保存された複数のプログラムからなります。 BIOS は次の事項を制御します。

- マイクロプロセッサと周辺機器（キーボード、ビデオアダプタなど）との間の通信
- 各種の制御機能（システムメッセージなど）

BIOS のフラッシュ

ROM でなくフラッシュメモリに保存される PC BIOS。 ROM BIOS が新しいチップと交換しなければならないのに対し、BIOS のフラッシュチップはアップデートすることができます。

BMC

ベースボード管理コントローラの略。このコントローラは IPMI 構造にインテリジェンスを提供します。

bpi

インチあたりのビット数（bits per inch）の略語。

bps

秒あたりのビット数（bits per second）の略語。

BTU

英国熱量単位（British thermal unit）の略語。

C

摂氏（Celsius）の略語。

CA

認証局（Certificate Authority）の略語。

CDRAM

Cached DRAM の略語。三菱が開発した小型 SRAM キャッシュを含む高速 DRAM メモリチップ。

CD-ROM

コンパクト ディスク読み取り専用メモリ（compact disc read-only memory）の略語。 CD ドライブは光学テクノロジを使用して、CD からデータを読み取ります。 CD は読み取り専用ストレージデバイスです。標準 CD ドライブで新しいデータを CD に書き込むことはできません。

CI/O

Comprehensive Input/Output の略語。

CIM

DMTFからの管理情報について説明したモデル、Common Information Model の略語。 CIM は実装に依存しないため、異なる管理アプリケーションでさまざまなソースから必要なデータを収集で

きます。 CIM にはシステム、ネットワーク、アプリケーションおよびデバイスのスキーマが含まれ、新しいスキーマが追加されます。 CIM データと、シンプルネットワーク管理プロトコル（SNMP）エージェントからの MIB データ、および DMI 準拠システムからの管理情報フォーマット（MIF）データのやりとりに対しマッピング技術を提供します。

CIMOM

Common Information Model Object Manager の略語。

cm

センチメートル。

CMC

Chassis Management Controller の略語。

CMOS

相補形金属酸化膜半導体（Complementary metal-oxide semiconductor）の略語。 通常、コンピュータの CMOS メモリチップは NVRAM 記憶用に使用されます。

COM*n*

コンピュータにある 4 つのシリアルポートのデバイス名は COM1、COM2、COM3、およびCOM4 です。 割り込みのデフォルトは COM1 と COM3 は IRQ4、COM2 と COM4 は IRQ3 です。 したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときには、割り込みのコンフリクトを作成しないように注意する必要があります。

Config.sys ファイル

コンピュータを起動すると、（**autoexec.bat** ファイルのコマンドが実行される前に）**config.sys** ファイルが実行されます 。 このスタートアップファイルには、インストールするデバイスや使用するドライバを指定するコマンドが含まれます。 このファイルには、オペレーティングシステムのメモリ使用方法とファイル管理方法を決定するコマンドが含まれます。

COO

所有コスト（Cost of Ownership）の略語。

cpi

インチあたり文字（characters per inch）の略語。

CPU

中央演算処理装置（Central processing unit）の略語。 マイクロプロセッサ を参照してください。

CRC

Cyclic Redundancy Code の略語。保存または転送するデータが破壊されている場合、それを検知するためにそのデータから算出した数値。 CRC を再計算して転送された値と比較することによって、転送エラーの種類が検知できます。

CSR

証明書署名要求（Certificate Signing Request）の略語。 他のシステムへの接続を求めるシステムの身元を識別し認証する、Web Server によって生成された複雑なテキストファイル。 各 CSR に存在するデジタル署名は、セキュアなシステムの識別に役立ちます。

Server Administrator を実行しているシステムに Remote Access Controller がある場合、RAC に付属している CSR は Dell に属します。 独自の CSR を会社が生成する場合、認証局から固有の CSR を要求して、Dell CSR を上書きすることができます。

DAT

デジタル オーディオ テープ（Digital Audio Tape）の略語。

dB

デシベル（decibel）の略語。

dBA

補正デシベル（adjusted decibel）の略語。

DC

直流電流（Direct Current）の略語。

DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol の略語。 IP アドレスを各システムに静的に割り当てるのではなく、サーバによって発行するネットワークの設定方法。

DIMM

デュアル インライン メモリモジュール（Dual in-line memory module）の略語。 DRAM チップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

ドイツ工業規格（Deutsche Industrie Norm） の頭字語。ドイツの標準設定を行う組織。

DIN コネクタは、DIN によって定義された多くの標準の 1 つに適合するコネクタです。 DIN コネクタは、パソコンで幅広く使用されています。 たとえば、PC のキーボードコネクタは DIN コネクタです。

DIP

デュアル インライン パッケージ（dual in-line package）の略語。 システム基板や拡張カードなどの回路基板には、回路基板を設定するための DIP スイッチが含まれている場合があります。 DIP スイッチは常にオンとオフの切り替えスイッチです。

DMA

ダイレクトメモリアクセス（direct memory access）の略語。 DMA チャネルを使うと、RAM とデバイス間の特定の種類のデータ転送を行ってマイクロプロセッサをバイパスできます。

DMI

デスクトップマネジメントインタフェース（Desktop Management Interface）の略語。 DMI はコンピュータシステムのソフトウェアおよびハードウェアの管理を有効にします。 DMI は、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、および管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を収集します。 システムコンポーネントに関する情報は、MIF 形式のファイルとして表示されます。

DMTF

Distributed Management Task Force の略で、デルがメンバーとして加盟するハードウェアおよびソフトウェア プロバイダを代表する企業の国際的な資本連合。

dpi

ドット パー インチ（dots per inch）の略語。

DPMS

ディスプレイ電力管理信号（Display Power Management Signaling）の略語。 モニタの電力管理状況をアクティブにするために、ビデオ コントローラが送信するハードウェア信号を定義する Video Electronics Standards Association（VESA®）によって作成された標準。 モニタは、コンピュータのビデオコントローラから適切な信号を受信した後で電力管理状態に入るよう設計されている場合、DPMS 準拠と呼ばれます。

DRAC

リモート管理機能（Remote Management Capability）の略語。 「RAC」を参照してください。

DRAM

ダイナミック ランダムアクセス メモリ（Dynamic random-access memory）の略語。 コンピュータの RAM は通常、DRAM チップによって構成されています。 DRAM チップは電気量を長く保存できないため、コンピュータの DRAM チップは定期的に更新されます。

DTE

データ端末装置（Data terminal equipment）の略語。 コンピュータシステムのように、ケーブルまたは通信回線を使ってデジタル形式でデータを送信できるデバイス。 DTE は、モデムのようなデータ通信機器（DCE）デバイス を使って、ケーブルまたは通信回線に接続されます。

ECC

誤り訂正符号（Error checking and correction）の略語。

ECP

拡張機能ポート（Extended Capabilities Port）の略語。

EDO

Extended data output dynamic random access memory の略語。コンベンショナル DRAM より高速な DRAM です。EDO RAM は前のブロックを CPU に送信するのと同時に次のメモリのブロックを取り出すことができます。

EEPROM

Electrically erasable programmable read-only memory の略語。

EIDE

Enhanced Integrated Drive Electronics の略語。 EIDE デバイスは、従来の IDE 標準に、1 つまたは複数の次の拡張機能を追加します。

- 最大 16 MB/ 秒のデータ転送レート
- CD ドライブなど、ハードドライブ以外のドライブもサポート
- 528 MB 以上の容量を持つハードドライブをサポート
- 2 つのデバイスを接続したコントローラを最大 2 つまでサポート

EISA

Extended Industry-Standard Architecture の略語。32 ビットの拡張バス規格。EISA コンピュータの拡張カードコネクタは、8 ビットまたは 16 ビットの ISA 拡張カードとも互換性があります。

EISA 拡張カードをインストールするときに設定コンフリクトを回避するには、EISA 設定ユーティリティを使用してください。 このユーティリティは、どの拡張スロットにカードを入れるか指定し、対応する EISA 設定ファイルからカードの必要システム リソース情報を取得します。

EMC

電磁環境適合性（Electromagnetic Compatibility）の略語。

EMI

Electromagnetic interference の略語。

EMM

Expanded memory manager の略語。 Intel386™ 以上のマイクロプロセッサでコンピュータの拡張メモリをエミュレートする拡張メモリを使用するユーティリティ。

EMS

拡張メモリ仕様（Expanded Memory Specification）の略語。

EPP

Enhanced Parallel Port の略語。 ネットワークや SCSI アダプタなど、ノートブック コンピュータのパラレルポートに接続する多くのデバイスはこの EPP 標準を利用するように設計されています。

EPROM

erasable programmable read-only memory の略語。

ERA

埋め込みリモートアクセス（Embedded Remote Access）の略語。

ERA/O

Embedded Remote Access option の略語。

ESD

静電気放出（Electrostatic discharge）の略語。

ESM

組込みサーバー管理（Embedded Server Management）の略。

F

華氏。

FAT

ファイル割り当てテーブル（File allocation 表）の略語。 FAT はファイルストレージを整理および追跡するために MS-DOS で使用されるファイルシステム構造です。 Windows NT® オペレーティングシステム（および以降の Windows バージョン）は、オプションとして TAT ファイルシステム構造を使用できます。

FCC

連邦通信委員会（Federal Communications Commission）の略語。

FEPROM

Flash Erasable Programmable Read-Only Memory の略語。 フラッシュメモリは EEPROM に似た不揮発性ストレージ デバイスの一種ですが、消去はブロックまたはチップ全体単位でのみ行われます。

FIFO

first-in、first-out の略語。 コンピュータプログラミングで FIFO（first-in、first-out）は、キューまたはスタックからのプログラム作業要求を扱う方法です。これで最も古い要求順に取り出すことができます。

FPBGA

Field Programmable Gate Array の略語。高いゲート密度を持った PLD (Programmable Logic Chip)。

FRU

フィールド交換可能ユニット（Field Replaceable Unit）の略語。

FTP

ファイル転送プロトコル（File transfer protocol）の略語。

G

重力。

GB

ギガバイト（Gigabyte）の略語。 ギガバイトは 1,024 メガバイト、1,073,741,824 バイトと同等。

GUI

グラフィカル ユーザー インタフェース（Graphical user interface）の略語。

h

16 進法（Hexadecimal）の略語。 基本の 16 進数システムは、システムのコンピュータの RAM やデバイスの I/O メモリアドレスを識別するためにプログラミングでよく使用されます。 たとえば、0 ～ 16 の10 進数を 16 進法で表すと次のようになります。 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10。 テキストでは、16 進法を表記する場合は、数字の後に *h* を付けます。

HIP

Dell OpenManage™ Hardware Instrumentation Package の略語。

HMA

ハイメモリ領域（high memory area）の略語。 1 MB を超える拡張メモリの最初の 64 KB を指します。 XMS に準拠するメモリマネージャは、HMA をコンベンショナルメモリの直接的な拡張領域として HMA を使用することができます。「UMA (upper memory area)」および「XMM」も参照してください。

HPFS

Windows NT と新しいバージョンの Windows オペレーティングシステムの高性能ファイルシステム（High Performance File System）オプションの略語。

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル、セキュア（HyperText Transmission Protocol、Secure）の略。 HTTPS は HTTP の変形で、ウェブブラウザがセキュアトランザクションを処理するのに使用します。 HTTPS は、HTTP の下に SSL が来るだけの固有のプロトコルです。 SSL を持つ HTTP では「https://」を使い、SSL を使わない HTTP の URL には引き続き「http://」を使用します。

Hz

ヘルツ（Hertz）の略語。

I/O

入出力（input/output）の略語。 キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。 一般に、I/O 作業はコンピュータ計算作業とは別に考えられます。 たとえばプログラムが文書をプリンタに送信すると、プリンタは出力作業を行います。一方、プログラムが用語を並べ替える作業はコンピュータ計算作業と考えられます。

ICES

Interference-Causing Equipment Standard（カナダ）の略語。

ICU

ISA コンフィグレーション ユーティリティの略語。

ID

識別（identification）の略語。

IDE

Integrated Device Electronics の略語。 IDE は、ハードドライブや CD で主に使用されているコンピュータシステムインタフェースです。

iDRAC

Integrated Dell Remote Access Controller の略語。

IHV

Independent Hardware Vendor の略語。 IHV はしばしば、製造するコンポーネント用に独自の MIB を開発します。

IP

インターネットプロトコル（IP）は、データをインターネット上で 1 つのコンピュータから別のコンピュータに送信する方法、またはプロトコルです。 インターネット上の各コンピュータ（ホストと呼ばれる）には、最低 1 つの IP アドレスが付いており、インターネットの他のすべてのコンピュータから一意に識別します。

IPMI

Intelligent Platform Management Interface の略語。Intel アーキテクチャーベースのエンタープライズコンピュータで使用される複数の周辺機器を 管理するための業界標準のインタフェース。IPMI の主な特徴は、メインプロセッサ、BIOS、オペレーティングシステムから独立しているインベントリ、監視、ログ、回復制御機能です。

IPX

ネットワーク間パケット交換（Internetwork Packet Exchange）の頭字語。

IRQ

割り込み要求（Interrupt request）の略語。 周辺機器によってデータ送受信される信号は、IRQ 回線を通じてマイクロプロセッサに送られます。 各周辺接続には IRQ 番号が割り当てられます。たとえば、コンピュータの最初のシリアルポート（COM1）は、デフォルトでは IRQ4 に割り当てられます。 2 つのデバイスで同じ IRQ 割り当てを共有することはできますが、両方のデバイスを同時に実行することはできません。

ISA

Industry-Standard Architecture の略語。 16 ビット拡張バスのデザイン。 ISA コンピュータの拡張カードコネクタは、8 ビットの ISA 拡張カードとも互換性があります。

iSCSI

Internet SCSI の略語。 データストレージ機能をリンク付ける IP ベースのストレージネットワーク規格。IP ネットワーク上で SCSI コマンドを伝送することにより、iSCSI はイントラネット上でのデータ転送を容易にしたり長距離間でのストレージ管理を行うのに使用されます。

ITE

情報技術機器（Information Technology Equipment）の略語

JVM

Java Virtual Machine の略語。

K

キロの略語。1,000 を意味する。

KB

キロバイトの略語。1,024 バイト。

KB/sec

秒あたりのキロバイト（kilobytes per second）の略語。

Kbit（s）

キロビットの略語。1,024 ビット。

Kbit（s）/sec

秒あたりのキロビット（kilobits per second）の略語。

Kerberos

秘密鍵暗号方式を用い、クライアント / サーバーアプリケーションのための強固な認証システムを提供するために設計されたネットワーク認証プロトコル。

kg

キログラムの略語。1,000 グラム。

kHz

キロヘルツの略語。1,000 ヘルツ。

LAN

ローカルエリア ネットワーク（local area network）の略語。 LAN システムは、LAN 専用回線によってすべての機器をつなぐため、通常、同じ建物か近くのいくつかの建物間に限られています。

lb

ポンド。

LCC

leaded or leadless chip carrier の略語。

LDAP

Lightweight Directory Access Protocol の頭字語。 TCP/IP 上で実行しているディレクトリサービスのクエリおよび変更するためのネットワークプロトコル。

LED

発光ダイオード（light-emitting diode）の略語。 電流が流れると発光する電子デバイス。

LIF

Low insertion force の略語。 コンピュータによっては LIF ソケットとコネクタを使用して、マイクロプロセッサチップなどのデバイスを最小の圧力でデバイスにインストールしたり取り外したりできるものがあります。

LOM

マザーボード上の LAN（LAN on Motherboard）の略語。

LPTn

コンピュータ上にある 1 ～ 3 番目のパラレルポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、LPT3 です。

LRA

ローカル応答エージェント（Local Response Agent）の略語。

LS ドライブ

レーザーサーボテクノロジを使って、標準 3.5 インチディスケットのように 120 MB までのデータを格納できる LS 120 ディスケットを読み込むドライブ。

LSI

Large-Scale Integration の略語。

LUN

Logical Unit Number の略語。SCSI ID を共有する複数のデバイスの中から特定なデバイスを選択するために使われるコード。

mA

ミリアンペア。

mAh

ミリアンペア時（milliampere-hour）の略語。

Mb

メガビット（megabit）の略語。

MB

メガバイト（megabyte）の略語。 メガバイト は、1,048,576 バイトです。ただし、ハードドライブストレージの容量を表すときには、1,000,000 バイトを意味する場合もあります。

MB/sec

1秒あたりのメガバイト数（megabyte(s）per second）の略語。

Mbps

1秒あたりのメガビット数（megabits per second）の略語。

MBR

マスタブートレコード（master boot record）の略語。

MCA

マルチプロセッシング用に設計されたマイクロ チャネル アーキテクチャ（Micro Channel Architecture）の略。 MCA は新しい周辺機器を取り付けるときに発生する可能性のあるコンフリクトをなくします。 MCA は EISA または XT バス アーキテクチャとは互換性がないため、古いカードを一緒に使用することはできません。

MHz

メガヘルツ（megahertz）。

MIB

管理情報ベース（management information base）の略語。 MIB を使用して、SNMP 管理デバイスにステータス / コマンドの詳細を送受信します。

MIDI

楽器デジタルインタフェース（musical instrument digital interface）の略語。

MIF

管理情報フォーマット（management information format）の頭字語。 MIF ファイルには、情報、状態、コンポーネント計装へのリンクが入っています。 MIF ファイルは、DMI サービスレイヤによって MIF データベースにインストールされます。 MIF の内容は DTMF 作業委員会によって定義されており、MIF 定義ドキュメントとして公開されています。 このドキュメントには、DMI 管理可能コンポーネントに関連するグループおよび属性が識別されています。

mm

ミリメートル。

MOF

managed object format の略語。ASCII ファイルに CIM スキーマの公式定義が入っています。

mouse

画面上でのカーソルの動きを制御するポインティングデバイス。 マウス対応のソフトウェアを使用すると、画面に表示されたオブジェクトを指してマウスボタンをクリックすることにより、特定のコマンドを起動できます。

MPEG

Motion Picture Experts Group の頭字語。 MPEG はデジタルビデオファイルのフォーマットです。

ms

ミリ秒（millisecond）の略語。

MTBF

故障までの平均時間（mean time between failures）の略語。

mV

ミリボルト（millivolt）の略語。

name

オブジェクトまたは変数の名前は SNMP MIB（Management Information Base）ファイル、DMI MIF（Management Information Format）ファイル、または CIM MOF（Management Object File）で識別する文字列です。

NDIS

Network Driver Interface Specification の略語。

NIC

ネットワークインタフェースコントローラ（network interface controller）の頭字語。

NIF

network interface function の頭字語。 この用語は NIC と同義です。

NIS

Network Information System の略語。 NIS は、ネットワークネームサービスおよび小規模ネットワーク用の管理システムです。 すべてのホストのユーザーが、1 つの ID およびパスワードで、ネットワーク内にあるすべてのホスト上のファイルまたはアプリケーションにアクセスすることができます。

NMI

nonmaskable interrupt の略語。 デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラー（パリティエラーなど）をマイクロプロセッサに知らせます。

ns

ナノ秒（nanosecond）の略語。1 ナノ秒は、10 億分の 1 秒です。

NTFS

Windows NT と新しいバージョンの Windows オペレーティングシステムの NT ファイルシステム（NT File System）オプションの略語。

NuBus

Apple® Macintosh® パーソナルコンピュータで使用する専用拡張バス。

NVRAM

不揮発性ランダムアクセスメモリ（non-volatile random-access memory）の略語。 NVRAM は、コンピュータの電源を切っても情報が保持されるメモリです。 NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保存に使用されます。

OEM

相手先ブランド製造メーカー（Original Equipment Manufacturer）の略語。 OEM は、再販業者のブランド名を使って、再販または別の製品を製造するために、設備を他のメーカーに供給する会社。

OID

object identifier の略語。 オブジェクトを一意に識別する、実装固有の整数またはポインタ。

OSWDT

オペレーティングシステムウォッチドッグタイマー（Operating System Watchdog Timer）の略語。ウォッチドッグタイマーは、オペレーティングシステムの応答がない場合にシステムリセットを引き起こすコンピュータハードウェアのタイミングデバイスです。

OTP

one-time programmable の略語。

PCI

周辺機器相互接続（Peripheral Component Interconnect）の略語。 PCI は、Intel Corporation が開発したローカルバス規格です。

PCMCIA

Personal Computer Memory Card International Association。 ノートブックコンピュータに接続できるモデムや外付けハードドライブなどのデバイスの規格を作成した国際通商協会。

PERC

Expandable RAID Controller の略語。

PGA

pin grid array の略語。マイクロプロセッサチップの取り外しが可能なマイクロプロセッサソケット。

PIC

プログラム可能割り込み信号コントローラ（programmable interrupt controller）の頭字語。

PIP

周辺機器交換プログラム（peripheral interchange program）の頭字語。 ファイルをコピーするのに使用する CP/M ユーティリティプログラム。

PLCC

plastic leaded chip carrier の略語。

PME

電力管理イベント（Power Management Event）の略語。 PME は周辺機器相互接続上のピンで、PCI デバイスは PME によって wake イベントをアサートできます。

POST

電力投入時セルフテスト（Power-On Self-Test）の略語。 コンピュータの電源を入れると、オペレーティングシステムがロードされる前に、POSTによってさまざまなシステムコンポーネント（RAM、ディスクドライブ、キーボードなど）がテストされます。

ppm

1分あたりのページ数（pages per minute）の略語。

PQFP

plastic quad flat pack の略語。マイクロプロセッサチップが固定されて取り外しできないマイクロプロセッサソケット。

PS

電源装置（Power Supply）の略語。

PS/2

Personal System/2 の略語。

PXE

Pre-boot eXecution Environment の略語。

QFP

quad flat pack の略語。

RAC

Remote Access Controller の略語。 Dell OpenManage Server Administrator は、すべての RAC をサポートします。 （DRAC II、DRAC III、DRAC III/XT、ERA、および ERA/O）

RAID

Redundant array of independent drives の略語。

RAM

ランダムアクセスメモリ（random-access memory）の略語。 コンピュータプログラムの手順やデータの保存に使用される主な一時記憶領域。 RAM 内部の各領域は、メモリアドレス と呼ばれる数値によって識別されます。 コンピュータの電源を切ると、RAM に格納されたすべての情報は失われます。

RAMBUS

Rambus® DRAM の略語。Rambus, Inc. が開発したメモリ（DRAM）の種類。

RAMDAC

random-access memory digital-to-analog converter の頭字語。

RAW

未処理。 この用語は、I/O デバイスに未解釈で渡されるデータを指します。 対照的に、cooked は、I/O デバイスに渡される前に処理済みのデータを指します。

専用のフォーマットに保存されていない非圧縮テキストを指すこともあります。 この用語は、端末へのデータ出力のクックドモードとローモードをサポートする UNIX から来ています。

RDRAM

Rambus DRAM の頭字語。 Rambus, Inc. が開発した DRAM チップテクノロジ。コンピュータにはダイレクト RDRAM が使用されています。ダイレクト RDRAM チップは RIMM モジュールにあります。これは DIMM に似ていますが、ピン設定が異なります。 チップをデュアル チャネルで作成して、転送レートを 2 倍の 3.2 GB/sec にすることができます。

readme ファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属しているテキストファイル。そのソフトウェアまたはハードウェアに関する補足情報やマニュアルのアップデートが入っています。 通常、readme ファイルには、インストール情報、新製品の拡張機能、マニュアルに記載されていない訂正事項、確認されている問題点など、その製品を使用する際に必要な情報が入っています。

RFI

無線電波障害（radio frequency interference）の略語。

RGB

赤 / 緑 / 青（red/green/blue）の略語。

RIMM

Rambus In-line Memory Module の略語。Rambus の DIMM モジュールに相当します。

ROM

読み取り専用メモリ（read-only memory）の頭字語。 コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。 RAM とは違って、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。 ROM コードの例として、コンピュータの起動ルーチンと POST を起動するプログラムなどが挙げられます。

ROMB

オンボード RAID（RAID on motherboard）の略語。 RAID コントローラがシステムの基板に統合されている場合、このシステムは ROMB テクノロジを搭載しています。

RPM

毎分ごと回転数（revolutions per minute）の略語。

RTC

リアルタイムクロック（real-time clock）の略語。 RTC はコンピュータに内蔵されたバッテリ方式のクロック回路で、コンピュータの電源を切っても日付と時刻の情報が保持されます。

SAS

Serial Attached SCSI の頭字語。

SCA

single connector attachment の略語。

SCSI

small computer system interface の頭字語。 SCSI は、標準ポートよりもデータ伝送速度が速い I/O バスインタフェースです。 1 つの SCSI インタフェースに最大 7 個（新しい SCSI タイプによっては 15 個）のデバイスを接続できます。

SDMS

SCSI デバイス管理システム（SCSI device management system）の略語。

sec

秒（second）の略語。

SEC

single-edge connector cartridge の略語。

SGRAM

synchronous graphics RAM の頭字語。

SIMD

Single Instruction Multiple Data の略語。

SIMM

single in-line memory module の頭字語。 DRAM チップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

SIP

single in-line package の頭字語。接続ピンが一方から突き出た電子コンポーネントのハウジングの一種。 SIP は、シングル インライン ピン パッケージ（Single In-line Pin Package-SIPP）とも呼ばれます。

SKU

stock keeping unit の頭字語。

SMART

Self-Monitoring Analysis Reporting Technology の頭字語。 ハードディスクドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS が報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。 この技術を利用するには、SMART 準拠のハードディスクドライブおよびシステム BIOS のサポートが必要です。

SMBIOS

system management BIOS の頭字語。

SMD

surface mount device の略語。

SMTP

Simple Mail Transfer Protocol の略語。インターネットを介して電子メールを通信する方法。

SNMP

シンプルネットワーク管理プロトコル（Simple Network Management Protocol）の略語。 SNMPは、ネットワークマネージャがワークステーションをリモートで監視および管理するための業界標準のインタフェースです。

SODIMM

small outline-DIMM の頭字語。 TSOP チップパッケージの使用により、薄型プロファイルを持つ DIMM モジュール。 SODIMM は一般にラップトップコンピュータで使用されます。

SRAM

静的ランダムアクセスメモリ（static random-access memory）の略語。 SRAM チップは定期的なリフレッシュを必要としないため、DRAM チップよりかなり高速です。

SVGA

super video graphics array の略語。 VGA と SVGA は、従来の規格よりも高い解像度と多くの表示色数を使用できるビデオアダプタ用のビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニタが必要です。 同様に、プログラムが表示可能な表示色数は、モニタの性能、ビデオドライバ、およびビデオメモリの量によって決まります。

system.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。 Windows を起動すると、**system.ini** ファイルを参照して、Windows の操作環境のさまざまなオプションが設定されます。 **system.ini** ファイルには、Windows にどのビデオ、マウス、キーボードがインストールされているかが記録されています。

コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、**system.ini** ファイルのオプションを変更できます。 それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で **system.ini** ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

tpi

1インチあたりのトラック数（tracks per inch）の略語。

TPM

信頼できるプラットフォームモジュール（Trusted Platform Module）の略語。

TQFP

thin quad flat pack の略語。

TSR

メモリ常駐（terminate-and-stay-resident）の略語。TSR プログラムは「バックグラウンド」で実行されます。 ほとんどの TSR プログラムには特定の複合キー（ホットキー）が組み込まれており、別の MS-DOS プログラムを実行している間に TSR プログラムのインタフェースを起動することができます。 TSR プログラムを使い終わったら、元のアプリケーションプログラムに戻り、TSR プログラムをメモリに常駐させて後で再使用することができます。

TSR プログラムは、メモリ コンフリクトを引き起こす場合があります。 トラブルシューティングを行うときは、TSR プログラムを起動しない状態でコンピュータをリブートして、このようなメモリコンフリクトの可能性を除外してください。

UART

Universal asynchronous receiver transmitter の頭字語。シリアルポートを構成する電子回路。

UDP

ユーザーデータグラムプロトコル（user datagram protocol）の略語。

UL

Underwriters Laboratories の略語。

UMA (upper memory area)

640 KB ～ 1 MB の間に位置する 384 KB の RAM。 コンピュータに Intel 386 以降のプロセッサが搭載されている場合は、メモリマネージャと呼ばれるユーティリティを使用して上位メモリ領域内に UMB を作成し、デバイスドライバやメモリ常駐型プログラムをその UMB にロードすることができます。

UMB

upper memory block の略語。

UPS

無停電電源装置（Uninterruptible power supply）の略語。 停電が発生するとコンピュータに自動的に電力を供給するバッテリ内蔵の電源装置のことです。

USB

Universal Serial Bus の略語。 USB コネクタは、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。 また、USB デバイスはシステムの実行中に取り付けたり取り外したりすることができます。

UTP

シールドなしツイストペア（unshielded twisted pair）の略語。

UUID

汎用一意識別子（Universal Unique Identification）の略語。

V

ボルト（volt(s)）の略語。

VAC

ボルト交流（volt(s）alternating current）の略語。

varbind

オブジェクト識別子するまたは OID の割り当てに使用するアルゴリズム。 varbind は、企業を一意に識別する 10 進数接頭辞に到達する規則を提供するとともに、その企業の MIBで定義されるオブジェクトの一意 ID を指定する数式も提供します。

VCCI

Voluntary Control Council for Interference の略語。

VDC

volts direct current の略語。

VESA

Video Electronics Standards Association の頭字語。

VGA

video graphics array の略語。 VGA と SVGA は、従来の規格よりも高い解像度と多くの表示色数を使用できるビデオアダプタ用のビデオ規格です。 特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニタが必要です。 また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニタやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタに搭載されたビデオメモリの容量に応じて異なります。

VGA 機能コネクタ

VGA ビデオアダプタが内蔵された一部のシステム上では、VGA 機能コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをコンピュータに追加することができます。 VGA 機能コネクタは、VGA パススルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

超大規模集積回路（very-large-scale integration）の略語。

VLVESA

very low voltage enterprise system architecture の頭字語。

vpp

peak-point voltage の略語。

VRAM

ビデオ RAM（video random-access memory）の略語。 ビデオアダプタの中には、VRAM チップ（または VRAM と DRAM の組み合わせ）を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。 VRAM はデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時に行うことができます。

VRM

Voltage Regulator Module の略語。

W

ワット（watt）の略語。

WH

watt-hour(s)（1時間当たりのワット数）の略語。

win.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。 Windows を起動時に、この **win.ini** ファイルが Windows の動作環境の各種オプションを決定します。 この **win.ini** ファイルは特にプリンタやフォントのインストール情報を持ちます。 さらに **win.ini** ファイルは通常、ハードドライブにインストール済みの Windows アプリケーションプログラムのオプション設定情報のセクションを持ちます。

コントロール パネルか Windows セットアッププログラムを実行すると、**win.ini** ファイルのオプションの変更が可能です。 またメモ帳などのエディタを使って、テキストベースでこの **win.ini** ファイルに変更や追加を行うことも可能です。

Winbind

異なるネットワークのユーザの、UNIX オペレーティングシステムのワークステーションを使ったログインを可能にするプログラム。 このプログラムは、Windows を各 UNIX ワークステーションに対し UNIX のように見せかけることで、Windows ドメインで UNIX ワークステーションを機能させます。

XMM

Extended Memory Manager の略語。XMM は、アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムで、XMS に準拠する拡張メモリを使用できるようにするユーティリティです。

XMS

Extended Memory Specification の略語。

ZIF

Zero Insertion Force の略語。 コンピュータによってこの ZIF ソケットやコネクタを利用して、マイクロプロセッサチップなどのデバイスに対して負荷をかけずに取り付け、取り外しを行うものがあります。

ZIP

Iomega 提供の 3.5 インチのリムーバブルディスクドライブ。 基本的に 100 MB のリムーバブル カートリッジを使用します。 ドライブは、ディスクをカタログ化してセキュリティのためにファイルをロックするソフトウェアとバンドルされています。

ZIP ドライブには 250 MB のバージョンもありますが、100 MB ZIP カートリッジの読み書きも可能です。

アクセス

変数値に対してユーザーが行うことのできる処置。 例として、読み取り専用や読み書きなどがあります。

アダプタカード

コンピュータシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。 アダプタカードは拡張バスと周辺機器とのインタフェースをもってコンピュータに特殊な機能を追加します。 アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSI アダプタなどが挙げられます。

アトリビュート

管理可能なコンポーネントに関する特定の情報を含んだ属性またはプロパティ。 属性を組み合わせて、グループにすることができます。 属性が読み書きとして定義されていれば、管理アプリケーションで定義することができます。

インタレース

画面上の代替走査線だけを更新してビデオ解像度を増加させる技法。 インタレースでは、画面のちらつきが目立つことがあるので、多くの ユーザーはノンインタレースのビデオアダプタ解像度を好みます。

ウィルス

システムに損害を与えるように設計された自己起動型プログラム。 ウィルスプログラムは、ハードディスクドライブに格納されたファイルを破壊したり、システムやネットワークのメモリが一杯になるまで自己増殖したりすることが知られています。

一般に、ウィルスプログラムは「感染した」ディスケットから自分自身をハードディスクドライブにコピーすることによって、数多くのシステムに感染していきます。 ウィルスからシステムを保護するために、次のような対策を講じてください。

- コンピュータのハードディスクドライブに対して定期的にウィルス検査ユーティリティを実行します。
- ディスク（市販のソフトウェアも含みます）を使用する前に、そのディスックに対して必ずウィルス検査ユーティリティを実行します。

ウェイクアップ オン ラン

ネットワークによってクライアントステーションの電源をオンにできる機能。 リモート ウェイクアップを使うと、就労日が終わってからユーザーのマシン上でソフトウェアのアップグレードやその他の管理タスクを実行することができます。 また、リモート ユーザーがオフになっているマシンにアクセスすることもできます。 Intel ではリモート ウェイクアップを「Wake-on-LAN」と呼びます。

オンラインアクセスサービス

インターネット、電子メール、掲示板、チャットルームおよびファイルライブラリなどへのアクセスを提供するサービス。

カーソル

ブロック、下線、ポインタなど、次のキーボードまたはマウス動作が起きる場所を表すマーカー。

書き込み防止

読み込み専用ファイルは書き込み保護が掛けられているファイルです。 3.5 インチのディスクは書き込み保護タブを動かして書き込み保護することもできますが、セットアップ ユーティリティ プログラムの機能で設定することも可能です。

拡張カード コネクタ

拡張カードを接続するための、コンピュータのシステム基板またはライザ ボードのコネクタ。

拡張バス

コンピュータには、マイクロプロセッサが周辺機器（ネットワークカードや内蔵モデムなど）のコントローラと通信できるようにする拡張バスがあります。

拡張メモリ

1 MB を超える RAM にアクセスする技術。 コンピュータで拡張メモリを有効にするには、EMM を使用してください。 拡張メモリを使用する（または必要とする）アプリケーション プログラムを実行している場合のみ、拡張メモリをサポートするようにシステムを設定する必要があります。

拡張メモリ（extended memory）

1 MB を超える RAM。 拡張メモリを使用できるほとんどのソフトウェア（Windows オペレーティング システムなど）では、拡張メモリを XMM で制御する必要があります。

仮想メモリ

ハードディスクドライブを使用して、アドレシング可能な RAMを増加させる技法。 たとえば、16 MB の RAM を搭載したコンピュータのハードディスクドライブ上で 16 MB の仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MB の物理 RAM が存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

キーの組み合わせ

複数のキーを同時に押すコマンド。 たとえば、<Ctrl><Alt><Del> キーの組み合わせを押すと、コンピュータを再起動できます。

起動ルーチン

コンピュータ起動時にメモリをすべてクリアし、デバイスを初期化し、オペレーティングシステムをロードします。 オペレーティングシステムが応答に失敗しない限り、コンピュータは <Ctrl><Alt><Del> で再起動（ウォームブート）できます。これができない場合はリセットボタンを押すか、コンピュータの電源を一度切ってまた入れなおす、コールドブートを実行する必要があります。

機能

オブジェクトが実行できる動作、または管理オブジェクトで実行できる処置を示します。 たとえば、カードがホットプラグ対応の場合、システム電源がオンの状態でカードを交換することができます。

キャッシュ

データのコピーまたはすぐにデータを取得するための手順を保管しておく記憶領域。 たとえば、コンピュータの BIOS は、ROM コードを高速 RAM にキャッシュする場合があります。 または、ディスクキャッシュユーティリティで RAM を保存して、コンピュータのディスクドライブからアクセス頻度の高い情報をそこに保管することができます。プログラムがキャッシュにあるデータをディスクドライブに要求すると、ディスク キャッシュユーティリティはディスクドライブより速く RAM からデータを取得することができます。

組み込みハイパーバイザー

組み込みハイパーバイザー（Embedded Hypervisor）は、お使いの Dell システムの仮想化機能を強化します。

グラフィック コプロセッサ

「コプロセッサ」を参照してください。

グラフィック モード

水平ピクセル x 垂直ピクセル y カラー z で定義されるビデオモード。

グループ

DMI 関連では、グループは管理可能なコンポーネントについての共通の情報またはアトリビュートを定義するデータ構造です。

構文

コンピュータが理解できるようにコマンドや手順を入力する方法を指示する規則。 変数のシンタックスはそのデータタイプを示します。

コプロセッサ

コンピュータのマイクロプロセッサから特定の処理タスクを開放するチップ。 たとえば数値演算コプロセッサは、数値処理を担当します。 またグラフィックコプロセッサはビデオレンダリングを行います。 たとえば、Intel Pentium マイクロプロセッサにはビルトイン数値演算コプロセッサが搭載されています。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ、またはマイクロプロセッサとディスクドライブやキーボードなどの周辺機器との間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードディスクドライブインジケータ、電力インジケータなどのインジケータやコントロールを収めるコンピュータの一部。

コンベンショナル メモリ

RAM の最初の 640 KB の部分。 コンベンショナルメモリはすべてのコンピュータにあります。 MS-DOS® プログラムは特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内で実行されます。

コンポーネント

DMI 関連では、管理可能なコンポーネントとは、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、または DMI と互換性のある周辺機器を指します。 各コンポーネントは、それぞれに関連したグループおよび属性から構成されます。

サービスタグナンバー

コンピュータ上のバーコードラベルはお客様が デル社のカスタマー サポートやテクニカル サポートへ問い合わせる際の識別番号が記載されています。

しきい値

温度、電圧、電流およびファン速度などを監視するセンサーを備えたシステム。 センサーのしきい値は、センサーが通常、非重要、重要または危険状態で稼動しているかを決定する範囲（最小値と最大値）を指定します。 デルがサポートするしきい値：

- 致命的しきい値上限
- 重要しきい値上限
- 非重要しきい値上限
- 標準
- 非重要しきい値下限
- 重要しきい値下限
- 致命的しきい値下限

システムディスケット

ブータブルディスケットの同義語。

システムメモリ

RAM の同義語。

システム基板

コンピュータの主な回路ボードであるシステムボードには、次のような内蔵コンポーネントの多くが搭載されています。

- マイクロプロセッサ
- RAM
- 標準的な周辺機器（キーボードなど）のコントローラ
- さまざまな ROM チップ

システム基板は、マザーボードや論理ボードと呼ばれることもあります。

システム設定情報

取り付けられているハードウェアの種類とコンピュータの動作環境の構成をコンピュータに指示するデータ。

シャドーイング

通常、コンピュータのシステムとビデオの BIOS コードは、ROM チップに格納されます。 シャドウイングとは、起動ルーチンの実行中に（640 KB 以上の）上位メモリ領域の高速 RAM チップに BIOS コードをコピーして性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは 2 本以上のピンがある、回路基板上の小さなブロックです。 ワイヤの付いたプラスチックのプラグをピンにかぶせます。 ワイヤはピンを接続し、回路を作成します。 ジャンパはプリント基板の回路を変更する、簡単で両方向の方法を提供します。

周辺機器

コンピュータに接続される内蔵または外付けデバイス（プリンタ、ディスクドライブ、キーボードなど）。

状況

1 つ以上の条件を持つオブジェクトの状態を指します。 たとえば、オブジェクトは「準備中」状況である場合があります。

状態

オブジェクトの健康状態や機能状態を指します。 たとえば、温度プローブを、プローブが許容温度を測定している場合に通常状態と呼ぶことができます。 プローブがユーザー設定の制限を超えた温度を読み取ると、重要状態が報告されます。

シリアルポート

一般的に、モデムやマウスをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。 通常、コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタで識別できます。

スイッチ

コンピュータのシステム基板のスイッチは、コンピュータシステムでさまざまな回路機能を制御します。 これらのスイッチは DIP スイッチ として知られています。通常、DIPスイッチは 2 つ以上のスイッチがパッケージ化されており、プラスチックのケースに入っています。 システム基板では、 スライド スイッチと ロッカー スイッチです。 スイッチの名前は、設定（オン / オフ）の変更方法に基づいています。

数値演算コプロセッサ

「コプロセッサ」を参照してください。

スキーマ

特定環境における管理オブジェクトを説明したクラス定義の集まり。 CIM スキーマは各管理環境に共通した管理オブジェクトを表すのに使用するクラス定義の集まりです。CIM が共通情報モデル（Common Information Model）と呼ばれるのはこのためです。

設定

設定は、コンポーネントに特定の値が検知されたときにどうするかを決定する、管理可能オブジェクトヘルプの条件です。 たとえばユーザーは、温度プローブの上限しきい値を摂氏 75 度 に設定できます。 プローブがその温度に達すると、ユーザーが介入できるように管理 コンソールに警告が送られます。 設定の中には、値に達するとシステムのシャットダウンやシステム損傷を防ぐその他の反応を引き起こすものがあります。

セットアップユーティリティ

コンピュータのハードウェアを構成し 、パスワード保護機能や省電力設定などを設定することで コンピュータの動作をカスタマイズ するためのBIOS ベースのプログラム。 セットアップユーティリティのオプションの中には、コンピュータをリブートしないと（自動的にリブートする場合もあります）ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。 セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は明示的に変更しない限り有効に維持されます。

外付けキャッシュメモリ

RAM キャッシュで、SRAM チップを使用するもの。 SRAM チップは DRAM チップの数倍の速度で動作するため、マイクロプロセッサは RAM よりも速く外付けキャッシュメモリからデータと手順を取得できます。

ターミネータ

一部のデバイス（SCSIケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、過剰な電流の吸収や発散を行うための終端処理が必要です。 このようなデバイスを 2 つ以上連結する場合は、ジャンパまたはスイッチの設定を変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更することで、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

チップ

コンピュータのプロセッサやメモリ用に設計された超小型の電子回路セット。 小さいチップは、何万ものトランジスタを収納できます。 チップは小さなアルミニウム片のようなもので、大きさは 1/16 インチ四方未満、厚さは 1/30 インチ未満と、その名のとおりまさに「チップ」といった形のものです。 1/2 インチ以上の大きいチップには、数百万のトランジスタを収納できます。 回路を収納しているのは、実際にはチップの 1 インチの最初の 1000 分の 1 の部分です。 チップの残りは基底部分です。

ディスプレイ アダプタ

「ビデオアダプタ」を参照してください。

テーブル

SNMP MIB では、テーブルは管理オブジェクトを構成する変数について説明した 2D の配列です。

テキストエディター

ASCII 文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。 たとえば、Windows のメモ帳などはテキストエディターです。 ワードプロセッサの中には、テキストファイルの読み取りと書き込みができるものもありますが、大部分のプログラムはバイナリ文字を含む固有のファイル形式を使用しています。

テキストモード

x 列として y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムまたは他のプログラムが、プリンタなどの周辺機器と正しくインタフェースで接続できるようにするプログラム。 ネットワークドライバなどのデバイスドライバは、ム **config.sys** ファイルから（**device=** ステートメントにより）ロードするか、または メモリ常駐プログラム（通常は、**autoexec.bat** ファイルから起動）としてロードする必要があります。 ビデオドライバなどその他のドライバは、対象のプログラムを起動したときにロードする必要があります。

電源装置

壁コンセントからの AC 電流をコンピュータ回路が必要とする DC 電流に変換する電気システム。 パーソナルコンピュータの電源装置は通常、いくつもの電圧を生成します。

電源ユニット

システムシャーシ内の電源装置。

ドライブタイプ番号

コンピュータでは、複数の特定のハードディスクドライブが認識されます。 各システムにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAM に保存されます。 コンピュータのセットアップユーティリティに指定するハードドライブと実際にインストールしたドライブとは一致している必要があります。 セットアップユーティリティでは、NVRAM に保存されていないドライブタイプのテーブルに含まれていないドライブの物理パラメータ（論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号およびパックごとの論理セクタ）を指定できます。

内蔵 USB

内蔵 USB のフラッシュドライブは追加ストレージデバイスです。内蔵 USB は仮想化機能を強化します。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに組み込まれた手順とデータキャッシュ。 Intel Pentium マイクロプロセッサには 16 KB の内蔵キャッシュがあり、8 KB の読み取り専用命令キャッシュと、8 KB の読み書きデータキャッシュに設定されています。

認証局

認証局は、業界公認の事業体です。認証局は、ネットワークまたはインターネット上で他のシステムに対し組織を識別するための資格情報を要求し、組織のアイデンティティを検証します。応募者に証明書を発行する前に、認証局は身分を証明する情報とその他のセキュリティ情報を要求します。

認証

Server Administrator Remote Access Controller（RAC）には、ユーザーアクセスを認証する 2 つの方法があります。 RAC 認証と、ローカルオペレーティングシステム認証です。 RAC 認証は常に有効になっています。 システム管理者は、RAC へのアクセスを許可する特定のユーザーアカウントとパスワードを設定することができます。

オペレーティングシステムでは、システム管理者が異なるレベルのユーザーとユーザーアカウントを定義する必要があります。各ユーザーレベルによって与えられる特権が異なります。 RAC におけるローカルオペレーティングシステム認証は、オペレーティングシステムのユーザーに 1 組の特権を定義し、RAC に別のユーザーとアカウントを設定することを希望しないシステム管理者が使用できるオプションです。 RAC のローカルオペレーティングシステム認証を有効にすると、RAC にログインするオペレーティングシステム上でシステム管理者状態を持つすべてのユーザーを有効にすることになります。

ノンインタレース

画面上の各水平線を順次に更新することで、画面のちらつきを低減させる技術。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティション と呼ばれる複数の物理セクションにハードディスクドライブを分割できます。各パーティションには、複数の論理ドライブを格納できます。

ハードドライブをパーティションした後、それぞれの論理ドライブを **format** コマンドを使ってフォーマットする必要があります。

バイト

8 ビットの情報。コンピュータで用いる基本データ単位。

バイナリ

0 と 1 を使って情報を表す 2 進法。 コンピュータはこれをもとに処理を行い、数値計算を実行します。

バス

コンピュータのコンポーネント間の情報の通り道。 コンピュータには拡張バスが搭載され、それによってマイクロプロセッサは各種の周辺機器のコントローラとの通信が可能となります。 また、コンピュータには、マイクロプロセッサとRAM間の通信用にアドレスバスおよびデータバスが搭載されています。

バックアップ

プログラムまたはデータファイルのコピー。 安全対策として、コンピュータのハードドライブは定期的にバックアップしてください。 お使いのコンピュータの設定を変更する前に、重要なスタートアップファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

パラメータ

プログラムに対して指定する値またはオプション。 パラメータは、スイッチ または 引数 と呼ばれることもあります。

パラレルポート

一般的には、パラレルプリンタをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。 コンピュータのパラレルポートは、25 穴コネクタで識別できます。

ヒートシンク

熱を発散させるための金属釘または金属リブが付いた金属板。 ほとんどのマイクロプロセッサには、このヒートシンクが含まれます。

ピクセル

ビデオ画面上の単一の点。 ピクセルを行と列に配列して画像が表示されます。 640 x 480 というビデオ解像度は、横方向に 640 個のピクセル、縦方向に 480 個のピクセルが並んだ行列として表されます。

ビット

コンピュータによって解釈される情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタ（ディスプレイ）と連携してコンピュータのビデオ機能を実現するための論理回路。 ビデオアダプタは、特定のモニタが提供する機能よりも多い機能または少ない機能をサポートします。 通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティング システムをさまざまなビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

デル弊社の一部のコンピュータでは、システム基板にビデオアダプタが組み込まれています。 また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

通常、ビデオアダプタには、システム基板上の RAM とは別個のメモリが割り当てられます。 同時に表示できるカラーの数は、ビデオメモリの容量とアダプタのビデオドライバに応じて異なります。 高速のグラフィック描画を実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオドライバ

特定の数のカラーを希望の解像度で、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを表示するためのプログラム。 一部のソフトウェアパッケージには汎用的なビデオドライバが組み込まれています。 コンピュータにインストールされているビデオアダプタ用にビデオドライバの追加が必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、コンピュータの RAM とは別にメモリチップが内蔵されています。 プログラムで同時に表示できるカラーの数は主に、インストールされたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバやモニタの機能があります）。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタでは複数のテキスト / グラフィック表示モードがサポートされます。 文字ベースのソフトウェアは、*x* 列 × *y* 行の文字で定義されるテキストモードで表示されます。 グラフィックベースのソフトウェアは、*x* 個の横ピクセル× *y* 個の縦ピクセル × *z* 種類のカラーで定義されるグラフィックモードで表示されます。

ビデオ解像度

ビデオ解像度（800 x 600 など）は、「横方向のピクセル数×縦方向のピクセル数」で表されます。 特定の解像度でプログラムを表示するためには、適切なビデオドライバをインストールすること、およびモニタでその解像度がサポートされることが必要です。
.

ブータブルディスケット

コンピュータはディスケットで起動可能です。 このブータブルディスケットを作成するときは、ディスケットをディスケットドライブに挿入し、sys a: と コマンドラインプロンプトに入力してから <Enter> を押します。 コンピュータがハードドライブから起動できないときにこのブータブルディスケットを使用します。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードドライブまたはディスケットを用意すること。 無条件のフォーマットでは、ディスクに保存されているすべてのデータが削除されます。

物理メモリアレイ

物理メモリアレイは、システムの全物理メモリ配列です。 物理メモリ アレイの変数には、最大サイズ、マザーボード上の合計メモリスロット数、および使用中の合計スロット数などがあります。

プラグアンドプレイ

ハードウェアデバイスをパーソナルコンピュータに追加しやすくするための業界標準仕様。 プラグアンドプレイによって、自動インストールと設定、既存ハードウェアとの互換性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートが提供されます。

フラッシュメモリ

コンピュータにインストールしたまま、ディスケットのユーティリティを使用して再プログラミングできる EEPROM チップのタイプ。ほとんどの EEPROM チップは、特別なプログラミングツールがなければ再書き込みできません。

プローブ

システムのある一定の時点で、量的測定をしたり、システムの状況を決定する電気センサー。 Server Administrator は温度、電圧、ファン、メモリ、電流、およびシャーシイントルージョンなどを監視します。 プローブは計量（特定の場所および時間での温度測定など）、あるいは状態（シャーシイントルージョンが発生した、またしなかった場合など）をスナップショットで表示します。

プログラムディスクセット

オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムを完全にインストールできるディスクのセット。 プログラムを再設定するときには、通常、プログラムディスクセットが必要になります。

プロテクトモード

80286 以降のプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 16 MB（80286 マイクロプロセッサの場合）～ 4 GB（Intel 386 以上のプロセッサの場合）のメモリアドレススペース
- マルチタスク
- 仮想メモリ（ハードディスクドライブを使用して、アドレシング可能なメモリを増加させる技法）

Windows NT、Windows 2000、Windows XP、OS/2、および UNIX® 32 ビットオペレーティングシステムはプロテクトモードで実行されます。 ただし、MS-DOS から起動できる一部のプログラム（Windows など）は、コンピュータをプロテクトモードに移行することができます。

プロバイダ

プロバイダは管理オブジェクトと通信してさまざまなソースからデータとイベント通知にアクセスする CIM スキーマの拡張機能です。 プロバイダはこの情報を CIM オブジェクト マネージャに転送して統合と解釈を行います。

変数

管理オブジェクトの一部。 たとえば温度プローブには、機能、正常性または状態、および正しい温度プローブを見つけるのに役立つ特定の指標などの変数があります。

ボーレート

データ伝送速度の尺度。 たとえば、モデムはコンピュータの COM（シリアル）ポートを通じてのデータ転送を 1 つまたは複数の指定したボーレートで行えるよう設計されています。

ホストアダプタ

ホストアダプタはコンピュータのバスと周辺機器のコントローラ間の通信を行います。 （ハードドライブ コントローラ サブシステムは内蔵ホストアダプタ回路を含みます。） SCSI 拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタをインストールまたは接続する必要があります。

ホットプラグ

システムを使用中に、冗長部分を取り外しまたは交換できる機能。 「ホットスペア」とも呼ばれます。

マイクロプロセッサ

演算機能と論理機能の解釈と実行を制御する、コンピュータ内部の主な演算チップ。 1 つのマイクロプロセッサに書き込まれたソフトウェアは、別のプロセッサで実行するためには改訂する必要があります。 CPU はマイクロプロセッサの同義語です。

マップされた物理メモリアレイ

マップされた物理メモリ配列は物理メモリの区分け方法を指します。 たとえば、あるマップ領域に 640 KB があり、別のマップ領域には 1 MB ～ 127 MB ある場合があります。

マルチスキャンモニター

いくつかのビデオ規格をサポートするモニタ。 マルチスキャンモニターはさまざまなビデオアダプタの周波数範囲に合わせて調整できます。

メモリ

コンピュータには、複数のタイプのメモリ（RAM、ROM、ビデオメモリなど）を搭載できます。 メモリという言葉はよく RAM の同義語として使われます。たとえば、「16 MB のメモリのコンピュータ」とは 16 MB RAM 搭載のコンピュータという意味です。

メモリアドレス

コンピュータ RAM 上の、通常 16 進法で表記される特定の場所。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ（拡張メモリや EMS メモリなど）の実装を制御するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAM チップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

モデム

コンピュータが電話回線を使って他のコンピュータと通信するための機器。

ユーティリティ

システム資源（メモリ、ディスクドライブ、プリンタなど）を管理するためのプログラム。

ユニコード

Unicode Consortium が開発維持する、固定長の 16 ビット国際文字コードシステム。

読み取り専用ファイル

編集や削除が禁止されているファイル。 次のいずれかの条件が満たされる場合、ファイルは読み取り専用になります。

- ファイルの読み取り専用属性が設定されている。
- 物理的に書き込みが禁止されているディスク内、または書き込みが禁止されているドライブ内のディスクにファイルが存在する。
- システム管理者がユーザーに読み取り権限だけを付与したネットワークディレクトリ内にファイルが存在する。

リアルモード

80286 以降のプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086 プロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニタ画面上のビデオ画像を、モニタが再描画する速度。 画面の走査線が再充電される周期（単位は Hz）。モニタのリフレッシュレートは、垂直周波数 とも呼ばれます）。 リフレッシュレートが高いほど、人間の目にはビデオのちらつきが感じられなくなります。 このような高いリフレッシュレートはノンインタレースとも呼ばれます。

冷却ユニット

システムシャーシにあるファンまたはその他の冷却デバイス。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つコンピュータでは、特定の周辺機器（ビデオアダプタ回路など）を従来の拡張バスを使用する場合よりもかなり高速で動作するように設定できます。 ローカルバスのデザインの中には、コンピュータのマイクロプロセッサと同じ速度、同じ幅のデータバスで周辺機器を実行できるものがあります。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

omhelp コマンドの使用

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- ヘルプコマンドの例

omhelp コマンドと、それに同等の <コマンド> **-?** を使用すると、CLI の詳しいヘルプテキストのインタフェースにアクセスします。ヘルプには複数の詳細レベルがあります。

完全修飾された CLI コマンドは、複数の部分で構成されている場合があります。たとえば、コマンド（コマンドレベル 1）、1 つまたは複数のサブコマンド（コマンドレベル 2 とコマンドレベル 3）、1 つまたは複数の「名前=値」ペアなどがあります。

-? を追加（スペース - ダッシュ - 疑問符）をコマンドの後に入力すると、そのコマンドに関するヘルプを表示できます。

ヘルプコマンドの例

`omconfig -?` と入力すると、**omconfig** コマンドについてのヘルプが表示されます。このレベルでのヘルプは **omconfig** で使用できるサブコマンドを一覧表示します。

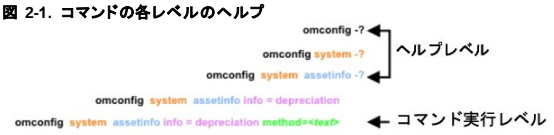
- about
- preferences
- chassis
- system

`omconfig system -?` と入力すると、CLI ヘルプに **omconfig system** で使用できるすべてのサブコマンドが一覧表示されます。

- alertaction
- alertlog
- assetinfo
- cmdlog
- esmlog
- events
- recovery
- shutdown
- thrmshutdown
- webserver

図 2-1 は、コマンドのヘルプのレベルを示します。

図 2-1. コマンドの各レベルのヘルプ



次のように **omconfig system assetinfo** コマンド を解析することもできます。

`<コマンドレベル 1 コマンドレベル 2 コマンドレベル 3> <「名前=値」ペア 1> [「名前=値」ペア 2]`

コマンドレベル 1、2、3 は **omconfig system assetinfo**、「名前=値」のペア 1 は **info=depreciation**、「名前=値」のペア 2 は **method=straightline** で表します。

減価償却方法を直線に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
```

CLI から次のメッセージが返されます。

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

`omconfig system assetinfo -?` と入力すると、名前フィールドとオプションフィールドの値の割り当てに関する情報がヘルプに表示されます。**omconfig system assetinfo -?** 要求の部分的な結果は、次のようになります。

```
assetinfo Set asset information.
```

（資産情報 資産情報を設定。）

1 つの情報値につき、オプションのパラメータを 1 つまたは複数、次のように指定します。表 2-1 **info=acquisition** のオプションパラメータを表示します。

表 2-1. オプションパラメータ

情報値	オプションパラメータ
Info=acquisition	purchasecost=<数字> waybill=<数字> installdate=<mmddyy> purchasedate=<mmddyy> ponum=<数字> signauth=<テキスト> expensed=<はい|いいえ> costcenter=<テキスト> info=depreciation method=<テキスト> duration=<数字> percent=<パーセント> unit=<月|年|不明>

目次ページに戻る

目次ページに戻る

はじめに

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- バージョン 5.3 の新機能
- Windows コマンドプロンプトからの CLI コマンドの使い方
- 基本 CLI コマンド
- CLI エラーチェックとエラーメッセージ
- CLI を使ったスクリプトと比較
- コマンド構文の概要

Dell OpenManage Server Administrator のグラフィカルユーザーインタフェース（GUI）またはコマンドラインインタフェース（CLI）を使って重要なシステム管理タスクを実行できます。

レポートと表示の機能を使うと、ネットワーク上のシステムの正常性を検索することができます。コンポーネントレベルでは、電圧、温度、ファンの回転数 / 分（ RPM）、メモリ機能、その他多くの重要コンポーネントの詳細が表示されます。概要表示では、システムに関連する所有コスト（COO）の詳細が表示されます。BIOS、ファームウェア、オペレーティング システムや、インストールされているソフトウェアすべてのバージョン情報も簡単に取得できます。

Server Administrator の設定機能を使うと、以下の項で詳しく説明する主要タスクを実行できます。

メモ: セキュリティに関する不安がある場合は、Server Administrator のホームページの代わりに CLI を使用して、Server Administrator Web Server をオフにすることもできます。CLI は Web Server を使用しません。**omconfig system webserver action=stop** コマンドは、Web Server を終了する場合に使用します。再起動後、自動的に Web Server が起動するので、このコマンドはシステムが起動するたびに発行する必要があります。詳細については、「omconfig system webserver/omconfig servermodule webserver」を参照してください。

バージョン 5.3 の新機能

Server Administrator の本リリースには、次の新機能があります。

- 次の Dell システムに対する追加サポート：R200、R900。
- 次の Dell PowerVault™ システムに対する追加サポート：100、500、600。
- Microsoft Windows Server 2008（32 ビット x86）および（x64）、Standard 版、Web 版、DataCenter 版、Enterprise 版、Core 版に対する追加サポート。

メモ: Microsoft Windows Server 2008 は 2008 年前半に入手可能予定です。最新情報については、 http://www.microsoft.com/windowsserver2008/default.mspx を参照してください。

- Red Hat® Enterprise Linux® バージョン 4.5（x86_32）および（x86_64）（AS 版、ES 版、WS 版対応）に対する追加サポート。
- Integrated Dell Remote Access Controller（iDRAC）の Intelligent Platform Management Interface（IPMI）設定およびモジュラサーバーの拡張設定の設定またはレポートに対する追加サポート。
- GUI から iDRAC および Chassis Management Controller（CMC）を起動する追加インタフェース。
- システム / サーバーモジュールの概要ページにモジュラサーバーのスロット名およびスロット番号を表示する追加サポート。
- BIOS 設定およびポート情報のページで内蔵 USB デバイス情報を表示する追加サポート。
- BIOS 設定ページで信頼できるプラットフォームモジュール（TPM）情報を表示する追加サポート。
- オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマー（WDT）が設定されている場合にベースボード管理コントローラ（BMC）の自動システム回復（ASR）を無効にする追加サポート。
- マザーボード上の追加 LAN ネットワークポートに対する追加サポート。
- BIOS 設定ページおよびポート情報ページで組み込みハイパーバイザー情報を表示する追加サポート。
- BIOS 設定ページで光ドライブコントローラを設定する追加サポート。
- Red Hat Enterprise Linux および SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステム上で Server Administrator のユーザー権限を編集する追加サポート。
- ネットワークインタフェースコントローラの iSCSI 使用を可能にした追加サポート。
- 電力モニタ設定を設定する追加サポート。

メモ: この機能は、PMBus インタフェース搭載の Dell システムでのみサポートされています。

- ホットプラグ可能なデバイスのインベントリをアップデートする追加サポート。Server Administrator は、CatFish テープドライブや SAS ディスクドライブなどのプラグアンドプレイの USB デバイスが管理下システムに連結している、または管理下システムから連結解除されている場合にインベントリ情報をモニタし、アップデートします。
- DRAC 帯域内設定が無効にされている場合にリモートアクセス設定を制限する追加サポート。帯域内設定が無効にされている場合、リモートアクセス機能は帯域外（OOB）インタフェースからのみ設定できます。
- 一部の Dell x9xx および xx0x システムの PERC 6/i、PERC 6/E、および SAS 6/iR コントローラに対する追加サポート。
- PERC 6/i および PERC 6/E コントローラの RAID-6 およびRAID-60 に対する追加サポート。
- ストレージ→ プロパティページでストレージダッシュボード情報を表示する追加サポート。
- Server Administrator の警告処置情報ページにストレージの警告を表示する追加サポート。

Windows コマンドプロンプトからの CLI コマンドの使い方

Microsoft Windows® オペレーティングシステムを実行中の場合、32 ビットコマンドプロンプトを使用して Server Administrator CLI コマンドを発行します。32 ビットのコマンドプロンプトにアクセスするには、**スタート** ボタンをクリックして **プログラム**→ **アクセサリ**→ **コマンドプロンプト** のショートカットを使用するか、**スタート** ボタンをクリックして **ファイル名を指 定して実行** を選択し、**ファイル名を指 定して実行** ダイアログボックスに `cmd.exe` と入力します。

コマンドラインウィンドウを起動する場合、ファイル名を指定して **実行** ダイアログボックスに コマンドを入力しないでください。この操作は、MS-DOS® のエミュレータ **command.com** をアクティブにするので、その環境変数の制限によって CLI に問題が発生する可能性があります。

基本 CLI コマンド

Server Administrator の機能を実行するコマンドを以下に表示します。

- **omconfig**
- **omhelp**
- **omreport**

omconfig コマンドはオブジェクトのプロパティに割り当てる値を書き込みます。コンポーネントの警告しきい値を指定したり、警告やエラーイベントが発生した場合にシステムが実行する操作を指定できます。また、**omconfig** コマンドを使って、システムに関する資産情報パラメータに、システムの購入価格や管理タグ、設置場所などの特定の値を割り当てることもできます。

omhelp コマンドは CLI コマンドの短いテキストヘルプを表示します。**omhelp** は、ヘルプを必要とするコマンドの後に**-?** を入力する場合と同じです。たとえば、**omreport** コマンドのヘルプを表示する場合、次のどdちらかのコマンドを入力します。

```
omhelp omreport

omreport -?
```

omreport コマンドは、システムの管理情報のレポートを生成します。

メモ: CLI コマンドの概要を見るには、`omhelp` と入力します。

表 1-1 は、Server Administrator が使用する基本 CLI コマンドを一覧表示します。本書では、基本コマンドについて各項で説明します。

表 1-1. CLI コマンドおよび本書の項

基本 CLI コマンド	項のタイトル	関連する項
omconfig	「omconfig Instrumentation Service（計装サービス）を使ったコンポーネントの管理」	「omconfig system または servermodule assetinfo：所有コスト値の編集」
omhelp	「omhelp コマンドの使用」	
omreport	「omreport：Instrumentation Service（計装サービス）を使用したシステム状態の表示」	

メモ: Omupdate コマンドは Server Administrator ではサポートされなくなり、Dell Update Package および Server Update Utility のコマンドに置換されました。各種コンポーネントをアップデートするには、Dell Update Package をダウンロードして、<パッケージ名> **/s [/f]** を実行してください。対応する CLI 構文の詳細については、『Microsoft Windows オペレーティングシステム用 Dell Update Packages ユーザーズガイド』、『Linux 用 Dell Update Packages ユーザーズガイド』、または『Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

さらに、CLI に関する役立つトピックは以下でも参照できます。

- 「CLI コマンド結果の使い方」
- 「用語集」

CLI エラーチェックとエラーメッセージ

CLI コマンドを入力すると、CLI は正しい構文かどうかコマンドをチェックします。コマンドを入力してそのコマンドが正常に実行されると、コマンドに成功したというメッセージが表示されます。

成功のメッセージ

正しい **omconfig** コマンドを入力すると、そのコンポーネントに対するデータが表示されます。

以下に、**omconfig** コマンドの例として、有効な CLI コマンドと、コマンドに成功した場合のメッセージを示します。

コマンド：

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
```

メッセージ：

```
Temperature probe warning threshold value(s) set successfully.
```

（温度プローブ警告しきい値が正常に設定されました。）

コマンド：

```
omconfig chassis biossetup attribute=speaker setting=on
```

メッセージ：

```
BIOS setup configured successfully.
```

（BIOS 設定が正常に設定されました。）

コマンド：

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=6
```

メッセージ：

```
Asset information set successfully.
```

（資産情報は正常に設定されました。）

エラーメッセージ

CLI エラーメッセージによって、コマンドに成功しなかった理由がわかります。コマンドに失敗する一般的な理由として、シンタックスエラーや、コンポーネントがないことが挙げられます。多くの場合、エラーメッセージの構文情報を利用して、コマンドを正常に実行できます。

システム構成に存在しないコンポーネントや機能のコマンドを実行しようとすると、コンポーネントが見つからないというエラーメッセージが表示されます。

コマンド：

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.3000
```

メッセージ例：

```
Error! Number with up to 3 digits after decimal point expected, read 3.3000

The value given by the command specifies more than 3 digits after the decimal point. A valid minimum warning threshold value for volts
contains up to 3 digits after the decimal point.
```

（エラー！ 数字の期待値は小数点以下 3 桁までです。読み取り値：3.3000

コマンドで指定された値は、小数点以下 3 桁を超えています。 電圧の有効な最小警告しきい値は、小数点以下 3 桁までです。）

次のように入力します。

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.300
```

小数点以下 3 桁の修正コマンドを入力すると、別のエラーメッセージが表示されます。

```
Error! This voltage probe min warning threshold must be between 11.400 and 12.480.
```

（エラー！ 電圧プローブの最小警告しきい値は 11.400～12.480 でなければなりません。）

変更後のコマンド：

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=11.500
```

メッセージ：

```
Voltage probe warning threshold(s) set successfully.
```

（電圧プローブ警告しきい値は正常に設定されました。）

CLI を使ったスクリプトと比較

システム管理者は Server Administrator CLI を使って、バッチプログラムやオペレーティングシステムに実行させるスクリプトを作成できます。多くのシステムを有する企業では、システム管理者が設定スクリプトを使用して、システムの主要コンポーネントの警告しきい値を指定したり、警告やエラーイベントが発生した場合にシステムに実行させる一連の操作を指定します。非常に重大な障害が発生した場合は、システム管理者がスクリプトを作成してシステムをシャットダウンすると、被害を防ぐことができます。その後で、スクリプトを多数の管理下システムに同時に配信して実行することができます。このシナリオでは、会社が大量のシステムを購入した場合でも円滑に設定でき、再設定が必要な既存のシステムに新しいシステム管理ポリシーを実装する場合も容易にできます。

同様のシナリオを使って、新しく購入した多数のシステムに詳細な資産情報を自動入力することも可能です。システムの製造元や賃貸者、サポートのアウトソースの有無、システムの保険会社名、減価償却方法などの情報の大半は同じです。全システムに共通する変数をスクリプト化し、管理下システムのすべてに送信して実行します。システムに固有の資産情報はグループとしてスクリプト化し、その管理ノードに送信して実行します。たとえば、スクリプトを使うと、所有者、プライマリユーザーの電話番号、管理タグなどの固有の変数をすべて指定できます。固有の値を自動入力するためのスクリプトは、システムのコマンドラインから 1 つずつ設定するのでなく、すべての固有変数を一度に設定します。

多くの場合、CLI を使うと非常に明確なタスクを視野に入れたユーザーシステム情報をすばやく取得できます。CLI は、システムコンポーネントすべての包括的な概要を確認したい場合や、その情報を今後のシステム状態と比較する目的でファイルに保存する場合に理想的です。

CLI コマンドを使うと、システム管理者はバッチ プログラムやスクリプトを作成して、特定の時間に実行することができます。このようなプログラムが実行されると、システム高使用時とシステム最低使用時のファン RPM の比較など、特定コンポーネントに関するレポートをキャプチャできます。コマンド結果はファイルに転送しておくと、後で分析できます。システム管理者は、レポートを利用して、使用パターンを調整したり、新規システムリソースの購入を正当化したり、問題のあるコンポーネントの正常性を監視するための情報を入手できます。

コマンド構文の概要

コマンドの複雑性はさまざまです。最も単純なコマンドは、コマンドレベルが 1 だけです。たとえば、**omhelp** コマンドは単純なコマンドです。`omhelp` と入力すると、主要 CLI コマンドのリストが表示されます。

次に複雑なコマンドレベルには、コマンドレベルの 1 と 2 があります。すべての **about** コマンドはコマンドレベル 2 の複雑性の例です。**omconfig about** および **omreport about** コマンドは簡単な概要を表示します。概要には、システムにインストールされている Systems Management Software のバージョン情報（たとえば Server Administrator 1.x）が表示されます。

一部のコマンドには、コマンドレベル 1 とコマンドレベル 2 があり、「名前=値」のペアがあります。次のコマンドは、Server Administrator の環境詳細に関して Server Administrator を命令している例です。

```
omdiag about details=true
```

コマンドレベル 1 が **omreport**、コマンドレベル 2 は **about** で、「名前=値」のペアは **details=true**です。

多くのコマンドではコマンドレベル 1、コマンドレベル 2、およびコマンドレベル 3 を使いますが、任意のパラメータ（「名前＝値」のペア）を必要としません。【**omreport**】コマンドはこのタイプに属します。たとえば以下のようになります。

```
omreport system alertaction
```

上の例では、システムのコンポーネントに設定されている警告処置のリストが表示されます。

最も複雑なコマンドには 3 つのコマンドレベルがあり、複数の「名前=値」のペアを持つことができます。2 つの「名前=値」ペアの例を次に示します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=3
```

9 つの「名前=値」ペアの例を次に示します。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition
purchasecost=<数値> waybill=<数値> installdate=<mmddyy> purchasedate=<mmddyy> ponum=<数値> signauth=<テキスト>
expensed=<yes | no > costcenter=<テキスト>
```

各セクションでは、コマンド構文とコマンドに関する他の情報は、以下の該当フィールドを使用してフォーマットされます。

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2

目次ページに戻る

目次ページに戻る

omreport：Instrumentation Service（計装サービス）を使用したシステム状態の表示

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- omreport コマンドのコマンド概要
- omreport コマンドのヘルプ
- omreport modularenclosure
- omreport about
- omreport chassis/omreport mainsystem コマンド
- omreport system Commands/omreport servermodule Commands

omreport コマンドを使用すると、システムコンポーネントの詳細が表示されます。一度に多数のシステムコンポーネントの概要を取得したり、特定のコンポーネントの詳細を取得することができます。本章では必要な詳細レベルを備えたレポートの取得方法について説明します。

本章に記述したコマンドは、特定 **omreport** コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかで異なります。フィールドは特別な用法や、あまり知られていない用法がある場合にのみ定義されています。

他のすべてのコンポーネントについては、**omreport** を使ってコンポーネントの状態を表示し、**omconfig** を使ってコンポーネントを管理できます。管理するコンポーネントの設定詳細ついては、「omconfig Instrumentation Service（計装サービス）を使ったコンポーネントの管理」を参照してください。

omreport コマンドは、**omconfig** コマンドの実行に必要な情報を得るために使用できます。たとえば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集する場合は、設定するプローブのインデックスを知っておく必要があります。そのような場合は、**omreport chassis temps** を使って、プローブの一覧とそのインデックスを表示することができます。

表 3-1. omreport コマンドに対するシステムの可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用対象
omreport	modularenclosure	モジュラシステム
	servermodule	モジュラシステム
	mainsystem	モジュラシステム
	system	非モジュラシステム
	chassis	非モジュラシステム

パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順に並んでいます。

記号「 | 」は、パイプと呼ばれることがあり、排他的論理和または演算子を表します。たとえば、「有効 | 無効」はコンポーネントや機能を有効または無効にできますが、同時に有効と無効にすることはできません。

---

omreport コマンドのコマンド概要

メモ: 本章では、可能なすべての **omreport** コマンドを一覧にしますが、お使いのシステムで使用できるコマンドはシステム構成によって異なります。**omreport** コマンドの結果の表示は、システムによって異なります。インストールされているコンポーネントのみのデータが表示されます。

メモ: システムに外部シャーシがある場合、表示される結果はオペレーティングシステムによって異なります。SUSE LINUX Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux のシステムでは、**omreport** コマンドは、メインシャーシ情報の後の別の項に外部シャーシ情報を表示します。Microsoft Windows システムの場合は、外部シャーシのデータは **omreport** 出力には表示されません。

表 3-2 は **omreport** コマンドの高レベルの概要です。「コマンドレベル 1」列には、一般的な **omreport** コマンドを示します。「コマンド レベル 2」には、**omreport** を使って表示できる主要オブジェクトやコンポーネント（バージョン情報、シャーシ、ストレージ、およびシステム）を示します。「コマンド レベル 3」には、レポートを表示できる特定のオブジェクトとコンポーネントを一覧にします。「必要なユーザー特権」とはコマンドの実行に必要な特権の種類を表します（U=ユーザー、P=パワーユーザー、A=システム管理者）。「用途」は **omreport** を使って実行される操作に関する一般的な説明です。コマンドの構文と使い方の詳細については、本項で後述します。

表 3-2 は、「バージョン情報」、「システム」、および「メインシステムシャーシ」に使用可能な **omreport** コマンドを示しています。ストレージ コンポーネントの表示については、「omreport：Instrumentation Service（計装サービス）を使用したシステム状態の表示」を参照してください。

表 3-2. omreport のコマンドレベル 1、2、3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー特権	用途
omreport				
	modularenclosure		U、P、A	すべてのモジュラシャーシの情報を表示します。
	about		U、P、A	Server Administrator のバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされているすべての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	chassis/ mainsystem		U、P、A	すべてのメインコンポーネントの一般状態を表示します。

		acswitch	U、P、A	冗長 AC 電力ラインがシステムでサポートされているフェールオーバー設定を表示します。
		batteries	U、P、A	バッテリのプロパティ設定を表示します。
		bios	U、P、A	製造元、バージョン、および最後にアップデートされた日付けなど BIOS 情報を表示します。
		biossetup	A	システム起動中に設定された BIOS 設定プロパティを表示します。
		fancontrol	U、P、A	ファン速度のプロパティ設定を表示します。
		fan	U、P、A	システムファンの状態としきい値を表示します。
		firmware	U、P、A	バージョン、最終更新日、アップデート可能性などのファームウェアのプロパティを表示します。
		frontpanel	U、P、A	**電源** ボタンや **非マスク可能割り込み**（NMI）ボタン（システムに存在する場合）などのフロントパネルボタン設定が有効になっているか無効になっているかを表示します。
		FRU	U、P、A	フィールド交換可能ユニット（FRU）の情報を表示します。
		hwperformance	U、P、A	システムのパフォーマンスの低下について状態と原因を表示します。
		info	U、P、A	メインシステムシャーシコンポーネントの状態の概要を表示します。
		intrusion	U、P、A	システムのイントルージョンセンサーの状態を表示します。
		leds	U、P、A	色々な警告状況に従って LED が点滅するように設定したプロパティを表示します。
		memory	U、P、A	システムのメモリアレイのプロパティを表示します。
		nics	U、P、A	システムにインストールされている NIC の数、NIC ベンダー、NIC の説明、IP アドレス、接続状態などを表示します。
		ports	U、P、A	I/O アドレス、IRQ レベル、コネクタの種類、最大速度など、システムのパラレルポートとシリアルポートのプロパティを表示します。
		processors	U、P、A	速度、製造元、プロセッサシリーズなど、システムのプロセッサのプロパティを表示します。
		pwrmonitoring	U、P、A	電力消費量のプロパティを表示します。
		pwrsupplies	U、P、A	電源装置のプロパティを表示します。
		remoteaccess	U、P、A	リモートアクセスの一般情報を表示します。
		slots	U、P、A	システムの拡張スロットやその他のスロットタイプのプロパティを表示します。
		temps	U、P、A	システム温度センサーの状態としきい値を表示します。
		volts	U、P、A	システム電圧センサーの状態としきい値を表示します。
	storage		U、P、A	「Storage Management Service の使用」を参照してください。
	system/servermodule		U、P、A	システムコンポーネントの高レベルな概要を表示します。
		alertaction	U、P、A	警告とエアーしきい値、および必要不可欠なコンポーネントが警告やエラー状況を検知した場合に設定されている処置を表示します。
		alertlog	U、P、A	システム管理者が警告ログを表示できます。
		assetinfo	U、P、A	システムの所有コスト情報を表示します。
		cmdlog	U、P、A	システム管理者がコマンドログを表示できます。
		esmlog	U、P、A	システム管理者がハードウェアログを表示できます。
		events	U、P、A	システムの シンプルネットワーク管理プロトコル（SNMP）イベント設定を表示します。
		operatingsystem	U、P、A	オペレーティングシステム名とバージョンを表示します。
		pedestinations	U、P、A	プラットフォームイベント警告に対して設定された送信先を表示します。
		platformevents	U、P、A	リストの各プラットフォームイベントについてシステムの反応を表示します。
		recovery	P, A	ハング状態にあるオペレーティングシステムにシステムが応答する方法の設定を表示します。
		shutdown	P, A	シャットダウン処置の実行方法を表示します。
		summary	U、P、A	メインシステムシャーシ、ソフトウェア、ストレージなど、すべてのシステムコンポーネントのキーとなる事実を表示します。
		thrmshutdown	P, A	温度警告またはエラー状態が検知された場合に、実行されるシャットダウン処置を表示します。
		version	U、P、A	システム上のアップデート可能なコンポーネントすべての概要を表示します。

omreport コマンドのヘルプ

omreport -? コマンドを使用すると、**omreport** に使用可能なコマンドの一覧が表示されます。

omreport <コマンドレベル 2> -? を使って レベル 2 のコマンドのバージョン情報、シャーシ、およびシステムのヘルプを表示します。**omreport system -?** に関する次の情報は、**omreport chassis** コマンドのヘルプの表示にも適用されます。

omreport system の有効なコマンドを一覧にするには、次のように入力します。

```
omreport system -? | more
```

omreport modularenclosure

omreport modularenclosure コマンドを使用して、モジュラシステムの詳細を表示します。 次のように入力します。

```
omreport modularenclosure
```

メモ: この CLI コマンドは、Dell モジュラシステムに Dell OpenManage Server Administrator がインストールされている場合に使用可能です。

Server Administrator は、モジュラエンクロージャおよび Chassis Management Controller（CMC）（使用可能な場合）関連情報を表示します。

メモ: 本書で使用するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

```
Modular Chassis Information
Chassis Information
Attribute : Model
Value     : Modular Server Enclosure
Attribute : Lock
Value     : true
Attribute : Service Tag
Value     : 8RLNB1S
CMC Information
Attribute : Product
Value     : Chassis Management Controller (CMC)
Attribute : Description
Value     : The system component provides a complete set of remote management functions for Dell systems.
Attribute : Version
Value     : 1.0 (100)
Attribute : IP Address
Value     : 101.102.103.104
Attribute : IP Address Source
Value     : Dynamic
Attribute : IP Address Type
Value     : IPv4
Attribute : Remote Connect Interface
Value     : Launch CMC Web Interface
```

---

omreport about

omreport about コマンドを使用すると、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認できます。以下は、**omreport about** コマンドの出力例です。

```
Product name : Dell OpenManage Server Administrator
Version      : 5.x.x
Copyright    : Copyright (C) Dell Inc. 1995-2006. All rights reserved.
Company      : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細を表示するには、以下のように入力します。

```
omdiag about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号を持っています。**内容** フィールドはサービスのバージョン番号やその他の役立つ詳細を報告します。以下の出力はその例です。システムにインストールされている Server Administrator の設定とバージョンによって出力が異なる場合があります。

```
Contains: Instrumentation Service 5.x.x
          Storage Management Service 2.x.x
          Sun JRE - OEM Installed Version 1.x.x
          Secure Port Server 3.x.x
          Core Service 1.x.x
          Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
          Storage Management Service Integration Layer 1.x.x
          Server Administrator 5.x.x
```

---

omreport chassis/omreport mainsystem コマンド

omreport chassis または **omreport mainsystem** コマンドを使用して、シャーシ全体または特定のコンポーネントの詳細を表示します。

omreport chassis/ omreport mainsystem

次のように入力します。

```
omreport chassis
```

または
```
omreport mainsystem
```

メインシステムシャーシ / システムコンポーネントの一般的な状態が表示されます。

メモ: 本書で使用するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

```
SEVERITY  : COMPONENT
Ok        : Fans
Critical  : Intrusion
Ok        : Memory
Ok        : Power Supplies
Ok        : Temperatures
Ok        : Voltages
```

omreport chassis acswitch/ omreport mainsystem acswitch

フェールオーバー設定された冗長 AC 電力ラインがシステムに含まれる場合は、**omreport chassis acswitch または omreport mainsystem acswitch** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis acswitch
```
または
```
omreport mainsystem acswitch
```

次のように出力されます。

```
AC Failover Switch
AC Switch Redundancy
Redundancy Status                              : Full
Number of devices required for full redundancy : 2
Redundancy Mode                                :
Redundancy Configuration                       : Input Source Line 1, upon redundancy restoration, return to Line 1
AC Power Lines
Status                                         : Ok
Location                                       : AC Power Line 1
AC Present                                     : Power Present
Active Source                                  : Active
Status                                         : Ok
Location                                       : AC Power Line 2
AC Present                                     : Power Present
Active Source                                  : Not Active
```

Server Administrator で **冗長性状態** と **冗長性モード** フィールドの値が報告されます。

omreport chassis batteries/omreport mainsystem batteries

omreport chassis batteries または **omreport mainsystem batteries** コマンドを使用して、バッテリのプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis batteries
```
または
```
omreport mainsystem batteries
```

Server Administrator は、お使いのシステムのバッテリ情報の概要を表示します。

omreport chassis bios/omreport mainsystem bios

omreport chassis bios/omreport mainsystem bios コマンドを使用して、現在の BIOS 情報を表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis bios
```
または
```
omreport mainsystem bios
```

Server Administrator は、お使いのシステムの BIOS 情報の概要を表示します。

omreport chassis biossetup/omreport mainsystem biossetup

omreport chassis biossetup または **omreport mainsystem biossetup** コマンドを使用して、通常、システム起動中にのみ使用可能な BIOS 設定のパラメータを表示します。

次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup
```
または
```
omreport mainsystem biossetup
```

表 3-3 は、使用可能な BIOS 設定パラメータを表示します。

メモ: すべての BIOS 設定パラメータは表示されません。システム起動中に設定された BIOS 設定プロパティのみが表示されます。

表 3-3. BIOS 設定パラメータ

パラメータ	説明
Bezel	システム再起動中にベゼルの削除イントルージョンが有効または無効になっているかを表示します。
Bootsequence	システムの起動に使用するデバイスを表示します。
Console Redirection	BIOS 画面が特定のシリアルポートにリダイレクト、またはオフになっているかを表示します。
Console Redirection After Boot	システム再起動後のコンソールリダイレクトが有効か無効かを表示します。
Diskette	ディスケットが無効、自動有効、または 読み取り専用になっているかを表示します。
Demand Based Power Management（DBS）	DBS がシステムで有効または無効になっているかを表示します。
Dual NIC	PXE / iSCSI が付いた NIC 1 および NIC 2 が有効または無効になっているかを表示します。
External Serial Connector	外部シリアルコネクタが COM ポート 1、COM ポート 2、リモートアクセスデバイスのうち、どれにマップされているかを表示します。
Console Redirection Failsafe Baud Rate	コンソールリダイレクト Failsafe ボーレートの設定を表示します。
Embedded Hypervisor	組み込みハイパーバイザーが有効または無効になっているかを表示します。
IDE	ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 0	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 1	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
Internal USB	内蔵 USB が有効または無効になっているかを表示します。
Intrusion	システム起動中にイントルージョンが有効または無効になっているかを表示します。
Mouse	マウスが有効または無効になっているかを表示します。
NIC 1	システム起動中に（PXE / iSCSI の有無に関わらず）最初の NIC が有効になっている、または無効になっているかを表示します。
NIC 2	システム起動中に（PXE / iSCSI の有無に関わらず）2 番目の NIC が有効になっている、または無効になっているかを表示します。
NIC 3	システム起動中に（PXE / iSCSI の有無に関わらず）3 番目の NIC が有効になっている、または無効になっているかを表示します。
NIC 4	システム起動中に（PXE / iSCSI の有無に関わらず）4 番目の NIC が有効になっている、または無効になっているかを表示します。
Numlock	キーパッドを数字キーとして使用できるかどうかを表示します。
Optical Drive Controller	光学式ドライブコントローラが有効または無効になっているかを表示します。
Parallel port address	アドレスが LPT1、LPT2、LPT3 に存在するか、または無効になっているかを表示します。
Parallel port mode	パラレルポートに関連した設定を表示します。
Primary SCSI	デバイスがオンまたはオフになっているかを表示します。
RAID on motherboard	オンボード RAID が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されている、またはデバイスがシステム起動中に無効になっているかを表示します。
RAID Channel A	オンボード RAID チャネル A が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
RAID Channel B	オンボード RAID チャネル B が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
SATA	オンボード SATA コントローラが ATA モード、RAID モード、または無効かどうかを表示します。
SATA port	SATA ポートが有効または無効かを表示します。
Secondary SCSI	デバイスが有効または無効になっているかを表示します。
Serial Communications	COM ポート 1 と COM ポート 2 がオフかオンか、またコンソールリダイレクトの有無を表示します。
Serial Port 1	シリアルポート 1 が COM ポート、COM ポート 1、COM ポート 3、COM1 BMC、BMC シリアル、BMC NIC、BMC RAC にマップされている、または無効かを表示します。
Serial Port 2	シリアルポート 2 が COM ポート、COM ポート 2、COM ポート 4 にマップされている、または無効かを表示します。
Speaker	スピーカーがオンまたはオフになっているかを表示します。
Trusted Platform Module	信頼できるプラットフォームモジュールが、起動前測定有効、または起動前測定無効でオフなのかを表示します。
USB or USBB	USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
User accessible USB	ユーザーアクセス可能 USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
Operating System Watchdog Timer	オペレーティングシステムウォッチドッグタイマーが有効または無効になっているか表示します。

omreport chassis bmc/omreport mainsystem bmc

本リリースでは、このコマンドは廃止されました。このコマンドは、コマンド omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess に置換されました。

omreport chassis currents/omreport mainsystem currents

このコマンドは、今後 Server Administrator で使用できません。

omreport chassis fans/omreport mainsystem fans

omreport chassis fans または **omreport mainsystem fans** コマンドを使用して、ファンプローブの状態と設定を表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=n
または
omreport mainsystem fans index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムに存在する可能性のあるファンプローブに設定されている状態、読み取り値、しきい値の概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のファンプローブの概要が表示されます。

omreport chassis fancontrol/omreport mainsystem fancontrol

omreport chassis fancontrol または **omreport mainsystem fancontrol** コマンドを使用して、お使いのシステムのファン速度設定を表示します。ファン速度は、冷却または静かな操作に最適化して設定できます。表 3-4 に、使用可能な設定を示します。

表 3-4. ファンコントロール 設定

「名前=値」のペア	説明
speed=quiet	静かに動作するようファン速度を設定します。
speed=maxcool	冷却が最大化されるようにファン速度を設定します。

omreport chassis firmware/omreport mainsystem firmware

omreport chassis firmware または **omreport mainsystem firmware** コマンドを使用して、現在のファームウェアプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis firmware
または
omreport mainsystem firmware
```

Server Administrator はシステムのファームウェアのプロパティの概要を表示します。

omreport chassis frontpanel/omreport mainsystem frontpanel

omreport chassis frontpanel または **omreport mainsystem frontpanel** コマンドを使用して、電源ボタンおよび / または **非マスク可能割り込み**（NMI）ボタン（システムに存在する場合）などのフロントパネルのボタンコントロール設定が有効または無効になっているか表示します。

お使いのシステムに**電源** ボタンのオーバーライドが存在する場合に、**電源** ボタンオーバーライドが有効かどうかを確認できます。有効になっていると、**電源** ボタンはシステムの電源を**オン**および**オフ**に切り替えます。

システムに **NMI** ボタンが存在する場合に、**NMI** ボタンが有効かどうか確認できます。**NMI** ボタンは一部のオペレーティングシステムでは、ソフトウェアとデバイスのエラーのトラブルシューティングに利用できます。

omreport chassis fru/omreport mainsystem fru

omreport chassis fru または **omreport mainsystem fru** コマンドを使用して、FRU 情報を表示します。以下のように入力します。

```
omreport chassis fru
または
omreport mainsystem fru
```

Server Administrator でシステムの FRU 情報の要約が表示されます。この情報は Server Administrator GUI、SNMP、Common Information Model で入手でき、主にトラブルシューティングアクティビティのサポートに使用します。

omreport chassis hwperformance/omreport mainsystem hwperformance

omreport chassis hwperformance または **omreport mainsystem hwperformance** コマンドを使用して、システムのパフォーマンスの低下について状態と原因を表示します。以下のように入力します。

```
omreport chassis hwperformance
または
```

```
omreport mainsystem hwperformance
```

Server Administrator でシステムのハードウェアのパフォーマンスの低下情報の概要が表示されます。

メモ: このコマンドは、PMBus 対応の一部の Dell ™xx0x システムにのみ適用されます。

設定にもよりますが、出力は以下の例のようになります。

```
Hardware Performance

Index                : 0

Probe Name           : System Board Power Optimized

Status               : Normal

Cause                : [N/A]
```

omreport chassis info/omreport mainsystem info

omreport chassis info または **omreport mainsystem info** コマンドを使用して、インストールされているコンポーネントのバージョン概要を表示します。

```
omreport chassis info index=n
または
omreport mainsystem info index=n
```

index パラメータはシャーシ番号を指定し、オプションになっています。インデックスを指定しない場合は、各シャーシの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のシャーシの概要が表示されます。

設定にもよりますが、出力は以下の例のようになります。

```
Index                                    : 0
Chassis Name                             : Main System Chassis
Host Name                                : everglades
Baseboard Management Controller Version  : 1.80
Primary Backplane Version                : 1.01
Sensor Data Record Version               : SDR Version 0.33
Chassis Model                            : PowerEdge 1750
Chassis Lock                             : Present
Chassis Service Tag                      : 8RLNB1S
Chassis Asset Tag                        :
Flash chassis indentify LED state        : Off
Flash chassis indentify LED timeout value : 300
```

omreport chassis intrusion

omreport chassis intrusion コマンドを使用すると、システムのカバーが開いているかどうかを確認できます。イントルージョンは、システムのコンポーネントを盗んだり、システムを無断で保守しようとする者がいる可能性を示している場合があるため、Server Administrator ではシャーシイントルージョンを記録します。次のように入力します。

```
omreport chassis intrusion
```

次のようなメッセージが表示されます。

```
Status     : Ok

Probe Name : Main chassis intrusion

State      : Chassis is closed
```

omreport chassis leds/omreport mainsystem leds

omreport chassis leds または **omreport mainsystem leds** コマンドを使用して、ハードドライブエラーのクリアがサポートされているか、LED はどの重大度を示しているかを確認します。次のように入力します。

```
omreport chassis leds index=n
または
omreport mainsystem leds index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、シャーシ 0 の LED 情報の概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のシャーシの概要が表示されます。

次に出力例を示します。

```
Flash chassis indentify LED state        : Off

Flash chassis indentify LED timeout value : 300
```

omreport chassis memory/omreport mainsystem memory

omreport chassis memory または **omreport mainsystem memory** コマンドを使用して、お使いのシステムの各メモリモジュールのスロットの詳細を表示します。システムが冗長メモリをサポートしている場合は、システムに実装されているメモリ冗長のステータス、状態、種類も表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis memory index=n
または
omreport mainsystem memory index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムのすべてのメモリモジュールの情報が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のメモリモジュールの概要が表示されます。

以下は、使用中のメモリスロットの出力例です。

```
Index           : 1
Status          : OK
Connector Name  : DIMM_B
Type            : SDRAM-SYNCHRONOUS
Size            : 256 MB
```

使用されていないメモリスロットには、まだコネクタ名が付いています。以下は、使用されていないメモリスロットの出力例です。

```
Index           : 2
Status          : Unknown
Connector Name  : DIMM_D
Type            : Not Occupied
Size            : Unknown
```

システムが冗長メモリをサポートしている場合は、冗長出力が次のように表示されます。

```
Memory Redundancy
Redundancy Status         : Full
Fail Over State           : Inactive
Redundancy Configuration  : SpareBank
Attributes                : Location
Memory Array 1            : Proprietary Add-on Card
Attributes                : Use
Memory Array 1            : Unknown
Attributes                : Installed Capacity
Memory Array 1            : 1536 MB
Attributes                : Maximum Capacity
Memory Array 1            : 12288 MB
Attributes                : Slots Available
Memory Array 1            : 12
```

omreport chassis nics/omreport mainsystem nics

omreport chassis nics または **omreport mainsystem nics** コマンドを使用して、NIC のプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis nics index=n
または
omreport mainsystem nics index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムのすべての NICS に関するプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、特定の NIC のプロパティが表示されます。

次のフィールドに対して値が表示されます。**インデックス**（NIC カードの数）、**IP アドレス**、**ベンダー**、**説明**、および**接続状態**。

omreport chassis ports/omreport mainsystem ports

omreport chassis ports または **omreport mainsystem ports** コマンドを使用して、お使いのシステムのパラレルポートおよびシリアルポートのプロパティを表示します。

次のフィールドに対して値が表示されます。**ポートタイプ**、**外部名**、**ベース I/O アドレス**、**IRQ レベル**、**コネクタ種類**、**および 最大速度**。

ポートの種類 は各システムポートの種類の詳細で、シリアル、パラレル、USB などのポートや、ポインティングデバイス、キーボードなどポートに接続されるデバイスの種類ごとのポート名が示されます。

外部名 はシリアルまたはパラレル、USB、マウス、キーボードなどのポート名です。

ベース I/O アドレス は 16 進数で表される開始 I/O アドレスです。

IRQ レベル はシステムのハードウェア割り込みです。ハードウェア割り込みはイベントがモデムまたはプリンタのような周辺機器で開始または終了したことをシステムの CPU に通知します。周辺機器内部接続カードで通信する場合、IRQ レベルは、割り込み要求を送信しているデバイスの種類を識別する一般的な方法です。

コネクタタイプ はプラグまたはケーブルの種類と 2 つのデバイスを接続するプラグを指し、この場合は外付けデバイスをシステムに取り付けるコネクタの種類を指します。コネクタタイプは数多く、それぞれ異なる種類をシステムに接続するように設計されています。例としては DB-9 Male、AT、アクセス バス、PS/2 などが挙げられます。

最大速度 はポート速度です。ポート速度は入力/出力 チャネルのデータ転送レートを指し、1 秒あたりのビット数で測定されます。通常、シリアルポートの最大速度は 115Kbps で、USB バージョン 1 x ポートの最大速度は 12 Kbps です。

omreport chassis processors/omreport mainsystem processors

omreport chassis processors または **omreport mainsystem processors** コマンドを使用して、お使いのシステムのプロセッサのプロパティを表示します。

次のフィールドに対して値が表示されます。**コネクタ名**、**メーカー**、**プロセッサファミリ**、**プロセッサバージョン**、**現在の速度**、**外部クロック速度**、**状況**。

コネクタ名 はシステムのプロセッサ スロットを占有するデバイス名またはデバイス番号を指します。

メーカー はプロセッサを販売する企業団体を指します。

プロセッサ シリーズ は、メーカーが製造した Intel Itanium または Pentium III または AMD™ Opteron™ などのプロセッサのタイプを指します。

プロセッサバージョン はプロセッサのモデルとステッピング番号を指します。

現在の速度 はシステム起動時の実際のプロセッサの速度を MHz で表したものです。

外部クロック速度 はプロセッサの外部クロック速度を MHz で表したものです。

状況 はプロセッサスロットが有効か無効かを示します。

コア数 は 1 つのチップに内蔵されたプロセッサ数を表したものです。

特定のプロセッサの機能とキャッシュプロパティ

特定のコネクタ上のプロセッサのキャッシュプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis processors index=n
または
omreport mainsystem processors index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、すべてのプロセッサのプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のプロセッサのプロパティが表示されます。

特定のマイクロプロセッサ上の機能には、以下のフィールドが定義されます。

Intel プロセッサ

- 64 ビットサポート
- Hyperthreading（HT）
- Virtualization Technology（VT）
- Demand-Based Switching（DBS）
- Execute Disable（XD）

AMD プロセッサ用

- 64 ビットサポート
- AMD-V™
- AMD PowerNow!™
- No Execute（NX）

特定のマイクロプロセッサ上のキャッシュには、以下のフィールドが定義されます。そのキャッシュがプロセッサの内部にある場合、キャッシュレポートにフィールドは表示されません。

- 速度
- キャッシュデバイスがサポートしている種類
- キャッシュデバイス現在の種類
- 外部ソケット名

特定プロセッサ上のキャッシュごとに報告されるフィールド

特定のプロセッサ上のキャッシュごとに次のフィールドが表示されます。

状態 は、そのプロセッサ上のキャッシュの状態が有効か無効かを報告します。

レベル は、それが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。1 次キャッシュは、プロセッサに内蔵されたメモリバンクです。2 次キャッシュは、1 次キャッシュに転送されるデータのステージ領域です。2 次キャッシュは、プロセッサ内に内蔵される場合とプロセッサ外部のメモリチップに搭載される場合があります。内部プロセッサキャッシュはレベル 1（または L1）と呼びます。L2 キャッシュは Intel Pentium プロセッサ システムの外部キャッシュで、2 次的にアクセスされるキャッシュです。L1 または L2 という呼び名は、そのキャッシュの物理的な場所（内部または外部）を示すものではなく、どちらのキャッシュが最初にアクセスされるかを示しています（L1、つまり内部）。

速度 はキャッシュがメインメモリからプロセッサへデータを転送するときの速度レートを示します。

最大サイズ はそのキャッシュの最大メモリ容量をキロバイト（KB）で表します。

インストールサイズ はそのキャッシュの実サイズです。

種類 はそれが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。

場所 はプロセッサ上、またはプロセッサ外のチップセット上のキャッシュの場所です。

書き込みポリシー はキャッシュの書き込みサイクル方法を示します。書き戻しポリシーでは、キャッシュはバッファとして機能します。プロセッサが書き込みサイクルを開始すると、キャッシュはデータを受け取ってサイクルを停止します。その後、システムバスが利用可能になると、キャッシュはそのデータをメインメモリに書き戻します。

ライトスルーポリシーでは、プロセッサがキャッシュ経由でメインメモリに書き込みます。データがメインメモリに格納されるまで書き込みサイクルは完了しません。

結合性 はメインメモリの内容をキャッシュに格納するときの方法を示します。

- フルアソシエーティブキャッシュ方式では、メインメモリのラインはキャッシュのどの場所にでも格納できます。
- 4 ウェイセットアソシエーティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 4 ラインをキャッシュ内の同一の 4 ラインに直接マップします。
- 3 ウェイセットアソシエーティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 3 ラインをキャッシュ内の同一の 3 ラインに直接マップします。
- 2 ウェイセットアソシエーティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 2 ラインをキャッシュ内の同一の 2 ラインに直接マップします。
- 1 ウェイセットアソシエーティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定ラインをキャッシュ内の同一ラインに直接マップします。

たとえば、メモリ内のページのライン 0 はキャッシュメモリ内のライン 0 に格納されます。

キャッシュデバイス対応の種類 は、そのデバイスがサポートできる SRAM（Static Random Access Memory）の種類を示します。

キャッシュデバイス現在の種類は、現在搭載済みで、そのキャッシュがサポートしている SRAM の種類を示します。

外部ソケットシルクスクリーン名は、ソケットの隣りのシステムボードに刻印される名前です。

エラー修正の種類 は、このメモリで実行される ECC（エラー検査と訂正）の種類を示します。たとえば、訂正可能な ECC または訂正不可能な ECC が挙げられます。

この報告には、マイクロプロセッサ上に存在する各キャッシュ情報が示されます。

omreport chassis pwrmonitoring/omreport mainsystem pwrmonitoring

omreport chassis pwrmonitoring または **omreport mainsystem pwrmonitoring** コマンドを使用して、お使いのシステムの電力消費量のプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrmonitoring
または
omreport mainsystem pwrmonitoring
```

システムの各電力モニタについては、次のフィールドの値が表示されます。**電力消費量 状態**、**プローブ名**、**読み取り値**、**警告しきい値**、および **エラーしきい値**、**アンペア数：場所** および **読み取り値**、**電力追跡統計値**、**エネルギー消費量**、**測定開始時刻**、**測定終了時刻**、**読み取り値**、**システム ピーク電力**、および **システムピークアンペア数**。

メモ: **omreport chassis pwrmonitoring** または **omreport mainsystem pwrmonitoring** コマンドは、PMBus 対応の一部の Dell xx0x システムにのみ適用できます。

```
Power Consumption Information
Power Consumption

      Index                    : 2

      Status                   : Ok

      Probe Name               : System Board System Level

      Reading                  : 539 W

      Warning Threshold        : 994 W

      Failure Threshold        : 1400 W
Amperage

      Location                 : PS 1 Current 1

      Reading                  : 1.2 A

      Location                 : PS 2 Current 2

      Reading                  : 1.0 A
Power Tracking Statistics

      Statistics               : Energy consumption

      Measurement Start Time   : Thu Jun 28 11:03:20 2007

      Measurement Finish Time  : FRI Jun 28 11:05:46 2007

      Reading                  : 5.9 KWH
```

```
Statistics              : System Peak Power

Measurement Start Time  : Mon Jun 18 16:03:20 2007

Peak Time               : Wed Jun 27 00:23:46 2007

Peak Reading            : 630 W


Statistics              : System Peak Amperage

Measured Since          : Mon Jun 18 16:03:20 2007

Read Time               : Tue Jun 19 04:06:32 2007

Peak Reading            : 2.5 A
```

omreport chassis pwrsupplies/omreport mainsystem pwrsupplies

omreport chassis pwrsupplies または **omreport mainsystem pwrsupplies** コマンドを使用して、お使いのシステムの電源装置のプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrsupplies
または
omreport mainsystem pwrsupplies
```

システムの各電源装置については、次のフィールドの値が表示されます。**状態**、**場所**、**タイプ**、**最大出力ワット数**、**オンライン状態**、および **電力モニタ対応**。

omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess

omreport chassis remoteaccess または **omreport mainsystem remoteaccess** コマンドを使用して、ベースボード管理コントローラ（BMC）、および AC がインストールされている場合はリモートアクセスに関する一般情報を表示します。

次のように入力します。

```
omreport chassis remoteaccess
または
omreport mainsystem remoteaccess
```

メモ: このコマンドは、Dell PowerEdge x8xx および x9xx のシステムにのみ適用可能です。

omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess コマンドの出力は、有効な各パラメータをリスト表示します。表 3-5 に、使用可能な設定を示します。

表 3-5. omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess

「名前=値」のペア	説明
config=advsol	ローカルエリアネットワーク（LAN）接続におけるシリアルの詳細 BMC / iDRAC またはリモートアクセスの情報を報告します。
config=nic	LAN の BMC/iDRAC またはリモートアクセス情報を報告します。
config=serial	BMC またはリモートアクセスのシリアルポート情報を報告します。
config=serialoverlan	シリアルオーバー LAN 接続上の BMC/iDRAC またはリモートアクセスの情報を報告します。
config=terminalmode	シリアルポートのターミナルモード設定を報告します。
config=user	BMC/iDRAC またはリモートアクセスのユーザーに関する情報を報告します。

omreport chassis slots/omreport mainsystem slots

omreport chassis slots または **omreport mainsystem slots** コマンドを使用して、お使いのシステムのスロットのプロパティを表示します。

次のように入力します。

```
omreport chassis slots index=n
または
omreport mainsystem slots index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムのすべてのスロットのプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のスロットのプロパティが表示されます。

システムの各スロットについては、**インデックス**、**スロット ID**、**アダプタ**、**データバスの幅** フィールドの値が表示されます。

index はシステムのスロット番号です。

スロット ID は、スロットの隣のシステムのマザーボードに印刷されたシルクスクリーン名です。英数字テキストはシステムの各スロットを独自に識別します。

アダプタ はスロットに合ったカード名とタイプを指し、たとえばストレージ配列コントローラ、SCSI アダプタ、HBA などが含まれます。

データバスの幅 は、システムのコンポーネント間の情報経路の幅をビットで表したものです。データバスの幅の範囲は、16 ～ 64 ビットです。

omreport chassis temps/omreport mainsystem temps

omreport chassis temps または **omreport mainsystem temps** コマンドを使用して、お使いのシステムの温度プローブのプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis temps index=n
または
omreport mainsystem temps index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムにある可能性のある温度プローブ用に設定された状態、読み取り値、しきい値などの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定の温度プローブの概要が表示されます。

omreport chassis volts/omreport mainsystem volts

omreport chassis volts または **omreport mainsystem volts** コマンドを使用して、お使いのシステムの電圧プローブのプロパティを表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis volts index=n
または
omreport mainsystem volts index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムにある可能性のある電圧プローブ用に設定された状態、読み取り値、しきい値などの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定の電圧プローブの概要が表示しされます。

---

omreport system Commands/omreport servermodule Commands

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用して、ログ、しきい値、所有コスト情報、シャットダウン処置および回復処置の設定に関する情報を表示します。

omreport system/omreport servermodule

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用して、お使いのシステムのコンポーネントの一般状態を表示します。. **omreport system shutdown/omreport servermodule shutdown** などのレベル 3 コマンドを指定した場合、**omreport system** または **omreport servermodule** で取得するハイレベルの状態ではなく、1 つのシステムコンポーネントに対する詳細情報を得ることができます。

次のように入力します。

```
omreport system
または
omreport servermodule
```

システムに、メインシステムシャーシ / メインシステムと直接接続している 最低 1 つのストレージデバイスの両方がある場合は、以下の例に示すような概要が表示されます。

```
SEVERITY  : COMPONENT
Ok        : Main System Chassis
Critical  : Storage
```

メモ: 本書で使用するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

ログ表示のコマンド

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用してログを表示できます。表示できるログには、警告ログ、コマンドログ、ハードウェアまたは ESM ログがあります。

メモ: 警告ログまたはコマンドログで無効な XML データ（選択対象で生成された XML データがうまくできていなかった場合など）、「`omconfig system alertlog action=clear`」または「`omconfig system cmdlog action=clear`」とタイプしてログをクリアすると問題を解決できます。今後のためにログ情報を保管しておきたい場合は、ログをクリアする前にログのコピーを保存しておくとよいでしょう。ログのクリアの詳細については、「ログのクリアコマンド」を参照してください。

アラートログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system alertlog
または
omreport servermodule alertlog
```

コマンドログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system cmdlog
または
omreport servermodule cmdlog
```

ESM ログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system esmlog
```
または
```
omreport servermodule esmlog
```

ESM ログの正常性状態

omreport system esmlog または **omreport servermodule esmlog** と入力すると、組み込み System Management（ESM）レポートが表示されます。レポートの 1 行目はシステムハードウェアの総合的な正常性を反映しています。たとえば、正常性：OK となっていれば、ESM ログ 割り当てスペースにおけるメッセージの占有率がまだ 80 % 未満という意味です。これが 80 % 以上になると、次の警告が表示されます。

```
Health: Non-Critical
```

（正常性：非重要）

警告が表示されたら、警告と重要の重大度の要因をすべて解決してから、ログをクリアします。

omreport system alertaction/omreport servermodule alertaction

omreport system alertaction または **omreport servermodule alertaction** コマンドを使用して、お使いのシステムコンポーネントで警告イベントまたはエラーイベントに対して設定されている警告処置の概要を表示します。警告処置はコンポーネントに警告またはエラー イベントがある場合に、Server Administrator の応答方法を決定します。

omreport system alertaction または **omreport servermodule alertaction** コマンドは、コンポーネントに対し指定されている警告処置を表示するのに役立ちます。コンポーネントに対し警告処置を設定するには、**omconfig system alertaction** または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用します。詳細については、「omconfig Instrumentation Service（計装サービス）を使ったコンポーネントの管理」を参照してください。

警告処置を表示できるコンポーネントとイベント

システムにコンポーネントまたはイベントが存在する場合、次のようなコンポーネントやイベントに関して警告処置のプロパティを表示できます。

- バッテリ警告
- バッテリエラー
- シャーシイントルージョン
- 電流プローブ警告
- 電流プローブエラー
- ファン警告
- ファンエラー
- メモリ事前エラー
- メモリエラー
- システム電力プローブ警告
- システム電力プローブがエラーを検知
- 電源装置警告
- 電源装置エラー
- 低下冗長
- 喪失冗長
- 温度警告
- 温度エラー
- 電圧警告
- 電圧エラー
- プロセッサ警告
- プロセッサエラー
- ハードウェアログ警告
- ハードウェアログが一杯です
- ウォッチドッグ ASR
- ストレージシステム警告
- ストレージシステムエラー
- ストレージコントローラ警告

- ストレージコントローラエラー
- 物理ディスク警告
- 物理ディスクエラー
- 仮想ディスク警告
- 仮想ディスクエラー
- エンクロージャ警告
- エンクロージャエラー
- ストレージコントローラバッテリ警告
- ストレージコントローラバッテリエラー

メモ: ストレージコントローラバッテリ警告、およびストレージコントローラバッテリエラーイベントは、モジュラシステムでは使用できません。

omreport system assetinfo/omreport servermodule assetinfo

omreport system assetinfo または **omreport servermodule assetinfo** コマンドを使用して、取得、減価償却、保証情報などのシステムの所有コストデータを表示します。これらのフィールドを設定するには、**omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使用します。詳細については、「omconfig system または servermodule assetinfo: 所有コスト値の編集」を参照してください。

omreport system events/omreport servermodule events

omreport system events または **omreport servermodule events** コマンドを使用して、現在有効または無効にされている SNMP トラップを表示します。このコマンドは、イベントが生成される各コンポーネントの概要を表示します。各コンポーネントについて、報告するように設定されている重大度と、報告されないように設定されている重大度がレポートに示されます。いくつかのコンポーネントの出力例を次に示します。

```
omreport system events
または
omreport servermodule events

Current SNMP Trap Configuration
-----------
System
-----------
Settings
Enable: Informational, Warning and Critical
Disable: None

---------------
Power Supplies
----------------
Settings
Enable: Informational, Warning and Critical
Disable: None

-----------
Fans
-----------
Settings
Enable: Critical
Disable: Informational and Warning
```

完全なレポートには、イベントを生成できるシステムのすべてのコンポーネントの設定が一覧になります。

特定のタイプのコンポーネントの状態を表示するには、**omreport system events type=<コンポーネント名>** または **omreport servermodule event type=<コンポーネント名>** コマンドを使用します。このコマンドは、イベントが生成される各コンポーネントの概要を表示します。表 3-6 は、さまざまな種類のコンポーネントのイベントを表示します。

メモ: 一部のコンポーネントの種類は、システムで使用できないものもあります。

表 3-6. コンポーネントの種類別のシステムイベント

「名前=値」のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを報告します。
type=battery	バッテリのイベントを報告します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントをレポートします。
type=fans	ファンのイベントを設定します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントをレポートします。
type=log	ログのイベントを設定します。
type=memory	メモリのイベントを設定します。
type=powersupplies	電源装置のイベントをレポートします。

type=redundancy	冗長性のイベントを設定します。
type=systempower	システム電力のイベントをレポートします。
type=temps	温度のイベントを設定します。
type=volts	電圧のイベントを設定します。

イベントの種類のコマンド例

次のように入力します。

```
omreport system events type=fans
または
omreport servermodule events type=fans
```

次に出力例を示します。

```
-----------
Fans
-----------
Settings
Enable: Critical
Disable: Informational and Warning
```

omreport system operatingsystem/omreport servermodule operatingsystem

omreport system operatingsystem または **omreport servermodule operatingsystem** コマンドを使用して、お使いのオペレーティングシステムに関する情報を表示します。

omreport system pedestinations/omreport servermodule pedestinations

omreport system pedestinations または **omreport servermodule pedestinations** コマンドを使用して、設定されているプラットフォームイベントの警告送信先を表示します。表示される送信先の数によっては、各送信先アドレスに個別の IP アドレスを設定できます。

次のように入力します。

```
omreport system pedestinations
または
omreport servermodule pedestinations
```

omreport system pedestinations または **omreport servermodule pedestinations** コマンドの出力は、有効な各パラメータをリストします。

メモ: システム上で設定できる実際の宛先数は、システムによって異なります。

表 3-7 に、使用可能な設定を示します。

表 3-7. Settings for the omreport system pedestinations/omreport servermodule pedestinations

出力	アトリビュート	説明
送信先リスト		
	送信先番号:Destination1 送信先 IP アドレス: 101.102.103.104	**destination 1**:最初の送信先を表示します。 **101.102.103.104**:最初の送信先の IP アドレス。
	送信先番号:Destination 2 送信先 IP アドレス: 110.120.130.140	**destination 2**:2 番目の送信先を表示します。 **110.120.130.140**:2 番目の送信先の IP アドレス。
	送信先番号:Destination 3 送信先 IP アドレス: 201.202.203.204	**destination 3**:3 番目の送信先を表示します。 **201:202:203:204:** 3 番目の送信先の IP アドレス。
	送信先番号:Destination 4 送信先 IP アドレス: 210.211.212.213	**destination 4**:4 番目の送信先を表示します。 **210.211.212.213**:4 番目の送信先の IP アドレス。
送信先設定		
	attribute=communitystring	**communitystring**:パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを表示します。

omreport system platformevents/omreport servermodule platformevents

omreport system platformevents または **omreport servermodule platformevents** コマンドを使用して、リストされている各プラットフォームイベントに対するシステムの応答方法を表示します。

omreport system recovery/omreport servermodule recovery

omreport system recovery または **omreport servermodule recovery** コマンドを使用して、ハング状態のオペレーティングシステムに対し設定されている処置の有無を表示します。何秒経ったらオペレーティングシステムがハング状態にあると判断するかを表示することもできます。

omreport system shutdown/omreport servermodule shutdown

omreport system shutdown または **omreport servermodule shutdown** コマンドを使用して、お使いのシステムに対する保留中のシャットダウン処置を表示します。シャットダウンのプロパティが設定されている場合は、このコマンドを実行するとプロパティが表示されます。

omreport system summary/omreport servermodule summary

omreport system summary または **omreport servermodule summary** コマンドを使用して、お使いのシステムに現在インストールされているソフトウェアおよびハードウェアコンポーネントの総合概要を表示します。

コマンド出力例

次のように入力します。

```
omreport system summary
または
omreport servermodule summary
```

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびハードウェアコンポーネントとオプションによって異なります。次の部分的コマンド結果は特有のもので、ご使いのシステムのハードウェア構成とソフトウェア設定とは異なる場合があります。

```
System Summary
------------------
Software Profile
------------------
System Management
Name                : Dell OpenManage Server Administrator
Version             : 5.x.x
Description         : Systems Management Software
Contains:           : Instrumentation Service 5.x.x
                    : Storage Management Service 3.x.x
                    : Sun JRE - OEM Installed Version 3.x.x
                    : Secure Port Server 1.x.x
                    : Dell OpenManage Core Service 1.x.x
                    : Instrumentation Service Integration Layer   1.x.x
                    : Storage Management Service Integration Layer   1.x.x
Operating System
Name                : Microsoft Windows 2000 Server
Version             : Service Pack 3 (Build 2XXX)
System Time         : Fri Sep 20 18:02:52 2XXX
System Bootup Time  : Wed Sep 18 18:37:58 2XXX
```

システム概要ハードウェア情報には、システムに存在するインストール済みの次の種類のコンポーネントに関するデータ値が含まれます。

システムの属性

- ホスト名
- システムの場所

メインシステムシャーシ / メインシステム

シャーシ

- シャーシモデル
- シャーシサービスタグ
- シャーシロック
- シャーシ管理タグ

プロセッサ

システムの各プロセッサにつき、次の情報が一覧になります。

- プロセッサメーカー
- プロセッサシリーズ
- プロセッサバージョン
- 現在の速度
- 最大速度
- 外部クロック速度
- 電圧

メモリ

- インストール容量合計
- オペレーティングシステムで使用できるメモリ容量
- 最大容量合計
- メモリアレイカウント

メモリアレイ

システムの各メモリボードやモジュールについて、以下の詳細が一覧になります（たとえば、指定のスロット番号のシステムボードやメモリモジュール）。

- 場所
- 用途
- インストール済み容量
- 最大容量
- 使用できるスロット
- 使用スロット
- ECC の種類

BIOS

- メーカー
- BIOS バージョン
- リリース日
- BIOS ファームウェア情報
- 名前
- BIOS ファームウェアバージョン

ファームウェア

- 名前
- バージョン

ネットワークインタフェースカード

システムの各 NIC について、次の詳細が表示されます。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- MAC アドレス

ストレージエンクロージャ

システムに接続されている各ストレージエンクロージャについて、次の詳細が一覧表示されます。

- 名前
- Product ID（プロダクト ID）

omreport system thrmshutdown/omreport servermodule thrmshutdown

omreport system thrmshutdown または **omreport servermodule thrmshutdown** コマンドを使用して、サーマルシャットダウン処置に設定されているプロパティを表示します。

サーマルシャットダウンで表示される 3 つのプロパティには、**無効**、**警告**、**エラー** があります。CLI が次のメッセージを表示する場合、サーマルシャットダウン機能は無効になっています。

```
Thermal protect shutdown severity: disabled
```

（サーマル保護シャットダウン重大度：無効）

温度プローブが警告またはエラーイベントを検知したときにシャットダウンするようにシステムが設定されている場合は、次のどちらかのメッセージが表示されます。

```
Thermal protect shutdown severity: warning
Thermal protect shutdown severity: failure
```

（サーマル保護シャットダウン重大度：警告
サーマル保護シャットダウン重大度：エラー）

omreport system version/omreport servermodule version

omreport system version または **omreport servermodule version** コマンドを使用して、システムにインストールされている BIOS、ファームウェア、システム管理ソフトウェア、およびオペレーティングシステムのバージョン番号を表示します。

コマンド出力例

次のように入力します。

```
omreport system version
```
または
```
omreport servermodule version
```

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされている BIOS、RAID コントローラ、およびファームウェアのバージョンによって異なります。次の部分的コマンド結果は特有の結果で、ご使用のシステムの設定結果と異なる場合があります。

```
Version Report

---------------------
Main System Chassis
---------------------

Name : BIOS
Version : 0.2.16
Updateable : N/A

Name : BMC
Version : 0.26
Updateable : N/A

Name : Primary Backplane
Version : 1.01
Updateable : N/A

---------------
Software
---------------

Name : Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition
Version : 5.3 <Build 3790 : Service Pack 1> <x86>
Updateable : N/A

Name : Dell Server Administrator
Version : 5.1.0
Updateable : N/A
```

目次ページに戻る

目次ページに戻る

CLI コマンド結果の使い方

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

Server Administrator コマンドラインインタフェース（CLI）のユーザーはさまざまな方法でコマンド出力を利用できます。本項では、コマンド出力をファイルに保存する方法と、コマンド結果のフォーマットを目的に合わせて選択する方法について説明します。

表 7-1. omreport コマンドに対するシステムの可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用対象
omreport	modularenclosure	モジュラシステム
	servermodule	モジュラシステム
	mainsystem	モジュラシステム
	system	非モジュラシステム
	chassis	非モジュラシステム

コマンド結果の出力オプション

CLI コマンド出力はオペレーティングシステムのタイプによって、コマンドウィンドウ、X-ターミナル、または画面上でシステムの標準出力に表示されます。

コマンド結果を標準出力に表示する代わりに、ファイルにリダイレクトすることができます。コマンド出力をファイルに保存すると、後で分析や比較に使うことができます。

コマンド結果を標準出力に表示する場合もファイルに書き込む場合も、結果をフォーマットできます。選択するフォーマットによって、コマンド出力の表示形式やファイルへの書き込み方法が決まります。

コマンド出力表示の制御

各オペレーティングシステムには、コマンド結果の標準出力表示方法を制御する手段が備わっています。次のコマンドは、コマンド結果を確認する前に、スクロールして消えてしまわないようにする場合に便利です。Microsoft® Windows® コマンドプロンプト、Red Hat® Enterprise Linux ターミナル、および SUSE® LINUX Enterprise Server ターミナルで、同じコマンド構文を使用できます。スクロール制御機能を備えたコマンド出力を表示するには、CLI コマンドを入力してパイプ記号の後に more を付加します。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary | more
```
または
```
omreport servermodule summary | more
```

マルチスクリーンシステム概要では、最初の画面が表示されます。コマンド出力の次の画面を表示するには、スペースバーを押します。

コマンド出力のファイルへの書き込み

コマンド結果をファイルにリダイレクトする場合は、コマンド結果の書き込み先のファイル名と、必要に応じてディレクトリパスを指定できます。ファイルの書き込み先のパスを指定する場合は、オペレーティングシステムに適した構文を使してください。

コマンド結果の保存には 2 とおりの方法があります。指定する出力ファイルと同じ名前の任意のファイルを上書きするか、コマンド結果を同じ名前のファイルに追加し続けることができます。

上書き可能なファイルへのコマンド結果の保存

-outc オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータを上書きする場合に使用します。たとえば、午前 11 時にシステムのファンプローブ 0 のファンプローブ RPM の読み取り値をキャプチャして、結果を**fans.txt** と名前の付いたファイルに書き込むとします。この場合、次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```
または
```
omreport mainsystem fans index=0 -outc fans.txt
```

以下は、ファイルに書き込まれた結果の一部です。

```
Index                      : 0
Status                     : OK
Probe Name                 : System Board Fan 1 RPM
Reading                    : 2380RPM
Minimum Warning Threshold  : 600RPM
Maximum Warning Threshold  : 5700RPM
Minimum Failure Threshold  : 500RPM
Maximum Failure Threshold  : 6000RPM
```

4 時間後、コマンドを繰り返します。**fans.txt** に書き込まれた午前 11 時のスナップショットは不要だとします。同じコマンドを次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```
または
```
omreport mainsystem fans index=0 -outc fans.txt
```

fans.txt ファイルに保存されていた午前 11 時のデータが午後 3 時のデータで上書きされます。

Fans.txt の内容が今度は以下のようになります。

```
Index                      : 0
Status                     : OK
Probe Name                 : System Board Fan 1 RPM
Reading                    : 3001RPM
Minimum Warning Threshold  : 700RPM
Maximum Warning Threshold  : 5500RPM
Minimum Failure Threshold  : 500RPM
Maximum Failure Threshold  : 6000RPM
```

前のコマンド結果を参照して、前のファンプローブ 0 出力を現在の出力と比較することはできません。**-outc** オプションを使って **fans.txt** ファイルを上書きしたからです。

既存のファイルへのコマンド結果の追加

-outa オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータに新しいコマンド結果を追加する場合に使います。たとえば、午前 11 時にシステムのファンプローブ 0 のファンプローブ RPM の読み取り値をキャプチャして、結果を**fans.txt** と名前の付いたファイルに書き込むとします。この結果を 4 時間後に得た同じプローブの出力と比較する場合、**-outa** コマンドを使って新しい出力を **fans.txt**に追加できます。

次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outa fans.txt
```
または
```
omreport mainsystem fans index=0 -outa fans.txt
```

Fans.txt の内容が今度は以下のようになります。

```
Index                      : 0
Status                     : OK
Probe Name                 : System Board Fan 1 RPM
Reading                    : 2380RPM
Minimum Warning Threshold  : 600RPM
Maximum Warning Threshold  : 5700RPM
Minimum Failure Threshold  : 500RPM
Maximum Failure Threshold  : 6000RPM

Index                      : 0
Status                     : OK
Probe Name                 : System Board Fan 1 RPM
Reading                    : 3001RPM
Minimum Warning Threshold  : 700RPM
Maximum Warning Threshold  : 5500RPM
Minimum Failure Threshold  : 500RPM
Maximum Failure Threshold  : 6000RPM
```

テキストエディタを使用すると、各データブロックがキャプチャされた時間を挿入できます。ファンプローブ 0 の 2 つのスナップショットを比較すると、2 回目の報告で数か所に変更があります。ファン RPM の読み取り値は 621 RPM 増加しましたが、まだ正常な範囲内にあります。だれかが最小警告しきい値を 200 RPM 増やし、最大警告しきい値を 2000 RPM 減らしました。

CLI コマンド出力のフォーマットの選択

CLI コマンド結果のフォーマットを指定できます。フォーマットはコマンド出力の表示形式を決定します。コマンド結果がファイルに転送されると、コマンド結果の書き込み先ファイルによってフォーマットがキャプチャされます。

メモ: omconfig コマンドは、ほとんどの出力形式オプションを無視して、標準テキストのメッセージを返します。ただし、XML 形式で表示する場合、**omconfig** コマンドは XML コードを返します。

以下のようなフォーマットを使用できます。

- リスト（lst）
- セミコロン区切りの値（ssv）
- テーブル（tbl）
- 未加工の XML（xml）
- カスタム区切り形式（cdv）

フォーマットオプションの構文は次のようになります。

```
<コマンド> -fmt <フォーマットオプション>
```

たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
または
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定します。

フォーマットオプションを出力をファイルに転送するオプションと組み合わせることができます。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl -outa summary.txt
または
omreport servermodule summary -fmt tbl -outa summary.txt
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定し、**-outa** はコマンド結果を **summary.txt** という名前ファイルに追加することを指定します。

リスト（lst）

デフォルトのフォーマットは **lst**（リスト形式）です。出力の読みやすさを最適化する場合に、この形式を使います。**lst** 以外のフォーマットが必要であれば、コマンド出力のフォーマットを指定する必要があります。

次のコマンド出力例を**リスト**形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary
または
omreport servermodule summary
```

リスト形式はデフォルトの表示形式なので、特別なフォーマットオプションは不要です。次のシステム概要例のネットーワークデータの一部は、以下のように表示されます。

```
--------------

Network Data

--------------

Network Interface Card 0 Data
IP Address : 143.166.152.108
Subnet Mask : 255.255.255.0
Default Gateway : 143.166.152.1
MAC Address : 00-02-b3-23-d2-ca
```

テーブル（tbl）

tbl（テーブル）フォーマットオプションを使うと、データがテーブルの行と列でフォーマットされます。次のコマンド出力例をテーブル形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
または
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

出力例は以下のように表示されます。

```
------------------------------
Network Interface Card 0 Data
------------------------------

| ATTRIBUTE | VALUE
| IP Address | 143.166.152.108
| Subnet Mask | 255.255.255.0
| Default Gateway | 143.166.152.1
| MAC Address | 00-02-b3-23-d2-ca
```

セミコロン区切りの値（ssv）

ssv フォーマットオプションを使うと、出力がセミコロンで区切った値の形式にフォーマットされます。この形式は、コマンド出力結果を Microsoft Excel などの表計算プログラムやデータベースプログラムにインポートすることもできます。次のコマンド出力例をセミコロンで区切った値の形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt ssv
または
omreport servermodule summary -fmt ssv
```

出力例は以下のように表示されます。

```
------------------------------
Network Data
------------------------------
```

```
Network Interface Card 0 Data
IP Address;143.166.152.108
Subnet Mask;255.255.255.0
Default Gateway;143.166.152.1
MAC Address;00-02-b3-23-d2-ca
```

未加工の XML（xml）

xml フォーマットオプションを使うと、システム管理アプリケーションでの使用や、xml を使う他のアプリケーションへの入力に適した出力が生成されます。次のコマンド出力例を raw xml 形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt xml
```
または
```
omreport servermodule summary -fmt xml
```

出力例は以下のように表示されます。

```
<NICStatus>1</NICStatus><IPAddress>143.166.152.108</IPAddress><SubnetMask>255.255.255.0</SubnetMask><DefaultGateway>143.166.152.1</DefaultG
-02-b3-23-d2-ca</MACAddr>
```

カスタム区切り形式（cdv）

cdv フォーマットオプションを使うと、エクスポートされたデータがカスタム区切りの形式でレポートされます。このオプションは他の **omreport** コマンドと一緒に指定できます。たとえば、カスタム区切り形式でシステム概要を生成するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt cdv
```
または
```
omreport servermodule summary -fmt cdv
```

omconfig コマンドを使うと、カスタム区切り形式のプリファランスを設定できます。exclamation 感嘆符（！）、semicolon セミコロン（;）、at @、hash シャープ（#）、dollar ドル記号（$）、percent パーセント記号（%）、caret カレット（^）、asterisk アスタリスク（*）、tide 波型記号（～）、question 疑問符（？）、colon コロン（:）、comma カンマ（,）および pipe パイプ（|）です。

アストリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は以下のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

目次ページに戻る

目次ページに戻る

Storage Management Service の使用

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.3
コマンドラインインタフェースユーザーズガイド

- CLI のコマンド構文
- 必須、オプション、変数のコマンド要素の構文
- omreport storage と omconfig storage のユーザー特権
- omreport コマンド
- omreport ストレージヘルプ
- omconfig グローバルのコマンド
- omconfig コントローラのコマンド
- omconfig 仮想ディスクのコマンド
- omconfig 物理ディスクのコマンド
- omconfig バッテリのコマンド
- omconfig コネクタコマンド
- omconfig エンクロージャのコマンド

Storage Management の CLI を使用すると、オペレーティングシステムのコマンドシェルから Storage Management のレポート、設定、管理機能のすべてを実行できます。また、Storage Management CLI を使用すると、コマンドシーケンスのスクリプトを作成することもできます。

Storage Management CLI は、Dell OpenManage Server Administrator の **omreport** コマンドと **omconfig** コマンドのオプションを拡張するものです。 本章では Storage Management に適用する **omreport** と **omconfig** コマンドについてのみ述べられています。 詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。 Storage Management の詳細については、Storage Management オンラインヘルプおよび『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

CLI のコマンド構文

Server Administrator の全コマンドと同様に、**omreport** と **omconfig** のコマンド構文はコマンドの「レベル」の指定から成ります。 最初のコマンドレベルは、**omreport** または **omconfig** です。 次のコマンドレベルでは、コマンドの対象となるオブジェクトの種類や、コマンドで表示される情報をより細かく特定します。

たとえば、次の **omconfig** コマンド構文には 3 つのレベルがあります。

```
omconfig storage pdisk
```

表 6-1 は、これらのコマンドレベルについて説明したものです。

表 6-1. コマンドレベルの例

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omconfig			コマンドを指定します。
	storage		コマンドを実装する Server Administrator のサービス（この場合は Storage Management）を示します。
		pdisk	コマンドの対象となるオブジェクトの種類を指定します。

omreport と **omconfig** のコマンド構文では、コマンドレベルに続いて、「名前=値」のペアが 1 つまたは複数必要になることがあります。 「名前=値」のペアは、オブジェクト自体（特定の物理ディスクなど）またはコマンドが実装するオプション（「blink」または「unblink」）を指定します。

たとえば、物理ディスクを点滅させる次の **omconfig** コマンド構文には、3 つのレベルと 3 つの「名前=値」のペアがあります。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

ここで、物理ディスク ID=<コネクタ：エンクロージャ ID：ポート ID | コネクタ：ターゲット ID>です。

この例では、`controller=id` の id はコントローラ番号のことで、たとえばコントローラ 1 は controller=1 と指定されます。

必須、オプション、変数のコマンド要素の構文

omreport および **omconfig** コマンドには、複数の「名前=値」のペアがあります。 これらの「名前=値」ペアには、必須、オプション、および変数のパラメータが含まれる場合があります。 表 6-2 は、これらのパラメータを示すのに使用される構文について説明したものです。

表 6-2. パラメータの「名前=値」ペアの構文

構文	説明
controller=id	**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ IDを示します。 これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage pdisk controller=id` と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。 たとえば、**controller=id** パラメータは **controller=1** と指定します。
connector=id	**omreport** コマンドによって報告されるコネクタ ID を示します。 これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage connector controller=id` と入力し、コントローラに接続されているコネクタの ID を表示します。

	たとえば、**connector=id** パラメータは **connector=2** のように指定します。
vdisk=id	**omreport** コマンドによって報告される仮想ディスク ID を示します。 これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage vdisk controller=id` と入力し、コントローラ上の仮想ディスクの ID を表示します。 たとえば、**vdisk=id** パラメータは **vdisk=3** と指定します。
enclosure=<エンクロージャ ID>	**enclosure=コネクタ** または **enclosure=コネクタ: エンクロージャ ID** のどちらかを指定することで、特定のエンクロージャを示します。 これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage enclosure controller=id` と入力し、コントローラに接続しているエンクロージャの ID を表示します。
pdisk=<物理ディスク ID>	**コネクタ: ターゲット ID** または **コネクタ: エンクロージャ ID: ポート ID** のどちらかで指定することで、特定の物理ディスクを示します。 コネクタ、エンクロージャ、および物理ディスクの値（ターゲット ID またはポート ID）を得るには、`omreport storage controller` を入力してコントローラ ID を表示し、次に `omreport storage controller=id` を入力して、コントローラに連結している物理ディスクの ID を表示します。
battery=id	**omreport** コマンドによって報告されるバッテリ ID を示します。 この値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラの ID を表示してから、`omreport storage battery controller=id` と入力しコントローラのバッテリの ID を表示します。
< >	キャレット記号（< >）は、指定すべき変数要素を囲みます。 たとえば、**name=<文字列>** パラメータは **name=VirtualDisk1** のように指定します。
[]	ブラケット記号（[]）は指定するかしないかを選択できるオプションの要素を示します。 たとえば、仮想ディスクを作成する場合、**[name=<文字列>]** パラメータは仮想ディスク名を指定するかどうかを選択できるという意味です。 このパラメータを構文から省略すると、仮想ディスクのデフォルト名が選択されます。
|	パイプ記号（|）は、複数のオプションから 1 つだけを選択する必要がある場合に、オプションを区切ります。 たとえば、仮想ディスクを作成する場合、**cachepolicy=d|c** はキャッシュポリシーを **cachepolicy=d** か **cachepolicy=c** のどちらかに指定しなければならないという意味です。

omreport storage と omconfig storage のユーザー特権

Storage Management で **omconfig storage** コマンドを使用するには、システム管理者特権が必要です。 **omreport storage** コマンドを使用するには、ユーザー特権とパワーユーザー特権で十分です。

omreport コマンド

以下の項では、各種ストレージコンポーネントを表示するために必要な **omreport** コマンド構文について説明します。

omreport ストレージヘルプ

表 6-3 は、**omreport storage** コマンド構文を示したものです。

表 6-3. omreport storage help

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omreport			
	storage		**omreport** コマンドを使用できるストレージコンポーネントのリストを表示します。
		pdisk	**omreport storage pdisk** パラメータのリストを表示し、物理ディスク情報を表示します。
		vdisk	**omreport storage vdisk** パラメータのリストを表示し、仮想ディスク情報を表示します。
		controller	**omreport storage controller** パラメータのリストを表示し、コントローラ情報を表示します。
		enclosure	**omreport storage enclosure** パラメータのリストを表示し、エンクロージャ情報を表示します。
		connector	**omreport storage connector** パラメータのリストを表示し、コネクタ情報を表示します。
		battery	**omreport storage battery** パラメータのリストを表示し、バッテリ情報を表示します。
		globalinfo	**omreport storage globalinfo** パラメータのリストを表示し、グローバルストレージ情報を表示します。

omreport コントローラ状態

表 6-4 は、**omreport コントローラ** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-4. omreport コントローラのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage controller		システムに接続されたすべてのコントローラのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0	指定したコントローラと、それに接続しているエンクロージャ、仮想ディスク、物理ディスクなどのコンポーネントすべてを表示します。

omreport グローバル情報（Smart サーマルシャットダウン状態）

表 6-5 は、**omreport グローバル情報** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-5. omreport グローバル情報のコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage globalinfo		Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを表示します。 詳細については、「**omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする**」コマンドを参照してください。

omreport バッテリ状態

表 6-6 は、**omreport バッテリ** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-6. omreport バッテリのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage battery		システム上のすべてのコントローラに存在するあらゆるバッテリを表示します （一部のコントローラにはバッテリがありません）。
	controller=id id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0	指定したコントローラのバッテリを表示します。

omreport コネクタ状態

表 6-7 は、**omreport コネクタ** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-7. omreport コネクタコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage connector		システム上のすべてのコントローラに存在するあらゆるコネクタを表示します。 **メモ：** このコマンドはコントローラ ID が指定されている場合のみ有効です。
	controller=id id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0	指定したコントローラのコネクタを表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 **connector=id** id はコネクタ番号です。 たとえば以下のようになります。 connector=0	コントローラ上の指定したコネクタの情報を表示します。

omreport エンクロージャ状態

表 6-8 は、**omreport エンクロージャ** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-8. omreport エンクロージャのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャとそのコンポーネントを表示します。

omreport 温度プローブ状態

表 6-9 は、**omreport プローブ** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-9. omreport 温度プローブのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）と「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> **info=temps** id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャの温度プローブを表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> **info=temps index=n** id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は温度プローブの番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2 info=temps index=1	指定した温度プローブを表示します。

omreport ファン状態

表 6-10 は、**omreport ファン** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-10. omreport ファン状態

必要なコマンドレベル（1、2、3）と「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=fans id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2 **メモ：** SCSI コントローラでは enclosure=<エンクロージャ ID> で指定された ID がコネクタ番号で、Serial Attached SCSI（SAS）コントローラでは ID は connectorNumber:EnclosureIndex です。	指定したエンクロージャのファンを表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> **info=fans index=n** id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」はファンの番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2 info=fans index=1	指定したファンを表示します。

omreport 電源装置状態

表 6-11 は、**omreport 電源装置** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-11. omreport 電源装置コマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）と「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=pwrsupplies id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャの電源装置を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=pwrsupplies index=n id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は電源装置の番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2 info=pwrsupplies index=1	指定した電源装置を表示します。

omreport EMM 状態

表 6-12 は、**omreport EMM** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-12. omreport EMM のコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）と「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=emms id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャのエンクロージャ管理モジュール（EMM）を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=emms index=n id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は EMM の番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 enclosure=2 info=emms index=1	指定した EMM を表示します。

omreport 物理ディスク状態

表 6-13 は、**omreport 物理ディスク** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-13. omreport 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）と「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage pdisk	**controller=id** id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0	指定したコントローラに接続している物理ディスクをすべて表示します。
	connector=id id はコネクタ番号です。 たとえば以下のようになります。 connector=1	コントローラ上の指定したコネクタに接続している物理ディスクをすべて表示します。
	vdisk=id id は仮想ディスク番号です。 たとえば以下のようになります。 vdisk=1	コントローラ上の指定した仮想ディスクに含まれる物理ディスクをすべて表示します。
	**pdisk=コネクタ ID : ターゲット ID	コネクタ ID：エンクロージャ ID：スロット ID** ただし、コネクタ ID：ターゲット ID はコネクタ番号と物理ディスク番号で、コネクタ ID：エンクロージャ ID：スロット ID はコネクタ番号、エンクロージャ番号、およびスロット番号です。 たとえば以下のようになります。 pdisk=0:2 または pdisk=0:1:2	コントローラ上の指定したコネクタの指定した物理ディスクを表示します。

omreport 仮想ディスク状態

表 6-14 は、**omreport 仮想ディスク** コマンドの構文について説明したものです。

表 6-14. omreport 仮想ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage vdisk		コントローラ上のすべての仮想ディスクのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0.	指定したコントローラ上のすべての仮想ディスクを表示します。
	controller=id vdisk=id id はコントローラ番号と仮想ディスク番号です。 たとえば以下のようになります。 controller=0 vdisk=1.	コントローラ上の指定した仮想ディスクを表示します。

omconfig グローバルのコマンド

以下の項では、グローバルコマンドを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。 実行すると、これらのコマンドはすべてのコントローラに適用されます。 また、これらのグローバルコマンドは、Storage ツリービューオブジェクトの **情報 / 設定** サブタブ に表示されるグローバルタスクにも対応しています。

表 6-15. omconfig グローバルのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage globalinfo	
	action=enablests
	action=disablests
	action=globalrescan

omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする

デフォルトでは、PV220S および PV221S エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50°に達すると、オペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。 ただし、PV220S および PV221S エンクロージャにコネクタの冗長性を実装している場合は、エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50Âãに達したときにエンクロージャだけをシャットダウンし、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように指定できます。 温度が高すぎる間エンクロージャだけをシャットダウンするように指定する操作を「Smart サーマルシャットダウン」と呼びます。 Smart サーマルシャットダウンに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

サーマルシャットダウンを有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを有効にする **omconfig** コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。 サーマルシャットダウンを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```

メモ：omreport storage globalinfo コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。 Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator のグラフィカルユーザーインタフェース（GUI）にも表示されます。 この状態を表示するには、**ストレージ** オブジェクトと **情報 / 設定** タブを選択します。

omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを無効にする

omconfig コマンドを使ってサーマルシャットダウンを有効にしている場合、サーマルシャットダウンを無効にしてシステムをデフォルト設定に戻すことができます。 サーマルシャットダウンを無効にすると、PV220S および PV221S エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50Âã に達したときにオペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。

すべてのコントローラにおいてサーマルシャットダウンを無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを無効にする **omconfig** コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。 サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```

メモ：omreport storage globalinfo コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。 Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator の GUI にも表示されます。 この状態を表示するには、**ストレージ** オブジェクトと **情報 / 設定** タブを選択します。

omconfig グローバルコントローラの再スキャン

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、システムのすべてのコントロールが再スキャンされます。 コントローラのグローバル再スキャンに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```

構文例

システムのすべてのコントローラを再スキャンする **omconfig** コマンド構文では、コントローラ ID を指定する必要はありません。 すべてのコントローラをグローバルに再スキャンするには、次のコマンドを入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```

メモ：グローバル再スキャンは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。 非 RAID SCSI コントローラ上の設定変更を表示可能にするには、システムを再起動します。

---

omconfig コントローラのコマンド

以下の項では、コントローラのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

注意：omconfig storage controller action=resetconfig controller=id は、コントローラの設定をリセットします。 コントローラの設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。 これらの仮想ディスク上にあるシステムまたはブートパーティションは破壊されます。

表 6-16. omconfig コントローラのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage controller	
	action=rescan controller=id
	action=enablealarm controller=id
	action=disablealarm controller=id
	action=quietalarm controller=id
	action=testalarm controller=id
	action=resetconfig controller=id [force=yes]
	action=createvdisk controller=id raid=<c| r0| r1| r1c| r5|r6| r10| r50|r60> size=<数値 | max | min > pdisk=<物理ディスク ID> [stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] [cachepolicy=<d | c>] [readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] [writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>] [name=<文字列>] [spanlength=<数値>]
	action=setrebuildrate controller=id rate=<0 ～ 100>
	action=setbgirate controller=id

	rate=<0 ～ 100 >
	action=setreconstructrate controller=id rate=<0 ～ 100>
	action=setcheckconsistency controller=id rate=<0 ～ 100>
	action=exportlog controller=id
	action=importforeignconfig controller=id
	action= importrecoverforeignconfig controller=id
	action=clearforeignconfig controller=id
	action=setpatrolreadmode controller=id mode=manual | auto | disable
	action=startpatrolread controller=id
	action=stoppatrolread controller=id

omconfig コントローラの再スキャン

コントローラを再スキャンするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 コントローラの再スキャンに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=rescan controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=rescan controller=1
```

メモ： 再スキャンコントローラは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。 非 RAID SCSI コントローラ上の設定変更を表示可能にするには、システムを再起動します。

omconfig コントローラアラームを有効にする

コントローラアラームを有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 コントローラアラームを有効にする詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=enablealarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=enablealarm controller=1
```

omconfig コントローラアラームを無効にする

コントローラアラームを無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 コントローラアラームを無効にする詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=disablealarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のアラームを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=disablealarm controller=1
```

omconfig コントローラアラームの静止

コントローラアラームを静止にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 コントローラアラームの静止に関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=quietalarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のアラームを静止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=quietalarm controller=1
```

omconfig コントローラアラームのテスト

コントローラアラームの機能性をテストするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 アラームが約 2 秒間鳴ります。 コントローラアラームのテストに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=testalarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のアラームをテストするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=testalarm controller=1
```

omconfig コントローラ設定のリセット

コントローラの設定をリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

注意： 設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。 これらの仮想ディスク上にあるシステムまたはブートパーティションは破壊されます。 このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示されることがあります。 ただし、この警告メッセージはあらゆる状況で生成されるわけではありません。 このコマンドを使うときは、システムやブートパーティション、その他の重要なデータが削除されないことを十分確認してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示される場合があります。 **force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。 この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の設定をリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=1
```

omconfig 仮想ディスクの作成

仮想ディスクの作成については、Dell OpenManage のオンラインヘルプに詳しい情報が掲載されています。

仮想ディスクを作成するための **omconfig** 構文には複数のパラメータがあります。 以下のパラメータを指定する必要があります。

- コントローラ（controller=id）
- RAID レベル（raid=<c| r0| r1| r1c| r5|r6| r10| r50|r60>）
- サイズ（size=<数値 | max | min>）
- 物理ディスクは次のどちらかの方法で指定されます。

  pdisk=コネクタ: エンクロージャ ID: ポート ID

  または

  pdisk=コネクタ: ターゲット ID

その他のパラメータについては、指定しなければ Storage Management によってデフォルト値が設定されます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=id raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50 |r60> size=<数値 | max | min > pdisk=<
物理ディスク ID> [stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] [cachepolicy=<d | c>] [readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>]
[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>] [name=<文字列>] [spanlength=<数値>]
```

仮想ディスクの作成と再設定のためのパラメータ指定

以下の項では、**omconfig storage controller action=createvdisk** パラメータを指定する方法について説明します。

controller=id パラメータ（必須）

raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50| r60> パラメータ（必須）

size=<数値 | max | min > パラメータ（必須）

pdisk=<コネクタ:ターゲットID,コネクタ:ターゲットID,.....> パラメータ（必須）

[stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] パラメータ（オプション）

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ（オプション）

[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ（オプション）

[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>] パラメータ（オプション）

[name=<文字列>] パラメータ（オプション）

[spanlength=<数値>] パラメータ（オプション）

controller=id パラメータ（必須）

omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を指定します。 たとえば以下のようになります。

```
controller=2
```

raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50| r60> パラメータ（必須）

仮想ディスクの連結または RAID レベルを指定するには、**raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6 | r10| r50| r60>** パラメータを使用します。 サポートされるRAID レベルはコントローラによって異なります。 コントローラがサポートしている RAID レベルと、RAID レベルおよび連結の詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。 表 6-17 は、各 RAID レベルと連結に対する

raid=n パラメータの指定方法を示したものです。

表 6-17. RAID レベルと連結

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの指定
RAID -0	raid=r0
RAID -1	raid=r1
RAID -5	raid=r5
RAID -6	raid=r6
RAID -10	raid=r10
RAID -50	raid=r50
RAID -60	raid=r60
RAID -1-連結	raid=r1c
連結	raid=c

size=<数値 | max | min > パラメータ（必須）

表 6-18 は、**size=<数値 | max | min >** パラメータの指定方法を示したものです。

表 6-18. Size パラメータ

size=<数値 | max | min> パラメータの指定	説明
size=<数値>	仮想ディスクに特定のサイズを指定するには、これを使用します。 仮想ディスクサイズは b（バイト）、m（メガバイト）、または g（ギガバイト）で指定します。 たとえば、**size=500m** は、仮想ディスクが 500MB という意味です。
size=max	可能な最大サイズの仮想ディスクを作成するには、**size=max** と指定します。 RAID -50 の仮想ディスクを作成する場合、このパラメータは **size=max** と指定する必要があります。
size=min	可能な最小サイズの仮想ディスクを作成するには、**size=min** と指定します。

物理ディスク ID=<コネクタ:エンクロージャ ID:ポート ID | コネクタ:ターゲット ID>

仮想ディスクに含める物理ディスクを指定するには、このパラメータを使用します。

仮想ディスクを再構成する場合は、再構成後の仮想ディスクに含める物理ディスクすべてを指定する必要があります。 物理ディスクの指定は、元の仮想ディスクからそのまま再構成後の仮想ディスクに残る物理ディスクと、再構成後の仮想ディスクに新しく追加された新しい物理ディスクに適用されます。 コントローラによっては、仮想ディスクから物理ディスクを削除できます。 この場合、削除する物理ディスクは指定しません。

pdisk=<物理ディスク ID> パラメーターは、**コネクタ:エンクロージャ ID:ポート ID または コネクタ:ターゲット ID** のどちらかで指定される物理ディスクを指します。

```
stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] パラメータ（オプション）
```

サポートされるストライプサイズはコントローラによって異なります。 コントローラでサポートされているストライプサイズに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。 ストライプサイズはすべてキロバイトで指定します。 たとえば、ストライプサイズに 128KB を指定する場合は、次のように入力します。

```
stripesize=128kb
```

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ（オプション）

サポートされるキャッシュポリシーはコントローラによって異なります。 表 6-19 は、各キャッシュポリシーに対する **[cachepolicy=<d | c>]** パラメータの指定方法を示したものです。

表 6-19. キャッシュポリシーのパラメーター

キャッシュポリシー	cachepolicy=d | c パラメータ指定
ダイレクト I/O	cachepolicy=d
キャッシュ I/O	cachepolicy=c

[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ（オプション）

サポートされる読み取りポリシーはコントローラによって異なります。 表 6-20 は、各読み取りポリシーに対する **[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>]** パラメータを示したものです。

表 6-20. 読み取りポリシーのパラメータ

読み取りポリシー	readpolicy=ra | ara | nra | rc | nrc パラメータ指定
先読み	readpolicy=ra
適応先読み	readpolicy=ara
先読みなし	readpolicy=nra
読み取りキャッシュ	readpolicy=rc
読み取りキャッシュなし	readpolicy=nrc

[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc>] パラメータ（オプション）

サポートされる書き込みポリシーはコントローラによって異なります。 表 6-21 は、各書き込みポリシーに対する **[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>]** パラメータを示したものです。

表 6-21. 書き込みポリシーのパラメータ

書き込みポリシー	writepolicy=wb | wt | wc | fwb | nwc パラメーター指定
ライトバックキャッシュ	writepolicy=wb
ライトスルーキャッシュ	writepolicy=wt
書き込みキャッシュ	writepolicy=wc
ライトバックの強制	writepolicy=fwb
書き込みキャッシュなし	writepolicy=nwc

[name=<文字列>] パラメータ（オプション）

仮想ディスクの名前を指定するには、このパラメータを使用します。 たとえば以下のようになります。

```
name=VirtualDisk1
```

メモ： CERC SATA 1.5/2s コントローラの場合は、仮想ディスクの名前を指定できません。 仮想ディスクはデフォルト名で作成されます。

[spanlength=<数値>] パラメータ（RAID -50 に必須）

各ストライプに含まれる物理ディスクの数を指定するには、このパラメータを使用します。 このパラメータは RAID -50 の仮想ディスクのみに適用します。 RAID -50 の仮想ディスクを作成していない場合は、このパラメータを指定しないでください。 たとえば以下のようになります。

```
spanlength=3
```

構文例

たとえば、PERC 3/QC コントローラに RAID -5 仮想ディスクを作成したいとします。 このコントローラでサポートされている読み取りポリシー、書き込みポリシー、キャッシュポリシーに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。たとえば、以下の読み取り、書き込み、およびキャッシュのポリシーで仮想ディスクを作成します。

- 先読み
- ライトスルーキャッシュ
- キャッシュ I/O

仮想ディスクは 500MB で、ストライプサイズは 16KB になります。 仮想ディスクの名前は **vd1** で、コントローラ 1 のコネクタ 0 に置かれます。 仮想ディスクは RAID -5 なので、少なくとも 3 個の物理ディスクが必要です。 この例では、4 個の物理ディスクを指定します。 これらは物理ディスク 0 から 3 です。

この例で説明した仮想ディスクを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=1 raid=r5 size=500m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3 stripesize=16kb cachepolicy=c
readpolicy=ra writepolicy=wt
```

指定するパラメータは、コントローラ、RAID レベル、仮想ディスクのサイズと、物理ディスクの選択だけです。 その他の指定していないパラメータについては、Storage Management によってデフォルト値をが設定されます。

omconfig コントローラ再構成率の設定

コントローラ再構成率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=id rate=<0 to 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構成率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=1 rate=50
```

omconfig バックグラウンドの初期化率の設定

バックグラウンドの初期化率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setbgirate controller=id rate=<0 ～ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 でバックグラウンドの初期化率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setbgirate controller=1 rate=50
```

omconfig 再構築率の設定

再構築率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate controller=id

rate=<0 ～ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構築率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate controller=1

rate=50
```

omconfig 整合性チェック率の設定

整合性チェック率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setcheckconsistency controller=id
```

```
rate=<0 ～ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で整合性チェック率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setcheckconsistency controller=1

rate=50
```

omconfig コントローラログのエクスポート

コントローラのログをテキストファイルにエクスポートするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 エクスポートされたログファイルの詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=exportlog controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のログをエクスポートするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=exportlog controller=1
```

デフォルトでは、ログファイルは、Microsoft® Windows® システム（使用されている Windows バージョンに基づく）の場合には **C:\WinNt** または **C:\Windows** へ、またすべての Linux システムでは **/var/log** へエクスポートされます。

コントローラによって、ログファイル名は **afa_<**mmdd**>.log** または **lsi_<*mmdd*>.log**（mmdd は月と日付）になります。コントローラのログファイルの詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

メモ： PERC 2/SC、2/DC、4/IM、CERC ATA 100/4ch、CERC SATA 1.5/2s の各コントローラでは export log file コマンドはサポートされていません。

omconfig 外部設定のインポート

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートできます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

メモ： このコマンドは、ファームウェアバージョン 5.0.xでのみサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートにするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig controller=1
```

omconfig Import/Recover Foreign Configuration

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートし回復することができます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=importrecoverforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

メモ： このコマンドは、ファームウェアバージョン 5.1.1 でのみサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートおよび回復するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=importrecoverforeignconfig controller=1
```

omconfig 外部設定のクリア

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをクリアまたは削除できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig controller=1
```

omconfig 巡回読み取りモードの設定

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに巡回読み取りモードを設定できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode controller=id

mode=manual | auto | disable
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りを手動モードに設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode controller=1

mode=manual
```

omconfig 巡回読み取りの開始

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを開始できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=startpatrolread controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=startpatrolread controller=1
```

メモ： 巡回読み取りを開始可能にするには、現在の巡回読み取りモードを 手動 に設定する必要があります。

omconfig 巡回読み取りの停止

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを停止できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=1
```

メモ： 巡回読み取りを停止可能にするには、現在の巡回読み取りモードを 手動 に設定する必要があります。

---

omconfig 仮想ディスクのコマンド

以下の項では、仮想ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

注意：omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id コマンドは仮想ディスクを削除します。 仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。

表 6-22. omconfig 仮想ディスク管理のコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage vdisk	
	action=checkconsistency controller=id vdisk=id
	action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=blink controller=id vdisk=id
	action=unblink controller=id vdisk=id
	action=initialize controller=id vdisk=id
	action=fastinit controller=id vdisk=id
	action=slowinit controller=id vdisk=id
	action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
	action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
	action=restoresegments controller=id vdisk=id
	action=splitmirror controller=id vdisk=id
	action=unmirror controller=id vdisk=id
	action=assigndedicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=<yes|no>
	action=deletevdisk controller=id vdisk=id [force=yes]
	action=format controller=id vdisk=id
	action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r10> size=<サイズ> pdisk=<物理ディスク ID>
	action=changepolicy controller=id vdisk=id [readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc> | writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fwb> | cachepolicy=<d | c>]
	action=rename controller=id vdisk=id

omconfig 仮想ディスクの点滅

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=id vdisk=id
```

id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの点滅解除

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化

仮想ディスクを初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化のキャンセル

仮想ディスクの初期化をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの高速初期化

仮想ディスクを高速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を高速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの低速初期化

仮想ディスクを低速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を低速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=1 vdisk=4
```

omconfig バックグラウンドの初期化のキャンセル

仮想ディスクのバックグラウンドの初期化処理をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のバックグラウンドの初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 無効セグメントの復元

破壊された RAID -5 仮想ディスクからデータを回復するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 このタスクは、RAID-5 仮想ディスクに含まれる物理ディスクの破壊された部分からデータの再構成を試みます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=restoresegments controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のセグメントを復元するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=restoresegments controller=1 vdisk=4
```

omconfig ミラー分割

RAID 1、RAID-1ミ連結、または RAID-10 の仮想ディスクとして設定されていたミラーデータを分割するには、**omconfig** コマンド構文を使用します。 RAID-1 または RAID-1ミ連結ミラーを分割すると、2 つの連結された非冗長仮想ディスクが作成されます。 RAID-10 ミラーを分割すると、2 つの RAID-0（ストライプ）非冗長仮想ディスクが作成されます。 この操作でデータが失われることはありません。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=splitmirror controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のミラー分割を開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=splitmirror controller=1 vdisk=4
```

omconfig ミラー解除

ミラーデータを分割してミラーの半分を空き容量として復元するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 RAID-1 または RAID-1 連結仮想ディスクをミラー解除すると、単一の非冗長の連結仮想ディスクが作成されます。 RAID-10 仮想ディスクのミラーを解除すると、単一の非冗長の RAID-0（ストライプ）仮想ディスクが作成されます。 この操作でデータが失われることはありません。 ミラー解除に関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=unmirror controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 をミラー解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=unmirror controller=1 vdisk=4
```

omconfig 専用ホットスペアの割り当て

1 つまたは複数の物理ディスクを専用ホットスペアとして仮想ディスクに割り当てるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： PERC 2/SC、2/DC、CERC SATA 1.5/2s の各コントローラは専用ホットスペアをサポートしていません。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=yes
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** そして **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 上の物理ディスク 3 を、仮想ディスク 4 の専用ホットスペアとして割り当てています。 シリアルアタッチド SCSI（SAS）コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された専用ホットスペアを割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:3 assign=yes
```

SAS コントローラの例

この例で説明された専用ホットスペアを割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig 専用ホットスペアの割り当て解除

専用ホットスペアとして仮想ディスクに割り当てられている 1 つまたは複数の物理ディスクを割り当て解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=no
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** そして **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 上の物理ディスク 3 を、仮想ディスク 4 の専用ホットスペアとして割り当て解除しています。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された専用ホットスペアの割り当てを解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:3 assign=no
```

SAS コントローラの例

この例で説明された専用ホットスペアの割り当てを解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=no
```

omconfig 整合性チェック

仮想ディスクの整合性確認を開始するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 整合性確認タスクは、仮想ディスクの冗長データを確認します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを実行するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックのキャンセル

整合性チェックを処理中にキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックをキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックの一時停止

整合性チェックを処理中に一時停止するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。整合性チェックの一時停止に関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを一時停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックの再開

整合性チェックを一時停止した後で再開するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport**

storage vdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを再開するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの削除

仮想ディスクを削除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

注意： 仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。 システムまたはブートパーティションを削除しようとすると、警告メッセージが表示されることがあります。 ただし、この警告メッセージはあらゆる状況で生成されるわけではありません。 このコマンドを使うときは、システムやブートパーティション、その他の重要なデータが削除されないことを十分確認してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id

wwon=deletevdisk controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクのフォーマット

仮想ディスクをフォーマットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=format controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 をフォーマットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=format controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの再設定

仮想ディスクを再設定して、仮想ディスクの RAID レベルを変更したり、物理ディスクを追加してサイズを増やしたりできます。 コントローラによっては、物理ディスクを削除することもできます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10> size=<サイズ> pdisk=<物理ディスク>
```

構文例

仮想ディスク 4 を 800 MB のサイズに再設定するには、コントローラ 1 のコネクタ 0 ににある RAID-5 と物理ディスク 0 から 3 を使用します。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例では、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1 vdisk=4 raid=r5 size=800m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
```

SAS コントローラの例

この例では、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1 vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
```

omconfig 仮想ディスクポリシーの変更

仮想ディスクの読み取り、書き込み、またはキャッシュポリシーを変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=id vdisk=id [readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc> | writepolicy=<wb| wt| wc| nwc> |
cachepolicy=<d | c>]
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

コントローラ固有の読み取り、書き込み、およびキャッシュのポリシーに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。**omconfig** コマンドを使ってこれらのパラメータを指定する詳細については、以下を参照してください。

- [readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ（オプション）
- [writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>] パラメータ（オプション）
- [cachepolicy=<d | c>] パラメータ（オプション）

構文例

コントローラ 1の仮想ディスク 4 の読み取りポリシーを先読みなしに変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=1 vdisk=4 readpolicy=nra
```

omconfig 仮想ディスクの名前の変更

仮想ディスクの名前を変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： CERC SATA 1.5/2s コントローラでは、仮想ディスクのデフォルト名を変更できません。

完全な構文

```
action=rename controller=id vdisk=id name=<文字列>
```

id は **omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID、<文字列> は 仮想ディスクの新しい名前です。これらのコントローラ ID と仮想ディスク ID の値を得るためには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の名前を vd4 に変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=rename controller=1 vdisk=4 name=vd4
```

---

omconfig 物理ディスクのコマンド

以下の項では、物理ディスクのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-23. omconfig 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage pdisk	
	action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=unblink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>

	action=remove controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=initialize controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=offline controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=online controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=<yes|no>
	action=rebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=cancelrebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=removedeadsegments controller=id pdisk=<物理ディスク ID>

omconfig 物理ディスクの点滅

コントローラに接続している 1 つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ）を点滅させることができます。 1 つまたは複数の物理ディスクを点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
action=blink controller=ID action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 を点滅したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1 pdisk=0:0
```

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの点滅解除

コントローラに接続している 1 つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ）を点滅解除することができます。 1 つまたは複数の物理ディスクを点滅解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 を点滅解除したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを点滅解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1 pdisk=0:0
```

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを点滅解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの削除の準備

物理ディスクの削除を準備するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 の削除の準備をしたいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの削除を準備するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの削除を準備するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクの初期化

物理ディスクを初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 を初期化したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのオフライン化

物理ディスクをオフライン化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=id pdisk=コネクタID:ターゲット ID
```

id は **omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID、コネクタ ID : ターゲット ID はコネクタ番号と物理ディスク番号です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:3
```

omconfig 物理ディスクのオフライン化

物理ディスクをオフライン化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をオフライン化したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明した物理ディスクをオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクをオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのオンライン化

オフラインの物理ディスクをオンラインに戻すには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=online controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をオンラインに戻したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをオンラインに戻すには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをオンラインに戻すには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig グローバルホットスペアの割り当て

物理ディスクをグローバルホットスペアに割り当てるには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク> assign=yes
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアとして割り当てたいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:3 assign=yes
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig グローバルホットスペアの割り当て解除

物理ディスクをグローバルホットスペアに割り当て解除するには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=no
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアとして割り当て解除したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当て解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:3 assign=no
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当て解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:2:3 assign=no
```

omconfig 物理ディスクの再構成

エラーのある物理ディスクを再構成するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 ディスクの再構成には、数時間かかることがあります。 再構成をキャンセルする必要がある場合は、**再構成のキャンセル** タスクを使用します。 物理ディスクの再構成に関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 を再構成したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを再構成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクを再構成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル

進行中の再構成をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。 再構成をキャンセルした場合、仮想ディスクは状態が低下したままになります。 物理ディスクの再構成のキャンセルに関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 の再構成をキャンセルしたいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの再構成をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの再構成をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 無効セグメントの削除

使用できないディスクスペースを回復するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 無効セグメントの削除に関する詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 の無効なディスクセグメントを削除したいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの無効なセグメントを削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクの無効なセグメントを削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのクリア

次の **omconfig** コマンドを使用すると、物理ディスクからデータまたは設定をクリアできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をクリアしたいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SAS コントローラの例

この例で説明した物理ディスクをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスククリアのキャンセル

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスクで進行中のクリア操作をキャンセルできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<物理ディスク>** 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 のクリアをキャンセルしたいとします。 SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

SAS コントローラの例

この例で説明された物理ディスクのクリア操作をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=1 pdisk=0:2:3
```

---

omconfig バッテリのコマンド

以下の項では、バッテリのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-24. omconfig バッテリのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage battery	
	action=recondition controller=id battery=id action=startlearn controller=id battery=id action=delaylearn controller=id battery=id days=d hours=h

omconfig バッテリの修整

コントローラのバッテリを修整するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。 バッテリおよび修整プロセスの詳細については、Dell OpenManage のオンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=recondition controller=id battery=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリ ID です。 この値を得るためには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ IDを表示してから、**omreport storage battery controller=ID** と入力し、コントローラのバッテリの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のバッテリを修整するには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=recondition controller=1 battery=0
```

omconfig バッテリ評価サイクルの開始

次の **omconfig** コマンドを使用して、バッテリ評価サイクルを開始できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=id battery=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリ ID です。 この値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力しコントローラのバッテリの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で評価サイクルを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=1 battery=0
```

omconfig バッテリ評価サイクルの遅延

次の **omconfig** コマンドを使用して、指定された期間、バッテリ評価サイクルを遅延できます。 バッテリ評価サイクルは、最高 7 日間、つまり 168 時間、遅延できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=id battery=id

days=d hours=h
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリ ID です。 この値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力しコントローラのバッテリの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で 3 日と 12 時間評価サイクルを遅延させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=1 battery=0

days=3 hours=12
```

---

omconfig コネクタコマンド

以下の項では、コネクタのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-25. omconfig コネクタコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage connector	
	action=rescan controller=id connector=id

omconfig コネクタの再スキャン

コントローラコネクタを再スキャンするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。 このコマンドは、コントローラのすべてのコネクタを再スキャンするので、コントローラの再スキャンを実行するのと同じです。

メモ： このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage connector action=rescan controller=id connector=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID とコネクタ ID です。 これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage connector controller=ID** と入力し、コントローラに接続しているコネクタの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage connector action=rescan controller=1 connector=2
```

---

omconfig エンクロージャのコマンド

以下の項では、エンクロージャタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-26. omconfig エンクロージャのコマンド

必要なコマンドレベル（1、2、3）	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage enclosure	
	action=enablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=disablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=setassettag controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assettag=<文字列>
	action=setassetname controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assetname=<文字列>
	action=settempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id minwarn=n maxwarn=n
	action=resettempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id
	action=setalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> minwarn=n maxwarn=n
	action=resetalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=blink controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>

omconfig エンクロージャ警告を有効にする

エンクロージャ警告を有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャのアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=2
```

SAS コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクロージャ 2 のアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクロージャ警告を無効にする

エンクロージャ警告を無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャのアラームを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=1 enclosure=2
```

SAS コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクロージャ 2 のアラームを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクロージャ管理タグの設定

エンクロージャの管理タグを指定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assettag=<文字列>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続しているエンクロージャで管理タグを encl20 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=2 assettag=encl20
```

SAS コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 1 接続しているエンクロージャ 2 で管理タグを encl20 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=1:2 assettag=encl20
```

omconfig エンクロージャ資産名の設定

エンクロージャの資産名を指定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assetname=<文字列>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続しているエンクロージャについて資産名を encl43 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=2 assetname=encl43
```

SAS コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続しているエンクロージャ 2 について資産名を encl43 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=1:2 assetname=encl43
```

omconfig 温度プローブの設定しきい値の設定

指定した温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id minwarn=n maxwarn=n
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、「n」はユーザー指定の温度の値（摂氏）です。

構文例

たとえば、温度プローブ 3 の最小および最大の警告しきい値を、摂氏 10 と 40° に設定したいとします。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例では、温度プローブ 3 はコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにあります。 温度プローブのしきい値を摂氏 10 および 40° に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=1 enclosure=2 index=3 minwarn=10 maxwarn=40
```

omconfig 温度プローブしきい値のリセット

最小および最大の警告温度しきい値をデフォルトの値にリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、温度プローブ 3 のしきい値をデフォルト値にリセットしたいとします。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

この例では、温度プローブ 3 はコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにあります。 温度プローブ 3 のしきい値をデフォルト値にリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes controller=1 enclosure=2 index=3
```

omconfig すべての温度プローブの設定しきい値の設定

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> minwarn=n maxwarn=n
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、すべての温度プローブの最小および最大の警告しきい値を、摂氏 10 と 40Âã に設定したいとします。

SAS コントローラの例

この例では、温度プローブはコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあります。 すべての温度プローブのしきい値を摂氏 10 および 40Âã に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes controller=1 enclosure=2:3 minwarn=10 maxwarn=40
```

omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値をデフォルト値にリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

メモ： このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resetalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 のエンクロージャ 2 のすべての温度プローブのしきい値をリセットしたいとします。

SAS コントローラの例

この例では、温度プローブはコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあります。 すべての温度プローブのしきい値 をリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=resetalltempprobes controller=1 enclosure=2:3
```

omconfig 点滅

次の omconfig コマンドを使用すると、エンクロージャの 発光ダイオード（LED）を点滅できます。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。 **<エンクロージャ ID>** 変数は、エンクロージャを指定します。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャの LED を点滅にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2
```

SAS コントローラの例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 の LED を点滅にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2:3
```

目次ページに戻る